



Microsoft® Office 2010
ファイルフォーマットおよび
ドキュメントレイアウトの互換性について

2010年6月

目次

はじめに.....	4
Microsoft Office 2010 で採用されているファイル形式.....	7
Open XML 形式について	7
互換モードと互換性チェック.....	11
Office 互換機能パックについて	16
Office 互換機能パック利用時の注意点.....	19
その他のアプリケーションのファイル形式について	25
Microsoft Office 2010 のセキュリティ	29
Microsoft Office 2010 のセキュリティの概要	29
セキュリティ センター.....	33
暗号化.....	34
Information Rights Management	39
マクロ・ActiveX のセキュリティ	41
Microsoft Office 2010 の変更点	42
Microsoft Office 2010 の新機能.....	42
新しいユーザー インターフェイス「リボン」	42
描画エンジン	50
PDF/XPS および ODF フォーマットのサポート.....	52
Microsoft Office 2010 で変更、削除された機能	53
64 ビット版 Microsoft Office 2010 について	65
ファイル相互利用時の注意点.....	67
ファイルサイズについて	67
描画エンジンによる影響	67
印刷モードと図形オブジェクトの印刷品質	80
グラフのスタイル.....	87
その他の注意点	90
OS との関係.....	111
JIS X 0213:2004 (JIS2004) 対応について	111

Microsoft Office 2010 の JIS 2004 対応状況と注意点	113
メイリオフォントの利用について.....	119
Internet Explore での Microsoft Office 2010 ドキュメントの表示について	122
まとめ	123
その他の詳細情報	124
Office 互換機能パックでの機能制限	124
高品質モードでの印刷	131
参考資料	134
Office 2010 の KB	135
付録 1. Office 互換性チェックリスト	136

はじめに

Microsoft® Office 2010 では、ユーザーから寄せられるフィードバックや操作履歴データの分析にもとづき、操作性やパフォーマンスを向上しています。Microsoft Office 2007 の特長の1つであった新しいユーザー インターフェイスを全アプリケーションに採用し、大幅に強化されたグラフィック機能も引き続き採用しています。また、Microsoft Office 2007 から採用された Open XML 形式と呼ばれる新しいファイル形式を引き続き利用することで、Microsoft Office 2010 の新しい機能を最大限に活用することが可能となります。

本ドキュメントでは、主な対象バージョンを Microsoft Office 2003 とし、Microsoft Office 2010 との機能差、や互換性に関連する情報をまとめています。また、Office 2003 の Microsoft Word、Microsoft Excel®、Microsoft PowerPoint® で作成したファイルを、Office 2010 のそれぞれのアプリケーションで表示した際の見た目の違いなども記述しています。

組織の中で、Microsoft Office を利用したクライアント端末の環境を管理されている方が、今後 Office 2010 を導入・展開して頂く際に参考にしていただけるドキュメントです、付録としてファイル互換性チェックリストも掲載しております。マクロ互換性をまとめたホワイトペーパーと共に Office 2010 のスムーズな導入に向けた参考資料としてご利用ください。

以下に、本ドキュメント内で使用する製品の名称と略称を記述します。

- Microsoft Office 2010 (Office 2010)
- Microsoft Access® 2010 (Access 2010)
- Microsoft Excel 2010 (Excel 2010)
- Microsoft InfoPath® 2010 (InfoPath 2010)
- Microsoft Input Method Editor 2010 (IME 2010)
- Microsoft Outlook® 2010 (Outlook 2010)
- Microsoft PowerPoint 2010 (PowerPoint 2010)
- Microsoft Publisher 2010 (Publisher 2010)
- Microsoft SharePoint Server® 2010 (SharePoint Server 2010)
- Microsoft Visio® 2010 (Visio 2010)
- Microsoft Word 2010 (Word 2010)
- Microsoft Office 2007 (Office 2007)
- Microsoft Office 2003 Editions (Office 2003)
- Microsoft Office 2000 Editions (Office 2000)
- Word/Excel/PowerPoint ファイル形式用 Microsoft Office 互換機能パック (Office 互換機能パック)
- Visual Basic® for Application (VBA)

著作権

このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。変化する市場状況に対応する必要があるため、このドキュメントは、記載された内容の実現に関するマイクロソフトの確約とはみなされないものとします。また、発行以降に発表される情報の正確性に関して、マイクロソフトはいかなる保証もいたしません。

このホワイトペーパーに記載された内容は情報提供のみを目的としており、明示または黙示に関わらず、これらの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。

お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。このドキュメントのいかなる部分も、米国 Microsoft Corporation の書面による許諾を受けることなく、その目的を問わず、どのような形態であっても、複製または譲渡することは禁じられています。ここでいう形態とは、複写や記録など、電子的な、または物理的なすべての手段を含みます。ただしこれは、著作権法上のお客様の権利を制限するものではありません。

マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の無体財産権に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

別途記載されていない場合、このドキュメントで使用している会社、組織、製品、ドメイン名、電子メールアドレス、ロゴ、人物、場所、出来事などの名称は架空のもので、実在する名称とは商品名、団体名、個人名などとは一切関係ありません。

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Office、Office 、Office 2010、Office 2007、Office 97、Office 2000、Office XP、Office 2003、Word、Excel、PowerPoint、Access、InfoPath、Outlook、Visio、Visual Basic、MSDN、SharePoint、IntelliSense、Windows、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

Microsoft Office 2010 で採用されているファイル形式

この章では、Office 2010 で採用されている OpenXML の概要と、以前のファイル形式に対応した Office との共存方法や、その際の注意点について説明します。

Open XML 形式について

Office 2010 では、Office 2007 で採用された、堅牢でオープンスタンダードに基づく新しい XML (拡張マークアップ言語) 形式である Open XML 形式が導入されています。

Open XML の ISO 標準化について

Open XML は、2008 年 4 月に ISO(国際標準化機構)と IEC(国際電気標準会議)において、ISO/IEC 29500 として標準化されました。これにより、Open XML は、ISO と IEC によって認められたオープンな文書フォーマット規格となります。

➔ 「Ecma Office Open XML 文書フォーマットが ISO/IEC 標準として承認される」

<http://www.microsoft.com/japan/presspass/detail.aspx?newsid=3408>

コンピューター上で扱われるさまざまなファイルは、これまでアプリケーションやプラットフォームごとに独自のファイル形式が採用されていました。しかし、情報通信技術が企業から一般家庭まで幅広く普及する中で、異なるコンピューター環境で文書ファイルを自由に交換できる利便性、つまり「相互運用性」が求められるようになってきました。ファイルフォーマットを国際標準化することで、他社も Microsoft Office 製品と互換性のあるアプリケーションを自由に開発することができ、これにより相互運用性が高まり、効率的で利便性の高い情報通信技術環境を実現することができます。

Open XML を利用するメリット

Open XML を利用するにあたり、以下のような利点があります。

➤ コンパクトなファイルサイズ

Open XML 形式は、ZIP 圧縮技術を使用してドキュメントを格納するため、ファイルの格納に必要なディスク容量を削減できます。ドキュメントの保存時に自動的に圧縮され、最大で約 75% のファイルサイズを削減できます。ファイルを開く際にも自動的に解凍され、特別な圧縮解凍ユーティリティは必要ありません。

➤ 破損ファイル回復機能の強化

ファイルの構造は、モジュール形式で、異なるデータ コンポーネントはファイル内で個別に保存されます。グラフや表など、一部のコンポーネントが破損しても、ファイルを開くことができます。

➤ マクロを含むドキュメントを簡単に識別

ファイルの拡張子によって、ドキュメント内にマクロが含まれるかどうかを簡単に識別できます。また、これらの埋め込みコードは、ファイル内の独立したセクションに格納されるので、容易に識別して特別な処理を行うことができ、ユーザーがドキュメントを開く際の安全性が高まります。

➤ 個人情報の保護と管理の強化

作成者名、コメント、変更履歴、ファイルパスなどの個人を特定できる情報や IT 環境などの社内情報を、ドキュメント検査を実行することによって簡単に特定したり削除したりできます。それにより、共有するドキュメントのセキュリティ性が高まります。

➤ ビジネス データとの統合性と相互運用性の向上

Open XML 形式は、オープンスタンダードに基づく XML 形式です。ユーザー定義による XML スキーマもサポートしており、既存のビジネス データを Office アプリケーション上で利用できます。また、Office 2010 で作成された情報を、他のビジネス アプリケーションでも再利用することができ、異なるビジネス環境間でデータの受け渡しに利用することが可能です。

➤ 以前のバージョンとの互換性

Office 互換機能パックをインストールすることによって、Office 2000、Office XP、および Office 2003 のユーザーは、新しい XML 形式のドキュメントを開いて、編集し、保存できるようになりますが、互換性のない機能の一部は無効になります。

Open XML 形式は、業界標準の XML、および ZIP 圧縮技術に基づき、無償のライセンスを通じて利用することができます。このファイル形式の仕様は公開され、Office 2003 リファレンス スキーマと同様に無償で入手可能です。このファイル形式を利用する際に Office 2010 は必須ではなく、ユーザーは、各自の選択した環境で情報を扱うことが可能となります。

既存のファイル形式との共存を容易とするため、Office アプリケーションや、関連ツールは、以下の点についても考慮され、提供されています。

- 互換性のない機能の一部を無効化
Office 2003 以前のバージョンの Office で作成されたファイルは、Office 2010 でも利用可能です。互換モードを利用すれば、Office 2003 以前のバージョンと互換性のない機能の一部をあらかじめ無効化できます。
- Office 2010 の新しい形式のファイルの編集ができる
Office 互換機能パックをインストールすることで、Office 2010 の新しい形式のファイルを、以前のバージョンの Word、Excel、および PowerPoint で閲覧、編集、保存することができますが、互換性のない機能の一部は無効になります。
- Office 2010 の機能の一部を変換
Office 2010 でのみ利用可能な機能の一部は、以前のバージョンの Office で表示できるように変換されます。以前のバージョンの Office で参照したあと、再び Office 2010 で編集することも可能です。
- Office 2010 への移行作業の軽減
Office Migration Planning Manager (OMPM) によって、Office 2010 への移行による既存ドキュメントへの影響を評価したり、ファイルを一括変換したりすることが可能です。

Open XML 形式に基づく新しい拡張子

Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 では、Office 2010 の Open XML 形式に基づいて、新しいファイルの種類と拡張子が使用されます。

新しい拡張子は、以前の拡張子に基づき、マクロ有効ファイルとマクロなしのファイルを区別するための文字が追加されています。例えば、拡張子 .docx はマクロなしのファイルを示し、拡張子 .docm はマクロ有効ファイルを示します。

Word 2010 で利用可能な新しいファイル形式	
.docx	Word 文書 ※Word 2010 の既定のファイル形式
.docm	Word マクロ有効文書
.dotx	Word テンプレート
.dotm	Word マクロ有効テンプレート
Excel 2010 で利用可能な新しいファイル形式	
.xlsx	Excel ブック ※Excel 2010 の既定のファイル形式
.xlsm	Excel マクロ有効ブック
.xltx	Excel テンプレート
.xltm	Excel マクロ有効テンプレート
.xlsb	Excel バイナリブック
.xlam	Excel アドイン
PowerPoint 2010 で利用可能な新しいファイル形式	
.pptx	PowerPoint プレゼンテーション ※PowerPoint 2010 の既定のファイル形式
.pptm	PowerPoint マクロ有効プレゼンテーション
.ppsx	PowerPoint スライドショー
.ppsm	PowerPoint マクロ有効スライドショー
.potx	PowerPoint テンプレート
.potm	PowerPoint マクロ有効テンプレート
.ppam	PowerPoint アドイン

表 : Office 2010 の新しいファイル形式

互換モードと互換性チェック

複数のバージョンの Office 間でドキュメントを共有する必要がある場合に、Office 2010 の機能である互換モードと互換性チェックを利用することで、ドキュメントの相互互換を確保することができます。

互換モード

Office 2010 には、Office 2007 と同様に、互換モードという機能があり、Office 2003 以前のバージョンとの下位互換性を高めています。このモードでは、以前のバージョンの Office アプリケーションで表示できない Office 2010 の多くの機能が無効になります。また、Office 97-2003 互換形式で保存したときに正しく変換できない機能も無効になります。どの機能が無効になるかは、アプリケーションの種類と選択したコンテンツによって異なります。

Office 2010 のアプリケーションが互換モードで動作しているときは、タイトルバーに「互換モード」と表示されます。また、互換モードで有効になる機能を詳細に説明するために、拡張ヒントが提供されます。



図：互換モード動作時の Excel2010 のタイトルバー

互換モードは、ドキュメント単位で有効になります。例えば、PowerPoint 2003 で作成された PowerPoint 97-2003 形式のファイルと、PowerPoint 2010 の Open XML 形式で作成されたファイルとを、同時に PowerPoint 2010 で開いた場合、PowerPoint 97-2003 形式のファイルは、互換モードが有効な状態でファイルが開かれ、Open XML 形式のファイルは、互換モードが無効な状態でファイルが開かれます。

互換モードは、以下の状況で有効になります。

Office 2010 での動作	Word 2010	Excel 2010	PowerPoint 2010
Office 97-2003 形式を使って保存されたファイルを開く	○	○	○
[名前を付けて保存] を使って、Office 2010 形式を Office 97-2003 互換形式に変換する	○	○	○

Office 2010 での動作	Word 2010	Excel 2010	PowerPoint 2010
アプリケーションを既定で Office 97-2003 互換形式で保存するように設定する	—	○	○
Office 97-2003 形式のテンプレート (.xlt、.dot ファイル) に基づいて新規ドキュメントを作成する	○	○	—
[互換モードでファイルを作成する] オプションを設定して、新規ドキュメントを作成する	○	—	—
Word 2007 で保存された OpenXML 形式のファイルを開く	○	—	—
[以前のバージョンの Word との互換性を保持する] オプションが有効となっている Open XML 形式のファイルを開く	○	—	—

表：互換モードが有効となる Office 2010 の操作

また、Word 2010 で .doc 形式のファイルを .docx 形式で保存する際、ダイアログボックスに [以前のバージョンの Word との互換性を保持する] オプションが表示されます。このオプションをオンにすることで、Open XML 形式で保存しても互換モードで表示することが可能となり、以下の機能の使用が制限されます。

- Word 2010 の新機能 → 使用不可となる
 - 図の修正オプション
 - アート効果オプション
 - 背景の削除
 - 写真のレイアウト オプション
- Word 2010 で改善された機能 改善された機能 0 ン限されと同等の機能に制限される
 - 図形の効果
 - WordArt
 - 図形・テキスト ボックス内のテキストの効果

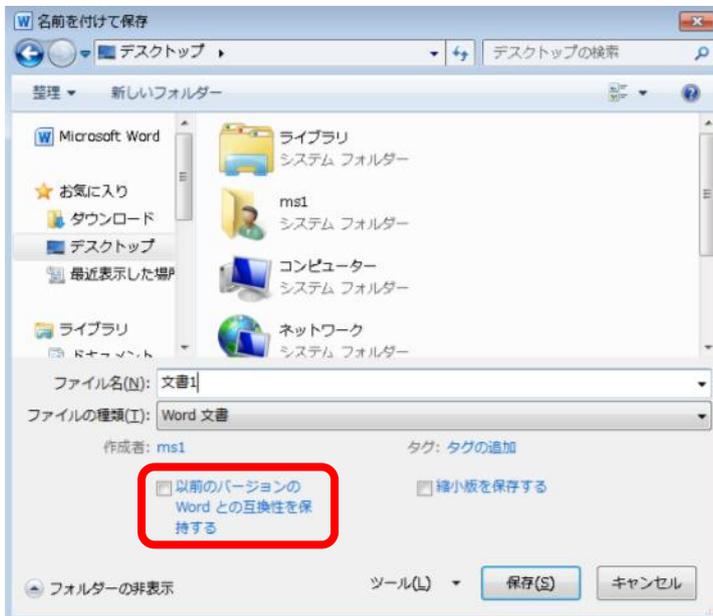


図 : Word 2010 の [以前のバージョンの Word との互換性を保持する] オプション

互換モードの目的

互換モードの主要な目的は、以前のバージョンの Office においてドキュメントの視覚的な再現性を実現することです。互換モードで開くファイルでは、コンテンツが自動的に変換されることはありません。互換性のないコンテンツが追加されないように、Office 2010 の一部の新機能は制限されます。例えば、Excel 2010 の互換モードでは、以前のバージョンの Excel では扱うことが不可能な範囲にあるセルに入力を行うことができません。

Office 2010 で作業中に、以前のバージョンでサポートされないコンテンツ (グラフ、図表、数式、引用など) を貼り付けようとする、そのコンテンツは、以前のバージョンの Office での互換性を持つように機能が制限されます。この場合、一部の機能は、Office 2010 の通常モードに戻したときに更新が可能です。

互換性チェック

Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 には、以前のバージョンの Office で利用できない機能を検出するために、互換性チェック機能が追加されています。編集中のドキュメントを Office 97-2003 互換形式で保存する場合に、表示されなくなったり、編集できなくなったりするコンテンツが含まれていると、互換性チェック機能によって警告のダイアログボックスが表示されます。

ダイアログボックスには、以前のバージョンの Office でファイルを使用した場合に影響がでる可能性がある機能の一覧が表示されます。新しいファイル形式で作成したドキュメントを、Office 97-2003 互換形式で保存する際は、保存処理のキャンセル又は、続行を選択することができます。

互換性チェック機能は、新しいファイル形式で作成したドキュメントを Office 97-2003 互換形式で保存するとき、または [ファイル] タブの [情報] - [問題のチェック] - [互換性チェック] をクリックしたときに起動します。

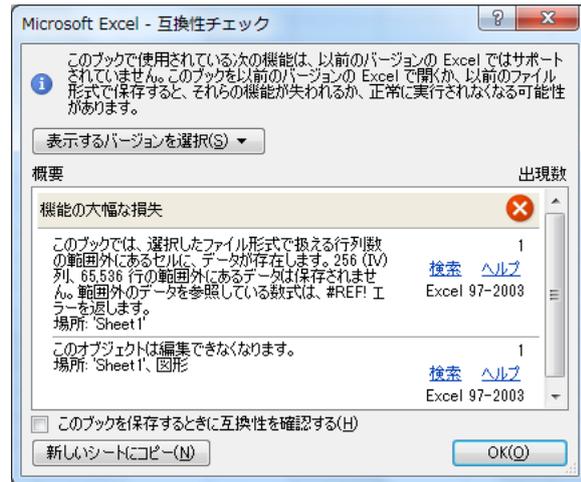
次の場合には、互換性チェックのダイアログボックスは表示されません。

- ドキュメント内にチェック可能な問題点がない。
- ドキュメントの互換性チェックをユーザーが無効にしている。

ファイルの保存時に互換性チェックを実行しないようにユーザーが設定している場合、[問題のチェック] から手動で互換性チェックを実行して、互換性チェックを再度オンにできます。

互換性チェックのダイアログボックスでは、互換性の問題の一覧は、次のようにグループ化されています。

- 機能の大幅な損失
Office 97-2003 互換形式で保存すると機能のデータが失われるなど大きな支障が生じる場合です。
- 再現性の低下
コンテンツの外観がわずかに変わる場合や、以前のバージョンの Office でのコンテンツ編集で若干の変更が生じる場合です。



図：互換性チェックのダイアログボックス

Office 互換機能パックについて

互換性の問題を最小限に抑えるための最適な方法は、単一のファイル形式に基づいて環境を標準化することですが、多くの組織では Office 2010 を段階的に展開する必要があったり、他の組織とのグループ作業が必要であったりします。このような理由から、Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 には、以前のバージョンの Office との互換性を保つ機能が含まれています。同様に、Office 2007 にも、以前のバージョンの Office との互換性を保つ機能が含まれています。また、Office 2003 以前のバージョンの Office に対して提供される Office 互換機能パックを使用して下位互換性を保つことによって、Office 2003 以前のバージョンの Office で Open XML 形式のファイルを開いたり、保存したりすることができるようになります。さらに、新しいオープンなファイル形式によって、Microsoft Office 以外のアプリケーションとの相互運用性も向上しています。

Office 互換機能パックを使用する

Office 2010 および Office 2007 と Office 2003 以前のバージョンの Office の相互運用性を向上させるために、マイクロソフトでは、Office 2000、Office XP、Office 2003 を使用しているユーザーが Open XML ファイル形式の編集・保存をできるように Office 互換機能パックを提供しています。Office 互換機能パックは、Office 2010 用、Office 2007 用という区別はなく、両方のファイルフォーマットに対応しています。Office 互換機能パックは、次の場所からダウンロードできます。

➔ 「Word/Excel/PowerPoint ファイル形式用 Microsoft Office 互換機能パック」

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyId=941b3470-3ae9-4aee-8f43-c6bb74cd1466>

Windows 2000 上で動作をさせるには以下のパッチも合わせて適用してください。

➔ 「2007 Office system 修正プログラム パッケージ (none.msp-Mso-x)」

<http://support.microsoft.com/kb/981041/>

➤ Office 2000 がインストールされている環境での動作

Word 2000 のユーザーは、Office 互換機能パックにより、Open XML 形式を直接開いて編集、および保存ができるようになります。Excel 2000、および PowerPoint 2000 のユーザーは、Office 互換機能パックにより、Open XML 形式を直接開いて閲覧できるようになります。また、Office 互換機能パックを利用することで、エクスペローラーから Open XML 形式と Office 97-2003 互換形式とのファイル形式変換が可能です。

これにより、Open XML 形式で保存されたドキュメントを受け取ったときに、Office 97-2003 互換形式に手動で変換して、作業が完了したら Open XML 形式に戻すことができます。

➤ Office XP、および Office 2003 がインストールされている環境での動作

Office XP、および Office 2003 のユーザーは、Office 互換機能パックにより、Open XML 形式を直接開いて編集、および保存ができるようになります。

Open XML 形式の拡張子が、Word、Excel、PowerPoint の[ファイルを開く]、[名前をつけて保存]、および [上書き保存] のダイアログ ボックスに追加され、これらのアプリケーションの既定のファイル形式として設定することも可能です。また、エクスプローラーから Open XML 形式と Office 97-2003 互換形式とのファイル形式変換も可能です。

Office 互換機能パックでサポートされていない機能

Office 2010 の一部の機能は、Office 2003 以前のバージョンではサポートされていません。Open XML 形式のファイルを以前のバージョンの Office で開いて保存したときに、一部のデータが失われる可能性があります。このような場合は、Open XML 形式を使用して作成されたファイルを編集、または保存するときに、ダイアログ ボックスが表示されます。

Office 互換機能パックは、ファイル形式変換の機能を提供するものです。主に Open XML 形式のファイルを以前のバージョンの Office で参照する目的で活用していただくことを想定しています。

Office Migration Planning Manager と Office File Converter を利用する

Office 2010 では、Open XML 形式への移行をサポートするツールとして、Office Migration Planning Manager (OMPM) を提供しています。

OMPM は、組織内に存在する Office 97-2003 形式のファイルを検索し、分析することで、システム管理者に対して Open XML 形式への移行時に影響を与える互換性問題に関する情報を提供します。また、OMPM に付属する Office File Converter (OFC) は、複数の Office 97-2003 形式のファイルを Open XML 形式へ一括してファイル形式変換を行う機能を提供します。

OMPM の分析結果を元に OFC でファイル形式変換を行うことも可能で、組織内のドキュメントを Open XML 形式に移行する際に行う一連の作業をサポートします。

ただし、OMPM は英語版のみの提供になるため、フォルダー名に日本語などの全角文字を含むフォルダーは分析・変換の対象外となります。ファイル名に日本語などの全角文字を含むファイルは結果レポートでは文字化けして表示されますが、変換は行なわれず。

詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Office 2010 の Office Migration Planning Manager (OMPM) の概要」

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179179\(office.14\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179179(office.14).aspx)

Office 互換機能パック利用時の注意点

Office 互換機能パックの利用にあたっては、以下の点に注意が必要です。本ドキュメントの「[ファイル相互利用時の注意点](#)」もあわせてご参照ください。

Word、Excel、PowerPoint 共通の注意点

Office 2003、Office XP、および Office 2000 と Office 互換機能パックがインストールされている環境で、読み取りパスワードを設定し、[詳細設定] ボタンから暗号化プロバイダーを設定して Open XML 形式で保存すると、[詳細設定] で設定した暗号化プロバイダーが使用されず、既定の [Microsoft Enhanced RSA and AES Cryptographic Provider] を使用して暗号化が行われます。詳しくは、本ドキュメントの「[暗号化](#)」を参照してください。

Word の注意点

Word 2010 で作成した Open XML 形式のファイルを Word 2003、Word 2002、および Word 2000 で Office 互換機能パックを使用して開いた場合、次のような制限が生じます。これは、Office 互換機能パックがファイル形式変換を行う際に、中間ファイル形式としてリッチ テキスト形式 (RTF) を使用するためです。もともと Word 2003、Word 2002、および Word 2000 には Open XML 形式で読み込む機能は装備されていません。中間ファイル形式として RTF に変換することによって Word 2003、Word 2002、および Word 2000 でも読み込めるようにしています。

➤ 特定の記号に設定したフォントが変わる

半角ハイフン、脚注参照などを表すマークのフォント指定が Times New Roman になります。 詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Office 2007 で指定したフォントが以前のバージョンの Office で開くと異なるフォントに変更される」

(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/937785/JA>

また、本ドキュメントの「[コントロールコードなどのフォントが変更される](#)」も参照してください。

➤ 文書保護のパスワードがなくなる

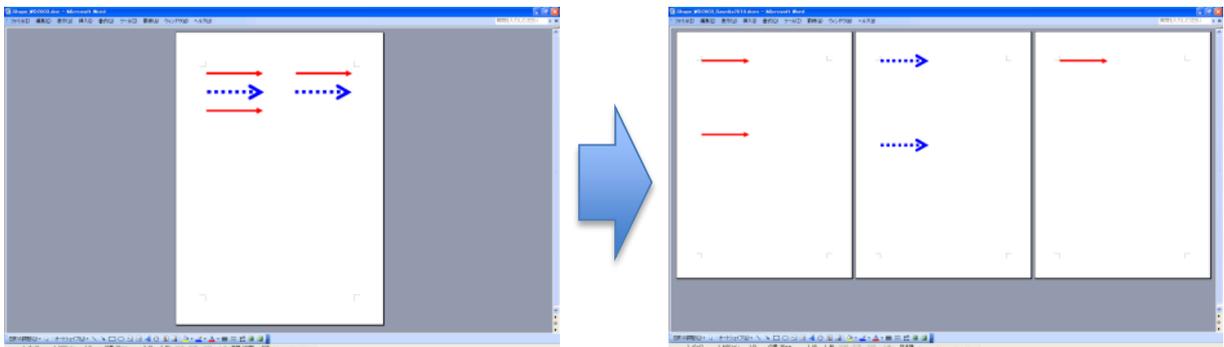
Word 2010 で作成した、読み取り専用などの文書保護のパスワードを付けた Open XML 形式のファイルを、Word 2003、Word 2002、および Word 2000 で Office 互換機能パックを使用して開いた場合、パスワードが失われます。Office 互換機能パックで、ファイル形式を変換する際の間中ファイル形式として使用されている RTF では、パスワードをサポートしていないためです。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Word 2003、Word 2002、Word 2000 で互換機能パックを使用して Word 2007 文書の文書保護を解除する時にパスワードの入力を要求されない」 (Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/935282/ja>

➤ 図形の位置が変化する場合がある

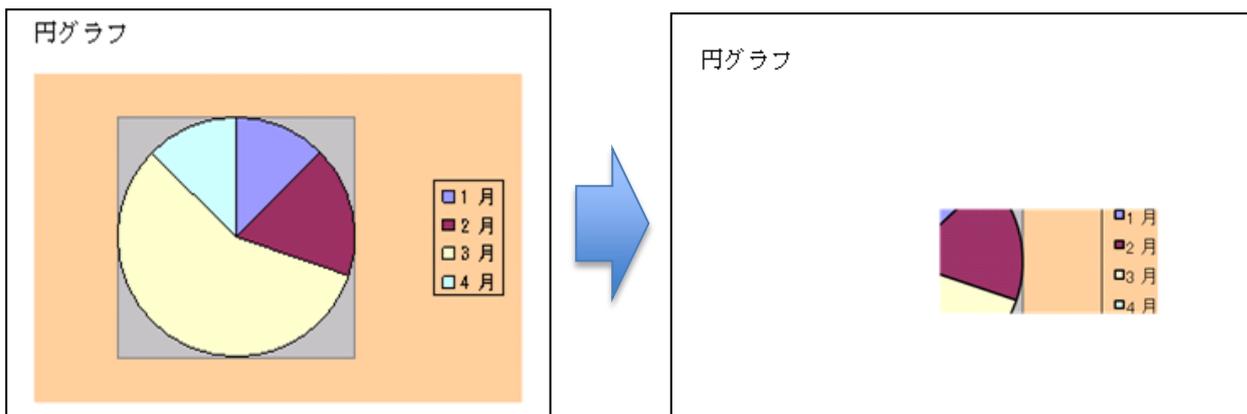
Word 2003、Word 2002、および Word 2000 で作成したファイルを Word 2010 で開き、Open XML 形式のファイルで保存後、Office 互換機能パックを使用して再度 Word 2003、Word 2002、および Word 2000 でファイルを開いた場合、図形の表示位置が変化することがあります。



図：図形の位置が変化する

➤ 円グラフが欠ける場合がある

Word 2003、Word 2002、および Word 2000 で作成したファイルを Word 2010 で開き、Open XML 形式のファイルで保存後、Office 互換機能パックを使用して再度 Word 2003、Word 2002、および Word 2000 でファイルを開いた場合、円グラフが欠けて表示される場合があります。

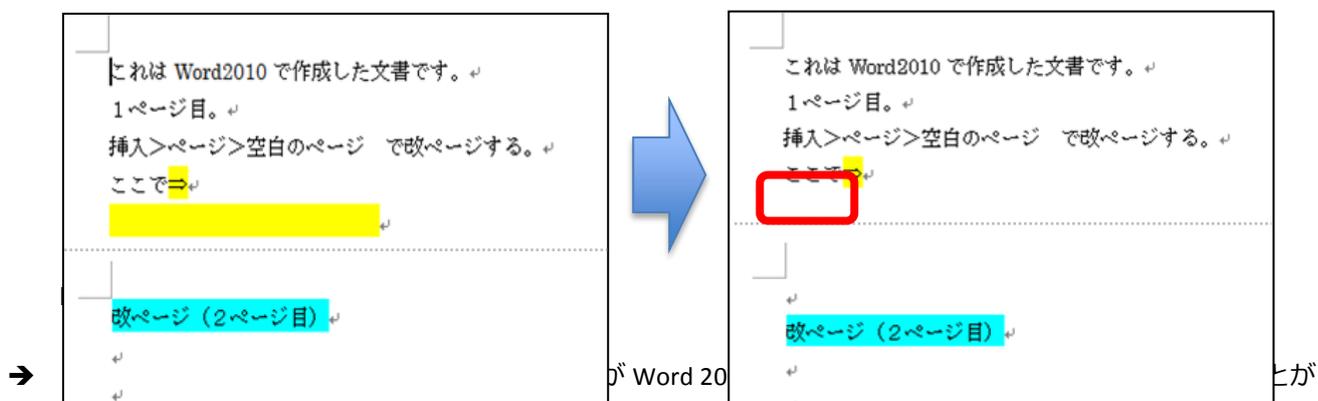


図：円グラフが欠ける

➤ 改ページの上に改行が追加される場合がある

Word 2010 で作成した、Open XML 形式のファイルを、Word 2003、Word 2002、および Word 2000 で Office 互換機能パックを使用して開いた場合、改ページの上に改行が追加される場合があります。

Word 2010 では、ページ区切りと段落記号を同じ行に配置できます。しかし、Word 2003 以前では、ページ区切りと段落記号は別の行に配置する必要があります。このため、文書のレイアウトが、Word 2010 と Word 2003 以前とで異なることがあります。詳しくは以下を参照してください。

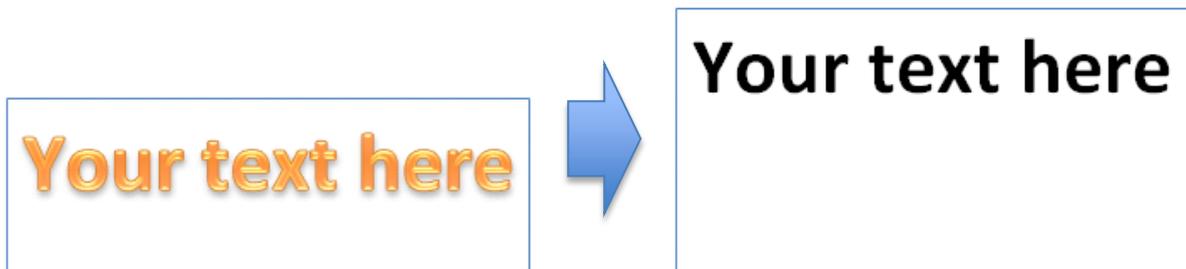


ある」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/923183/ja>

- WordArt の表示が変化する場合があります

Word 2010 で作成したテキストボックス、WordArt を Word 97-2003 形式で保存して、Word 2003 以前で開いた場合、高さが広がってしまう場合があります。



図：WordArt の表示が変化する

Excel、PowerPoint の注意点

- 変更履歴が表示されず、ブックの共有が解除される

Excel 2010 で作成された変更履歴がある共有のブックを、Office 2003 以前のバージョンの Excel で共有ブックとして開くことはできません。Office 2003 以前のバージョンの Excel で Office 互換機能パックを使用してブックを開いた場合、読み取り専用で開きます。変更履歴の表示と設定変更およびブックの共有をすることはできません。すべてのブック機能を使用可能とするには、ブックを Excel 97-2003 互換形式で保存する必要があります。

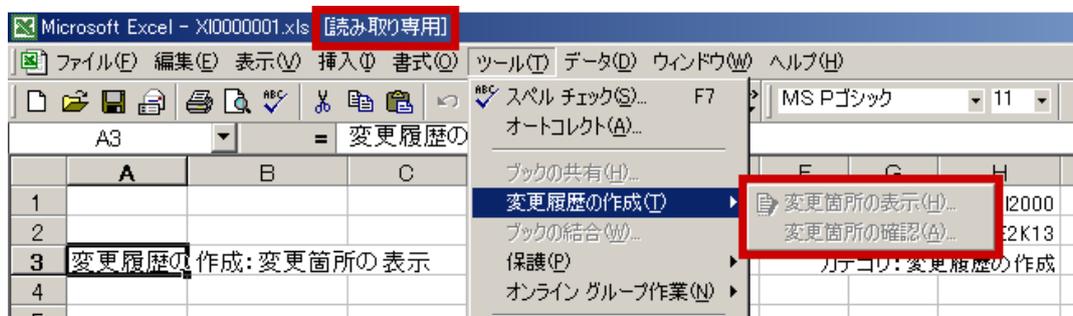


図: 変更履歴が表示されない

- ピボットグラフのコンボボックスがなくなる

Excel 2003、Excel 2002、および Excel 2000 で作成したファイルを Excel 2010 で開き、Open XML 形式のファイルで保存後、Office 互換機能パックを使用して再度 Excel 2003、Excel 2002、および Excel 2000 でファイルを開いた場合、ピボットグラフのコンボボックスが表示されなくなります。詳しくは以下を参照してください。

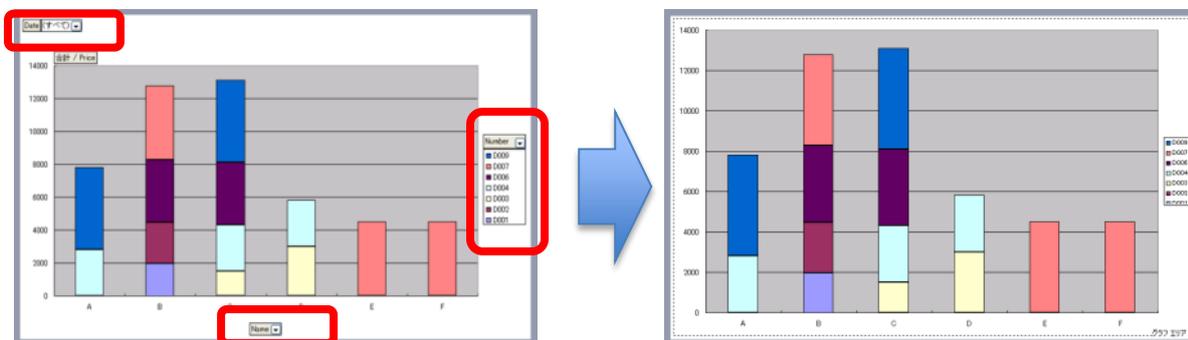


図: ピボットグラフのコンボボックスがなくなる

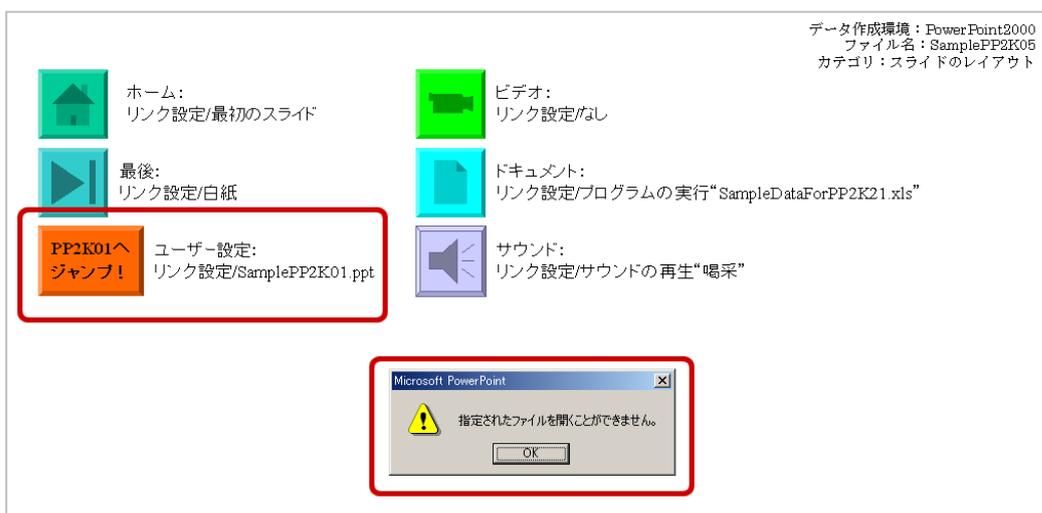
➔ 「Excel 2010 で Excel 2003 ブックを保存した後、ピボットグラフでレポート フィルターが見つからない」
<http://support.microsoft.com/kb/983268/ja>

回避する方法として、[ツールバー] – [ピボットテーブル] – [ピボットグラフ] – [ピボットグラフのフィールド ボタンを表示しない]のチェックを外すことで、表示されなくなったコンボ ボックスを表示することができます。

➤ リンク貼り付けのオブジェクトがリンク エラーを起こす

PowerPoint 2010 で作成した、外部のオブジェクトへのリンクを挿入している (動作ボタンからのリンクを含む) Open XML 形式のファイルを、Office 互換機能パックを使って PowerPoint 2000 で開くと、リンク情報が失われ、ファイルからオブジェクトが開けなくなります。また、外部のオブジェクトへのリンクを挿入している Excel 2010 で作成した Open XML 形式のファイルを、Office 互換機能パックを使って Excel 2000 で開いた場合も、同様の現象が発生します。

例えば、PowerPoint 2000 で Office 互換機能パックを使用して Open XML 形式のファイルを開く際、Office 互換機能パックは、「C:\Documents and Settings%\User%\Local Settings\Temp」を一時ディレクトリとしてファイルを変換し、PowerPoint に処理を渡します。以前のバージョンの Excel で Office 互換機能パックを使用して Open XML 形式のファイルを開く場合も、同様に一時ディレクトリを経由して変換されます。つまり、ファイルの場所が、一時ディレクトリ内に移動するため、オブジェクトへの相対パスが実質無効になってしまいます。Office 互換機能パックには、リンク オブジェクトのパスを更新したり、編集したりする機能がありません。ファイルを Office 2000 の Excel、または PowerPoint で開いたあと、リンクの編集を行ってください。



図：リンク貼り付けのオブジェクトがリンクエラーを起こす

その他のアプリケーションのファイル形式について

Access のファイル形式について

Access 2010 では、新しいファイル形式を使用しています。Access 2003 以前のバージョンの .mdb ファイルは Access 2010 で開くことはできますが、Access 2010 の .accdb ファイルは Access 2003 以前のバージョンでは開くことはできません。また、Access には互換機能パックも提供されていないため、Access 2003 以前のバージョンで、開くことが予想されるファイルを作成する場合は、Access 2002-2003 形式で保存をする必要があります。

また、Access 2010 の新機能が使用されている場合、Access 2002-2003 形式で保存する事ができません。この場合は、新機能の使用を控えてから、再度ファイル保存を行ってください。[ファイル] タブの [保存して発行] - [データベースに名前を付けて保存] で [Access 2002-2003 データベース (*.mdb)] をクリックすることにより Access 2002-2003 形式で保存することができます。

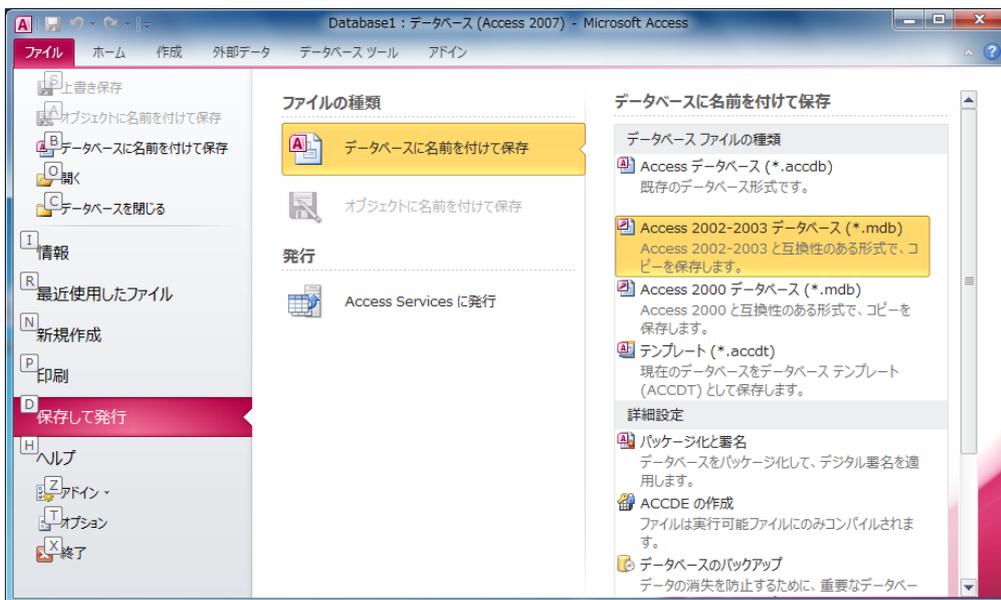


図 : Access 2010 で作成したデータベースを、Access 2002-2003 形式で保存

Access 2010 で利用可能な新ファイル形式と、Access 2002-2003 形式で保存時の注意事項について以下に記します。

Access 2010 で利用可能な新しいファイル形式と Access 2002-2003 形式で保存時の注意事項	
.accdb	Access データベース ※Access 2010 の既定のファイル形式 標準的な Access 2010 ファイル形式です。以前の .mdb に代わるものです。 この形式は Access 2002-2003 形式で保存することが出来ません。 ただし、Access 2010 の新機能が使用されると、Access 2002-2003 形式で保存できません。 Access 2002-2003 形式で保存する場合は、Access 2010 の新機能を使用しないでください。
.accde	Access データベース 実行専用モード 実行専用モードの Access 2010 ファイル形式です。以前の .mde に代わるものです。 この形式は Access 2002-2003 形式で保存することが出来ません。 保存するには実行専用モードにする前の .accdb 形式のファイルを使用してください。
.accdt	Access データベース テンプレート データベーステンプレートの Access 2010 ファイル形式です。 この形式は Access 2002-2003 形式で保存することが出来ません。 保存するにはテンプレートを用いて作成した .accdb 形式のファイルを使用してください。
.accdr	Access データベース ランタイムモード ランタイムモードで開くための Access 2010 ファイル形式です。 この形式は Access 2002-2003 形式で保存することが出来ません。

表 : Access 2010 で利用可能な新しいファイル形式と Access 2002-2003 形式で保存時の注意事項

Access のファイル形式における注意点

ここでは、Access 2010 のファイル形式における注意点を説明します。

- Access 2002-2003 形式で保存したファイルが開けない
Access 2010 ではレポートの最後に空のエントリーを表示するようにレポートの形式が変更されています。
Access 2003 は、Access 2010 で作成された 2002-2003 形式のデータベースを開くことができますが、レポートを含んでいる場合は、この変更を適切に処理できないためレポートを開く際にクラッシュしてしまいます。

この問題を解決するための回避策は、Access 2010 で作成したレポートを含むデータベースを Access 2010 または Access 2007 がない環境で利用するには、Access 2002-2003 形式で保存する代わりに、Microsoft Access 2010 Runtime を使用してください。

➔ 「Microsoft Access 2010 Runtime」

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=57a350cd-5250-4df6-bfd1-6ced700a6715>

OneNote のファイル形式について

OneNote 2010 では、新しいファイル形式を使用しています。OneNote 2010 の新機能の中には、数式、バージョン管理、リンク ノートの作成など、この新しい形式を必要とするものがいくつもあります。また、新しいファイル形式では、Web 上でノートブックを共有できるので、Web ブラウザーを使用してノートブック ファイルを表示したり編集したりできます。OneNote 2010 でノートブックを作成すると、そのファイルは既定では OneNote 2010 の新しいファイル形式で保存されます。

OneNote 2010 では、OneNote 2007 のファイル形式で保存されたノートブックの表示、編集だけでなく、OneNote 2007 形式から OneNote 2010 形式への変換、OneNote 2010 形式から OneNote 2007 形式への弱変換を行うこともできます。詳細については、「[OneNote 2007 のノートブックのアップグレード](#)」を参照してください。

OneNote 2003 のファイル形式を使用しているノートブックは、OneNote 2010 では読み取り専用です。つまり、OneNote 2010 や OneNote 2007 では、OneNote 2003 形式を使用しているファイルを編集できなくなります。詳細については、「[OneNote 2003 のノートブックのアップグレード](#)」を参照してください。

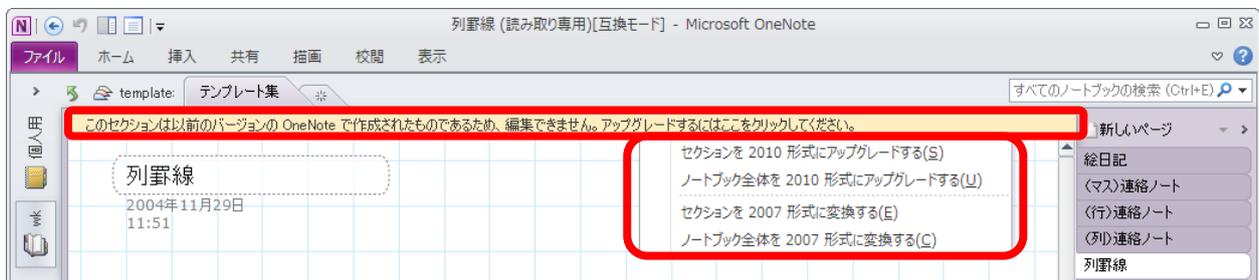
➤ OneNote 2007 のノートブックのアップグレード

OneNote 2007 のノートブックは、新しいファイル形式に変更しなくても、OneNote 2010 で表示、編集することができます。OneNote 2007 から OneNote 2010 にアップグレードした場合、OneNote 2007 の既存のノートブックは既定では自動的に変換されません。OneNote 2010 のファイル形式で保存されたノートブックを、OneNote 2007 で開いて使用することはできません。ただし、OneNote 2010 上で、OneNote 2007 のファイル形式で保存した場合、OneNote 2007 で開いて使用することができます。

OneNote 2010 を使用していない OneNote 2007 ユーザーとノートブックを共有する場合は、ノートブックをアップグレードしないことをお勧めします。以前のバージョンの OneNote のユーザーとノートブックを共有する必要がない場合は、既存のノートブックを OneNote 2010 の形式に変換すると、新機能をすべて使用できるようになります。

➤ OneNote 2003 のノートブックのアップグレード

OneNote 2003 形式を使用しているノートブックは、OneNote 2010、または Office 2007 では読み取り専用で開かれます。OneNote 2003 から OneNote 2010、または Office 2007 にアップグレードするとき、OneNote 2003 のノートを編集できるようにする場合は、ノートブックを OneNote 2010 形式、または Office 2007 形式にアップグレードする必要があります。それには、OneNote 2010、または OneNote 2007 でノートブックを開き、OneNote 2003 ノートブックの各ページの上部に表示される情報バーをクリックします。



図：OneNote 2003 ノートブックを OneNote 2010 で開いたときの情報バー、およびクリック時のメニュー

Microsoft Office 2010 のセキュリティ

この章では、Office 2010 のセキュリティに関する新機能の概要と、以前のバージョンとの違いなどの互換性の留意点について説明します。

Microsoft Office 2010 のセキュリティの概要

知的財産の保護のためにセキュリティ強化を行うと生産性が低下することが多く、生産性の向上を目指すセキュリティが低下することが多くなりがちです。しかし、Microsoft Office 2010 の新しいセキュリティ コントロールを使用すれば、生産性を低下させることなく、セキュリティ脅威からの防御を徹底できます。

攻撃にさらされやすい部分の強化と削減、悪用の防止を狙いとしたセキュリティ対策として新しい5つのコントロールを提供します。

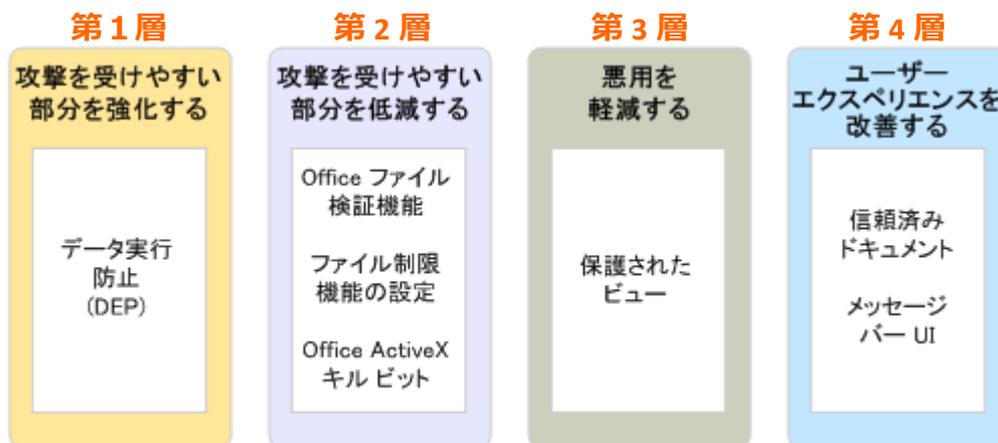
- Office アプリケーションのデータ実行防止 (DEP) のサポート
- Office ファイル検証
- ファイル制限機能の拡張設定
- Office ActiveX キルビット
- 保護されたビュー

各コントロールについては、次の「4つの防御層」にて詳しく説明します。

4つの防御層

Office 2010 のセキュリティ アーキテクチャには多層防御のための対策が用意されています。これらの対策を実装すると、ユーザーが Office 2010 アプリケーションを使用してファイルを開こうとした瞬間にセキュリティ対策が有効になり、ファイルを開いて編集できる状態になるまで複数の防御層が継続的に適用されます。

Office 2010 のセキュリティ アーキテクチャに組み込まれている 4 つの防御層を以下に示します。



図：Office 2010 のセキュリティ アーキテクチャに組み込まれている 4 つの防御層

➤ 第1層

最初の層では、データ実行防止 (DEP) と呼ばれる対策を使用して、Office 2010 アプリケーションで攻撃にさらされやすい部分を強化します。

● Office アプリケーションのデータ実行防止 (DEP) のサポート

DEP とは、バッファ オーバーフローの脆弱性を悪用したウイルスやワームの実行を阻止することによって、攻撃にさらされやすい部分を強化するハードウェア技術およびソフトウェア技術です。ここでは、データ専用予約されたメモリ部分からコードを実行しようとするファイルを識別することによって、バッファ オーバーフローの悪用を阻止します。

➤ 第2層

2 番目の層では、アプリケーションで開くことができるファイルの種類を制限し、さらにファイルに埋め込まれた特定の種類のコードをアプリケーションで実行できないようにして、Office 2010 アプリケーションで攻撃にさらされやすい部分を削減します。そのために、以下の 3 つのセキュリティ対策が Office アプリケーションで使用されます。

● Office ファイル検証機能

Office ファイル検証機能とは、有効なファイル形式の定義に適合しないファイルを識別することによって、攻撃にさらされやすい部分の削減に役立つ Office アプリケーションの機能です。ここでは、

ファイルをスキャンして形式の相違を検出し、実装された設定に基づいて、無効な形式のファイルは開いて編集できないようにします。

- ファイル制限機能の設定

ファイル制限機能の設定とは、アプリケーションがアクセスできるファイルの種類を強化することによって、攻撃にさらされやすい部分の削減に役立つグループ ポリシー設定一式です。ここでは、アプリケーションで特定の種類のファイルを開けないようにしたり、保存できないようにしたりできます。さらに、特定の種類のファイルを開いたときの動作を指定することもできます。たとえば、特定の種類のファイルを保護されたビューで開くかどうかや、編集を許可するかどうかを指定できます。

- Office ActiveX キルビット

Office ActiveX キルビットとは、特定の ActiveX コントロールが Office アプリケーション内で実行されるのを防ぐために、管理者が使用できる Office の機能です。ここでは、特定の ActiveX コントロールが Office 2010 アプリケーションで実行されないようにすることができます。ただし、Office アプリケーションでの実行を阻止した Active X コントロールは Internet Explorer など他のアプリケーションでの動作には影響を与えません。

- 第3層

3 番目の層では、危険性のあるファイルを隔離された保護されたビューで開くことによって悪用を防止します。

- 保護されたビュー

保護されたビューとは、マクロが含まれているファイルや危険性のあるファイルをユーザーがセキュリティ保護されたビューでプレビューできるようにすることで、攻撃を防ぐサンドボックス環境です。ここでは、ユーザーはファイルをアプリケーションで開いて編集する前にプレビューすることができます。

- 第4層

4 番目の層では、セキュリティに関してユーザーが判断を下す回数を減らし、判断が必要な場合はその方法を改善することによって繰り返し処理への慣れによるセキュリティ低下を防止します。たとえば、信頼性が低いと見なされたドキュメントは、ユーザーに判断を求めることなく、自動的に保護されたビューで開きます。ユーザーはセキュリティに関する判断を一切せずにドキュメントを読んで閉じることができます。つまり、ほとんどの場合、ユーザーはセキュリティを意識せずに作業を効果的に終了できます。保護されたビューで開いたドキュメントを編集する必要がある場合は、編集を許可するオプションを選択します。いったん編集を許可したドキュメントは、次回からは保護されたビューで開きません。ActiveX コントロール、マクロなど、ア

クティブなコンテンツがドキュメントに含まれる場合は、アクティブなコンテンツを有効にするかどうかを確認するメッセージバーが表示されます。いったんアクティブなコンテンツを有効にすると、次回からはメッセージバーは表示されません。

攻撃耐性強化のセキュリティ対策

前のセクションで説明したセキュリティ対策に加えて、Office 2010 には、攻撃にさらされやすい部分をさらに強化する目的で新たなセキュリティ対策が導入され、既存のセキュリティ対策が改善されています。これらの対策は、データの完全性および機密性を保護することにより、攻撃にさらされやすい部分の強化に役立ちます。

- デジタル署名に対する信頼できるタイムスタンプのサポート

信頼できるタイムスタンプがデジタル署名でもサポートされるようになりました。これにより、Office ドキュメントは W3C の XML Advanced Electronic Signatures (XAdES) 標準と互換になりました。信頼できるタイムスタンプによって、ドキュメントの署名に使用した証明書の有効期限が切れた場合でも、デジタル署名の有効性と法律上の防御能力を維持できます。信頼できるタイムスタンプがサポートされるのは、Word 2010、Excel 2010 および PowerPoint 2010 のみです。この機能を有効利用するには、タイムスタンプの証明機関を使用する必要があります。

- パスワードの複雑さに関するドメインベースの確認および適用

パスワードの長さおよび複雑さを確認し、ドメインベースのパスワードポリシーを適用できるようになりました。これが該当するのは、[パスワードを使用して暗号化] 機能および [読み取りパスワード] 機能を使用して作成されたパスワードのみです。

- 書き込みパスワード機能の強化

書き込みパスワード機能は、ISO/IEC 29500 および ISO/IEC 10118-3:2004 の要件と互換になりました。また、Office 2010 および Office 2007 Service Pack 2 間の相互運用も実現されましたが、これは両方のオペレーティングシステムが同じ暗号化プロバイダーをサポートしている場合に限られます。さらに、Office 2010 では、ユーザーが書き込みパスワード機能を簡単に理解して実装できるように、ユーザーインターフェイスが一部改善されています。また、いくつかの新しいグループポリシー設定を使用して、書き込みパスワード機能を管理できます。

セキュリティセンター

Office 2010 では、セキュリティとプライバシーに関する設定画面がセキュリティセンターに集約されています。Office 2010 アプリケーションのセキュリティ設定やプライバシー設定の内容はこちらから参照、設定が行えます。また、以前のバージョンの Office で使用されていた [最高]、[高]、[中]、[低] のセキュリティレベルは簡素化され、既定でセキュリティの高い設定になりました。

メニュー	設定内容
信頼できる発行元	マクロに添付されるデジタル署名で利用される証明書の、信頼できる発行元の管理
信頼できる場所	信頼できるマクロを保存しているフォルダーの管理
信頼済みドキュメント	アクティブ コンテンツを常に有効にするかどうかの設定
アドイン	アドイン形式のマクロを有効にするかどうかの設定
ActiveX の設定	ActiveX コントロールを有効にするかどうかの設定
マクロの設定	マクロを有効にするかどうかの設定
保護されたビュー	サンドボックス環境でプレビューするかどうかの設定
メッセージバー	マクロを無効にしたときメッセージを表示するかどうかの設定
外部コンテンツ (Excel のみ)	外部のデータへのリンクを有効にするかどうかの設定
ファイル制限機能の設定	有効なファイル形式の定義に適合しないファイルを識別するかどうかの設定
プライバシー オプション	Microsoft に対するプライバシーについての設定

表 : セキュリティセンターで設定可能な項目

セキュリティセンターでの設定は、次の手順で行います。

1. Office 2010 アプリケーションで次の操作を行います。
 1. [ファイル] タブをクリックし、[オプション] をクリックします。
 2. [セキュリティセンター] をクリックし、[セキュリティセンターの設定] をクリックします。
2. 必要なセキュリティ設定を行います。

暗号化

Office 2010 の暗号方式は、より強力な AES 方式へ変更されています。Office 2003 以前のバージョンの Office では、97/2000 互換の暗号方式か、RC4 暗号方式で暗号化をしていましたが、Office 2010 で Open XML 形式のファイルを暗号化する場合、Windows XP、Windows Vista および Windows 7 が持つ AES 暗号方式を使って暗号化されます。

また、暗号方式を柔軟に指定できるようになり、Cryptographic API: Next Generation (CNG) がサポートされるようになりました。これにより、管理者はドキュメントを暗号化および署名する際に任意の暗号化アルゴリズムを指定できます。さらに、Office アプリケーションは Suite B 暗号をサポートするようになりました。

Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 でファイルを暗号化し、パスワードによって保護するには、[ファイル] タブをクリックし、[情報] - [アクセス許可] - [パスワードを使用して暗号化] をクリックします。

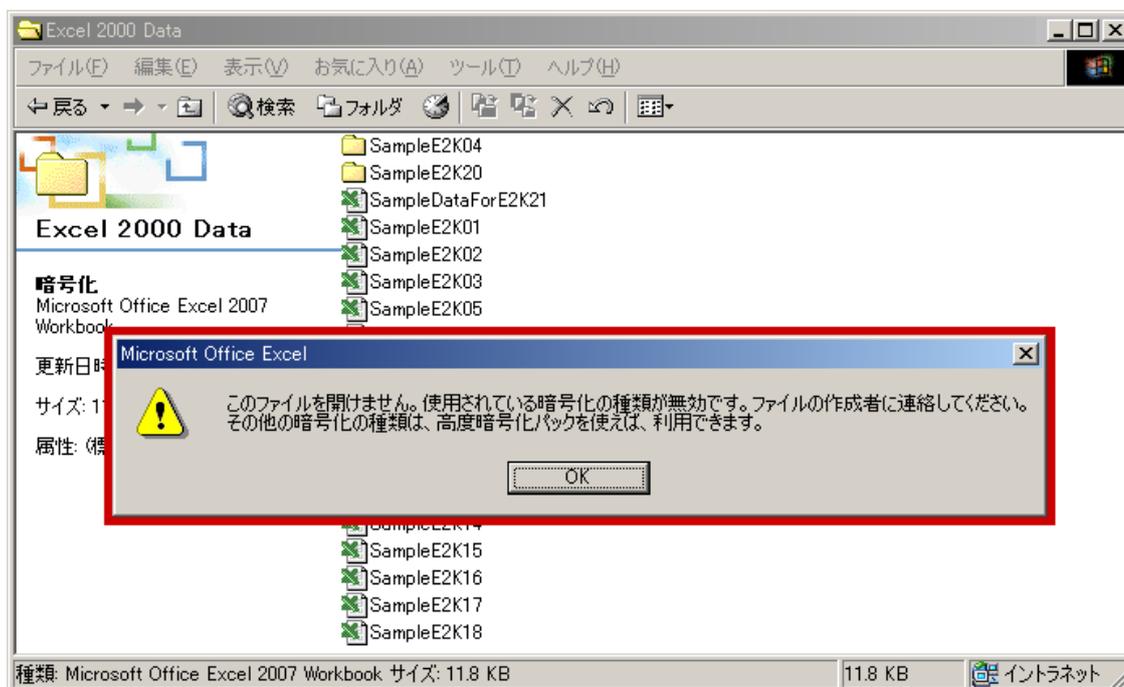
暗号化に関する注意事項

Open XML 形式のファイルに読み取りパスワードを設定する場合、Windows XP 以降で採用されている高度な暗号化方式を使用して暗号化が行われます。このため、Windows 2000 上で、Office 2000 など Office 互換機能パックを使用して暗号化された Open XML 形式のファイルを開こうとすると、暗号化を解除できず、ファイルを開くことができなくなります。詳しくは以下を参照してください。

- 「パスワードを設定した Office 2007 形式のファイルを Windows 2000 で開けない」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/936596/ja>

読み取りパスワードを設定した Open XML 形式のファイルを、Windows 2000 上の、以前のバージョンの Office で保存しようとした場合も同様に、暗号化による警告メッセージが表示されます。



図：Excel 2007 で読み取りパスワードを設定した Open XML 形式のファイルを、Windows 2000 上の以前のバージョンの Excel で開こうとした場合

また、Office 2003、Office XP、または Office 2000 と Office 互換機能パックがインストールされている環境で、読み取りパスワードを設定した Open XML 形式のファイルを作成した場合、暗号化プロバイダーには、[詳細設定] での設定に関わらず、既定の [Office 互換] が使用されます。詳しくは、本ドキュメントの「[Office 互換機能パック利用時の暗号化に関する注意事項](#)」を参照してください。

利用可能な暗号化形式

パスワードを設定した Open XML 形式のファイルを利用する際には、Windows XP 以降の OS をご使用ください。また、Windows 2000 上にインストールされた以前のバージョンの Office と共同作業をする場合は、Office 97-2003 互換形式で保存してください。Microsoft Office の各バージョンで利用可能な暗号化形式は、以下の表のようになっています。

Office のバージョン		利用可能な暗号化形式
Office 2000		97/2000 互換の暗号形式 (Office が持つ暗号エンジン) を利用
Office XP、または 2003		97/2000 互換の暗号形式か、RC4 暗号方式を選択可能
Office 2010、 または Office 2007	Office 97-2003 互換形式で 保存した場合	97/2000 互換の暗号形式が利用される (RC4 暗号方式の選択は不可)
	Open XML 形式で 保存した場合	OS (Windows XP、Windows Vista、または Windows 7) の 暗号エンジン (AES) を利用

表 : Office の各バージョンで利用可能な暗号化形式

Office 互換機能パック利用時の暗号化に関する注意事項

Office 2003、Office XP、Office 2000 と Office 互換機能パックがインストールされている環境で、読み取りパスワードを設定し、[詳細設定] ボタンから暗号化プロバイダーを設定して Open XML 形式で保存すると、[詳細設定] で設定した暗号化プロバイダーが設定されず、既定の [Office 互換] が設定されます。

この問題は、Office 互換機能パックを使用して Open XML 形式で保存する場合に [詳細設定] の設定は使用されず、Open XML 形式で使用される既定の暗号化プロバイダーを使用して暗号化が行われるために発生します。Office 2010 には [詳細設定] のユーザー インターフェイスが用意されていないため、[詳細設定] の設定を参照しません。Office 互換機能パックでは、Office 2010 と同じ保存の処理を行うため、[詳細設定] の設定を参照する動作を行わずに、既定の暗号化プロバイダーを使用して暗号化を行います。既定では [Microsoft Enhanced RSA and AES Cryptographic Provider] が使用されます。

従って、[詳細設定] で [Office 97/2000 互換] を選択しても、実際には Open XML 形式で使用される既定の暗号化プロバイダーを使用して暗号化が行われています。この問題を回避するには、Office 97-2003 互換形式で保存します。

詳しくは以下を参照してください。

- ➔ 「Office 2000、Office XP、Office 2003 互換機能パックを使用して Office オープン XML 形式で保存する際に [詳細設定] で暗号化プロバイダーを設定しても適用されない」 (Office 2007 時点の情報)
<http://support.microsoft.com/kb/937916/ja>

マクロが含まれたファイルが暗号化されている場合の留意点

マクロが含まれたファイルを Open XML 形式の暗号化ファイルにした場合、マクロコードも暗号化されます。安全性を保つため、ファイルを開く際にマクロの部分は自動的にウイルスチェックされますが、チェックを行うアンチウイルス製品が Microsoft AntiVirus API に対応していない場合、暗号化されたマクロコードのチェックを行うことができず、マクロが無効化されます。

これは、Office 互換機能パックを通して、Office 2003 などで開く場合も同様です。

Microsoft AntiVirus API に対応したアンチウイルス製品がない場合には、Office 97-2003 互換形式で暗号化されたマクロ入りドキュメントを扱うようにしてください。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Office 2007 プログラムで、暗号化された Office オープン XML ファイルに含まれているマクロが実行されない」
(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/927150/ja>

Information Rights Management

Office 2003 から導入された Information Rights Management (IRM) は、ユーザーや管理者が、ドキュメント、ブック、およびプレゼンテーションに対するアクセス権を指定し、機密性の高い情報が、権限のないユーザーによって印刷、転送、コピーされるのを防ぐことを可能とします。IRM によってファイルへのアクセスが制限されている場合、ファイルへのアクセス許可及び、ユーザー認証は、サーバー側で実行されるため、ファイルを直接管理できなくなっただけでなく、常にアクセス制限、および使用制限が適用されます。

IRM の新機能

Office 2010 では Office 2007 と同様に、Office 2003 の IRM に対して、次のような機能が追加されています。

- InfoPath 2010 が IRM に対応し、フォームやフォーム テンプレートに対するアクセス許可を指定できるようになりました。例えば、フォーム テンプレートを読み取ることはできても、印刷したり電子メール メッセージで転送したりすることはできないように指定できます。ユーザーが、入力するフォームの IRM の設定を指定することも可能です。
- Outlook では、IRM を使用することで、電子メール メッセージへアクセスを制限することができます。これによって、電子メールを受け取ったユーザーが、機密情報を印刷、転送、またはコピーできないようにすることができます。また、電子メールの添付ファイルに対しても同様の制限を設定することが可能です。Outlook 2010 では、IRM を利用した電子メールのフルアクセス権を、スレッドのオーナーが保持しています。また、IRM を利用した電子メールの返信を行う際に、本文の引用が可能になるような機能向上が行われています。
- SharePoint Server 2010 では、IRM による保護をライブラリレベルで適用することができます。これによって、ドキュメントをライブラリにアップロードしただけで、自動的に IRM を設定することが可能です。また、保護レベルを一定に保つことも可能になります。
- Exchange 2010 では、IRM 機能を使用することで、受信者が電子メール メッセージに対して保有する権限を組織とユーザーが制御できるようになります。また、メッセージの他の受信者への転送、メッセージや添付ファイルの印刷、コピーと貼り付けによるメッセージや添付ファイルのコンテンツの抽出などの受信者の操作を許可または制限することができます。

互換性に関する注意事項

- Office 2010 の Open XML 形式のファイルに IRM を適用している場合、Office 2003 で Office 互換機能パックを使用している環境、および Office Viewer で Office 互換機能パックを使用している環境では、ファイルの利用が可能です。このとき、IRM によるファイル保護は、Office 2010 と同様に適用されます。しかし、Office 2003 Viewer、または Office XP 以前のバージョンで Office 互換機能パックを使用している環境においては、IRM を設定した Open XML 形式のファイルを開くことができません。

- Office 2010 の Open XML 形式で保存されたファイルには、Internet Explorer の Rights Management アドオン (RMA) 用のデータは埋め込まれません。そのため Office 2010 では、ファイル保存の際に RMA 用のデータを埋め込むためのオプションが削除されています。

Office XP 以前のバージョンは IRM 機能を持たないため、IRM を設定したファイルを開くには、Office 2010 でファイルを作成する際に、RMA を利用してファイルを開くように設定を変更する必要があります。RMA 用のデータを埋め込むには、Office 2010 の [アクセス許可] ダイアログ ボックスに [以前のバージョンの Microsoft Office を使用するユーザーが Information Rights Management (IRM) をサポートするブラウザーで閲覧できるようにする (ファイルサイズが大きくなります)] オプションを表示し、設定を有効にした後、97-2003 形式で保存します。このオプションを表示するには、レジストリの操作が必要です。詳しくは以下を参照してください。

- ➔ 「Office 2007 の "以前のバージョンの Office を使用するユーザーが IRM をサポートするブラウザーで閲覧できるようにする" オプションを管理する方法」 (Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/932493/ja>

- Active Directory 内に Rights Management Services (RMS) サーバーが複数存在する場合など、サービス接続ポイント (SCP) が使用不可の場合、クライアントは、使用ライセンス、発行ライセンス、RMS アカウント証明書を要求する RMS サーバーを検出することができません。

このような場合には、サーバーおよびクライアントのレジストリに RMS サーバーを登録する操作が必要です。詳しくは以下を参照してください。

- ➔ 「Office 2010 で Information Rights Management を計画する」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179103.aspx>

- ➔ 「Active Directory サービス検出の無効化」

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc747614\(WS.10\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc747614(WS.10).aspx)

マクロ・ActiveX のセキュリティ

Office 2010 では、以下にあげるような 4 つの点が変更されています。

- Open XML 形式のファイルの拡張子
マクロが有効なファイル形式と、マクロが無効なファイル形式を拡張子によって区別できるので、ユーザーは、エクスプローラーやデスクトップなどのアイコンで、マクロが有効なファイルかどうかを判断することができます。
- 既定のセキュリティ レベルの設定
Office 2010 の既定のセキュリティ レベルの設定では、マクロが含まれているファイル等を開く前に、制限された環境で開いて内容を確認できます。
- セキュリティの警告の表示方法
マクロが含まれているファイル等を開いた場合、マクロが無効化され、メッセージバーにセキュリティの警告が表示されます。メッセージバーにある [コンテンツの有効化] ボタンをクリックすることによりマクロが有効になります。次回以降はメッセージバーは表示されなくなります。
- セキュリティ センターのマクロの設定
セキュリティ センターで設定した [信頼された場所] からドキュメントを開く場合は、セキュリティ警告は表示されず、マクロは有効となります。

上記を含む、マクロに関するセキュリティ機能の概要は、別途提供されているホワイトペーパー「Microsoft Office 2010 マクロの互換性について」を参照してください。

Microsoft Office 2010 の変更点

この章では、Office 2010 に掲載された新機能、Office 2003 から Office 2010 への変更および削除された機能、64 ビット版 Office 2010 について説明します。

Microsoft Office 2010 の新機能

Office 2010 では、Office 2007 で採用されたユーザーインターフェイスを拡張し全面的に採用しユーザーが簡単に Office アプリケーションを活用して、より良い結果をすばやく得られるようなユーザー インターフェイスを実現しています。

また、改善された描画エンジンを利用することで、以前のバージョンの Office アプリケーションより高いレベルのグラフィック表現が可能となっています。これにより、図形などの描画に関する設定項目が増えましたが、新しいユーザー インターフェイスによって、簡単に設定を行うことが可能となっています。

新しいユーザー インターフェイス「リボン」

Office 2003 以前のバージョンの Office では、ドロップダウン メニューを採用されていましたが、Office 2010 では Office 2007 で採用された新しいユーザー インターフェイスであるリボンを継続して利用しています。リボンは操作ごとに必要な機能を分類して視覚的に表示しており、リボン上に配置されているボタンにマウス カーソルを移動すると、編集、または書式の変更を適用した結果が表示される「ライブ プレビュー」といった機能があります。これらの機能を利用することで、ユーザーは、今までよりも少ない時間で、今までよりも優れた結果を得ることができます。

ユーザー インターフェイスの変更点

➤ リボン

以前のバージョンの Office アプリケーションでは、ユーザーはメニュー、ツールバー、作業ウィンドウ、およびダイアログ ボックスを使って作業を行っていました。この方法は、アプリケーションのコマンド数が少なかったときはうまく機能しました。しかし、現在ではアプリケーションの機能が非常に多くなり、メニューとツールバーでは以前のように効率的ではありません。アプリケーションの機能が多いと、ユーザーがそれらを見つけることは困難になります。

このため、新しいユーザー インターフェイスの設計における最優先の目標は、アプリケーションに備わっている広範な機能を、ユーザーが簡単に見つけ、使用できるようにすることでした。この目標を念頭に、Office 2010 を使用して優れた結果を簡単に生み出すことができる、結果指向の手法を開発しました。

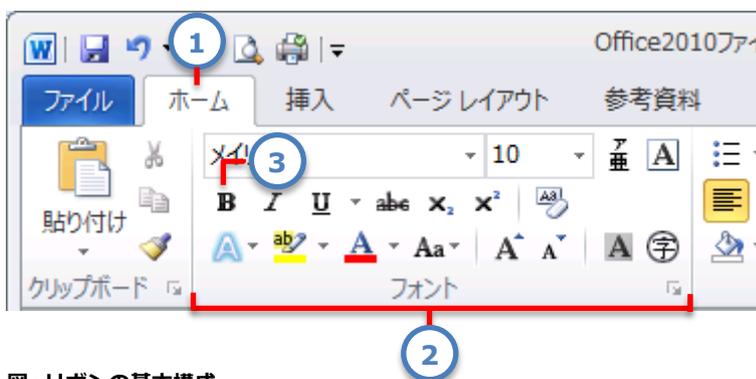
以前のバージョンの Office で利用されていたメニューとツールバーは、「リボン (コマンドを一連のタブに整理して表示する新しい仕組み)」に置き換えられました。リボン上のタブには、アプリケーションの各作業領域で最も関連性の高いコマンドが表示されます。



図 : Word 2010 のリボン

例えば、Word 2010 では、図や表などのオブジェクトの挿入、ページ レイアウトの設定、参考資料を使用した作業、差し込み文書、校閲などの操作を行うためのコマンドがタブによってグループ化されます。

[ホーム] タブからは、最も頻繁に使用するコマンドに簡単にアクセスすることができます。



- 1 **タブ** タスク別に構成されています。
- 2 **グループ** 各タブ内のグループではタスクはサブタスクに分けられています。
- 3 **コマンド ボタン** 各グループのコマンド ボタンはコマンドを実行するか、またはコマンド メニューを表示します。

図 : リボンの基本構成

Excel 2010 にも同様に、数式の操作、データの管理、および校閲のためのタブなど、スプレッド シートの作業に必要な一連のタブがあります。これらのタブにより、アプリケーションでユーザーが実行する操作に直接対応する方法でコマンドが整理されるので、アプリケーションの機能へのアクセスが簡略化されます。

また、Office 2010 の起動時に常にリボンに表示される標準のタブのほかに、実行中の作業の内容に応じて、リボンでの表示/非表示が切り替わるタブもあります。ページ上でオブジェクトをクリックすると、そのオブジェクトに関連するコマンドのセットを、コンテキストツール タブとして標準のタブの横に表示します。全画

面表示の印刷プレビューなど特定の作成モードや表示モードに切り替えると、標準のタブセットがプログラムタブに置き換わります。

Office 2003 のコマンドに対応する Office 2010 のコマンドの一覧表は、以下を参照してください。

→ 「Office 2010 メニュー/リボン リファレンスブック」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/templates/CL101817133.aspx?CTT=5&origin=HA101794130>

→ 「Office 2010 でのメニューやツールバー コマンドの場所」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA101794130.aspx?CTT=5&origin=HA010370239>

➤ クイックアクセスツールバー

Office 2010 では、すべてのツールバーが廃止されたわけではありません。上書き保存、やり直しなど、最もよく実行する操作をサポートするために、クイックアクセス ツールバー (QAT) が用意されています。既定では、数種類のコマンドしか含まれていませんが、簡単にカスタマイズして任意のコマンドを含めることができます。

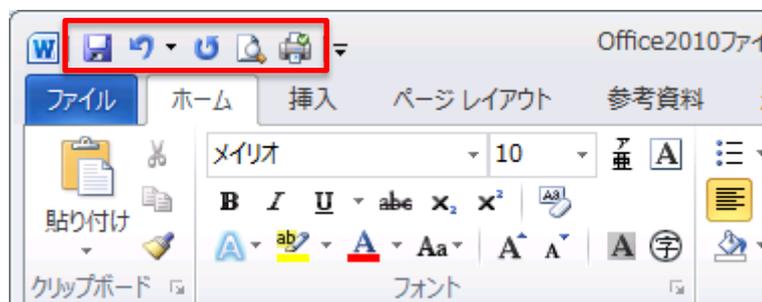


図:クイックアクセスツールバー

➤ Backstage ビュー

Backstage ビューは、Office 2010 アプリケーション全体に導入された、ファイルメニューに代わる主要なビューです。以前のバージョンのファイルメニューと同じ役割をしています。Backstage ビューには、リボンの左側にある [ファイル] タブよりアクセスできます。ドキュメントを開いたり閉じたりする際によく使用する項目がまとめられており、ファイルの新規作成、既存のファイルを開く、ドキュメントのプロパティを定義する、情報を共有するなどの操作を実行できます。

Backstage ビューは、カスタマー エクスペリエンス向上プログラムによって得られた製品機能の使用状況に関するデータに基づいて設計されており、ドキュメントの操作をより簡単にするための関連タスクもまとめられています。たとえば、以前はページレイアウト、プレビュー、印刷の複数の項目に分かれていた印刷ツールは、Backstage ビューでは1つの [印刷] タブに統合されています。ファイルへのメタデータの割り当て、アクセシビリティとの照合、最終版処理と他のユーザーとの共有準備が済んでいるかどうかの確認をここで行うことができます。

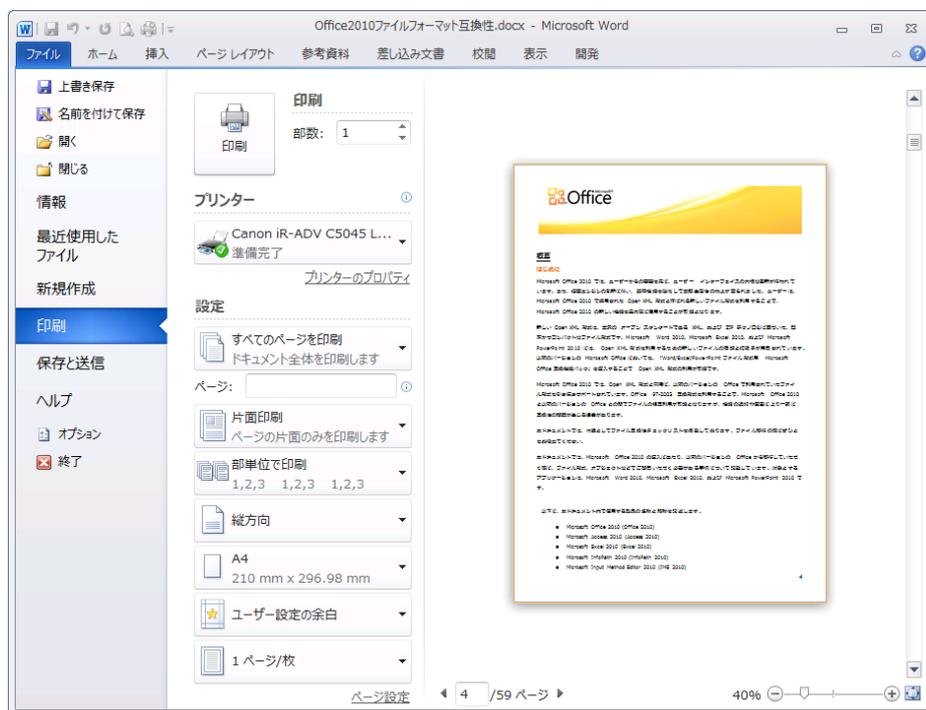


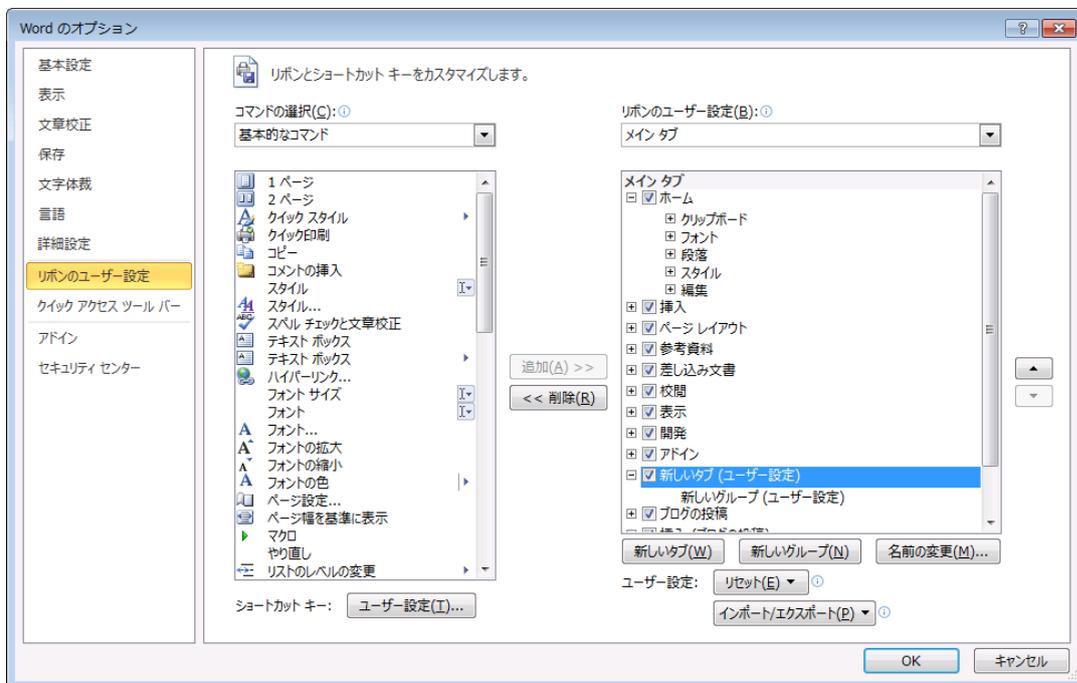
図 : Word 2010 の Backstage ビュー

➤ ユーザーインターフェイスのカスタマイズ

● リボンのカスタマイズ

Office 2010 ではリボンをカスタマイズするのに、Office 2007 で採用されていた独自の XML ファイルを作って組み込む方法、および Visual Studio Tools for Office (VSTO) で COM アドインを作成する方法以外に、オプション画面よりカスタマイズする方法が新たに追加されています。

[ファイル] タブ - [オプション] をクリックし、Word オプション画面の [リボンのユーザー設定] をクリックすることによりリボンのカスタマイズを行うことができます。



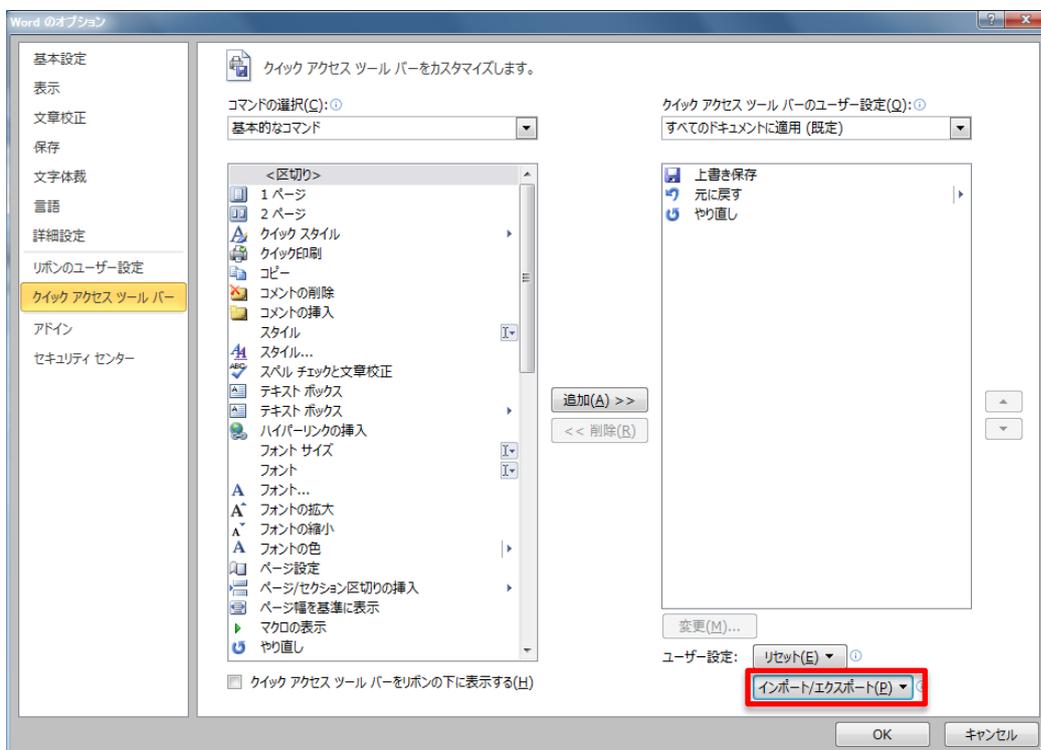
図：リボンのカスタマイズ

VSTO および XML ファイルによるリボンのカスタマイズについては、別途提供されているホワイトペーパー「Microsoft Office 2010 マクロの互換性について」を参照してください。

- クイック アクセス ツールバーの移行

よく使うコマンドを追加して、カスタマイズされたクイック アクセス ツールバーを、別のコンピューターに移行や配布をすることが可能です。

Office 2010 では、クイック アクセス ツールバーのインポートとエクスポートができるようになりました。[ファイル] タブ - [オプション] - [クイック アクセス ツールバー] の [インポート/エクスポート] をクリックすることによりクイック アクセス ツールバーのインポートとエクスポートを行うことができます。



図：クイック アクセス ツールバーのインポートとエクスポート

また Office 2007 からの移行方法として、以下の方法があります。

1. すべての Office アプリケーションを終了します。
2. エクスプローラーから、次のフォルダーを開きます。
 - Windows XP の場合
C:\Documents and Settings\<ユーザー>\Local Settings\Application Data\Microsoft\Office
 - Windows 7 / Windows Vista の場合
C:\Users\<ユーザー>\AppData\Local\Microsoft\Office

※<ユーザー>はログオンユーザー名です。

※上記フォルダーは隠しフォルダーになっているため、エクスプローラーの [フォルダー オプション] で隠しフォルダーを表示するように設定してから操作をしてください。

3. 上記フォルダー内にある <Office アプリケーション名> .qat ファイルをコピーして、Office 2010 がインストールされている別のコンピューターの同じフォルダーに配置します。

ユーザーインターフェイスの注意点

ユーザーインターフェイスの変更に伴う注意点を説明します。

- Windows Vista および Windows Server 2008 におけるリボンのフォントについて
Windows Vista および Windows Server 2008 に Office 2010 を導入した場合、メイリオ UI フォントが導入されず、リボンや Backstage ビューが MS Pゴシックで表示されます。詳細については、本ドキュメントの「[メイリオ UI フォントにおける注意点](#)」を参照してください。

その他の情報

- Office 2010 トレーニング情報
 - Office トレーニングセンター
Office 2010 トレーニングセンターでは、新しい Office の使い方や新機能をご理解いただくために役立つコンテンツを提供しています。Office 2010 を十分に使いこなすためにご活用ください。
 - Office 2010 クイックガイド
Office 2010 を使用する際に、まずこれだけ知っておきたいという機能をまとめています。
 - Office 2010 トレーニング ビデオ
Office 2010 のさまざまな機能や操作方法を音声と画面でわかりやすく解説しています。
 - Office 2010 活用 TIPS
Office 2010 の使いこなしに役立つヒント集を紹介しています。
- ➔ 「Microsoft Office 2010 トレーニングセンター」
<http://www.microsoft.com/japan/office/2010/training/default.aspx>

描画エンジン

Office 2010 では、より幅の広い表現を実現するため Word、Excel、PowerPoint の新しい描画エンジンを引き続き採用しています。新しい描画エンジンでは、主に 3-D 効果が強化されています。以前のバージョンの疑似的な 3-D 効果でなく、光源の位置や数、表面素材や面取り、反射や透過処理など本格的な 3-D CG の概念を取り入れた表現が可能になっています。



図：Office 2010 の描画エンジンによる 3-D 表現

描画エンジンが改善されたことにより、ワードアートやテキストボックス内のテキストの描画エンジンも変わりました。より高度な表現に対応し、利用頻度が低い機能は取り除かれています。これらの描画エンジンも図形オブジェクトと同じ描画エンジンを使っており、図形用の各種効果をテキストにも適用できます。そのため、ワードアートオブジェクトという概念がなくなり、テキストボックス内のテキストでワードアート並の表現が可能になっています。

Office 2007 では、Excel 2007、PowerPoint 2007 の一部で、この描画エンジンを使用していました。Office 2010 では、Word においてもこの描画エンジンが使用され、統一された描画エンジンによる図形オブジェクトの作成と編集が可能です。



図：Office 2010 の描画エンジンによるワードアート

描画エンジンは、主に以下のオブジェクトの描画に使用されています。

- グラフ
- 挿入された画像
- SmartArt
- 図形 (正方形、矢印など)
- ワードアート
- 図形やテキストボックス内のテキスト

SmartArt

Office 2007 で採用された新しい描画エンジンでは、Office ドキュメントに洗練されたグラフィック、およびダイアグラムをすばやく作成するための「SmartArt」機能が追加されています。SmartArt には、グラフィック、およびダイアグラムをすばやく挿入したり構成したりできるテンプレートと定義済み図形のギャラリー (ライブラリ) が備えられています。例えば、サイズと配置の自動調整や、オブジェクトとプロパティの編集が可能です。

SmartArt には拡張性がサポートされているので、既存のテンプレートのほかに、ユーザーが独自のレイアウトを作成してテンプレートとしてギャラリーへ追加することも可能です。

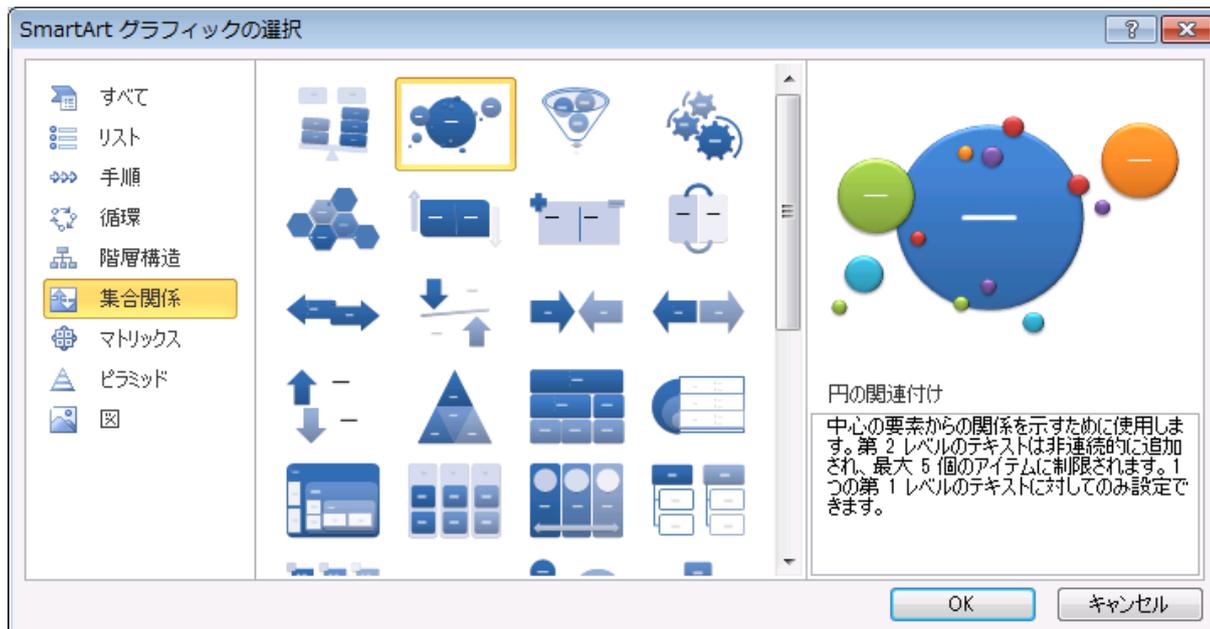
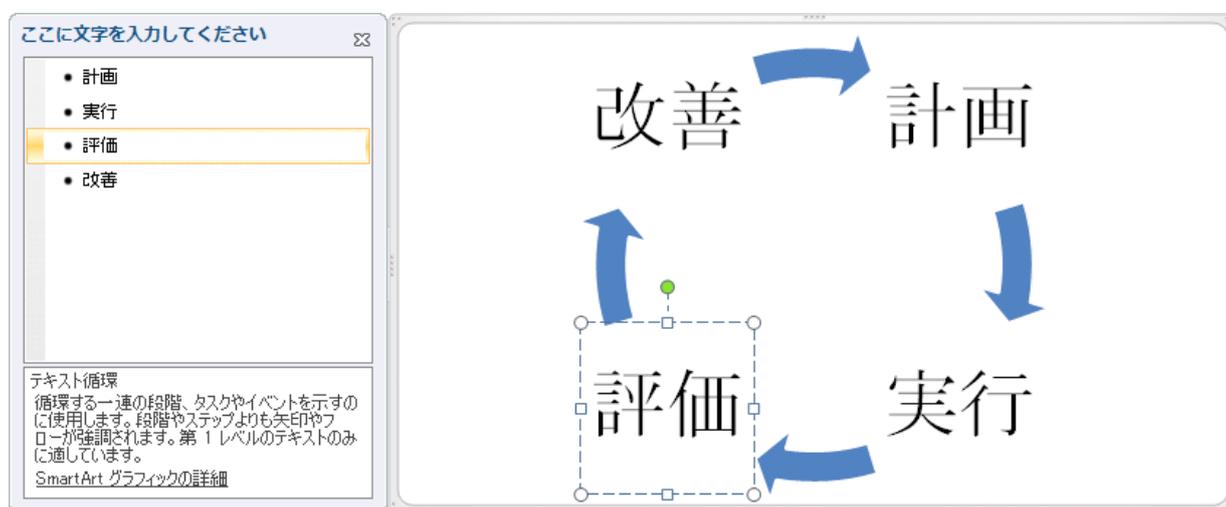


図 : SmartArt グラフィックのギャラリー



図：Office 2010 で SmartArt を選択した場合に表示される編集画面

PDF/XPS および ODF フォーマットのサポート

Office 2007 Service Pack 2 (SP2) より、ビルドイン サポートされている PDF/XPS 形式での出力機能が、Office 2010 においても引き続きサポートされます。これにより、Office ドキュメントの印刷イメージを PDF 化することができます。

また、Word、Excel、および PowerPoint で ODF 1.1 形式のドキュメントをサポートします。OpenDocument Text (*.odt) 形式、OpenDocument Spreadsheet (*.ods) 形式、および OpenDocument Presentations (*.odp) 形式のファイルを開き、編集し、保存することができます。

Microsoft Office 2010 で変更、削除された機能

Office 2003 から、Office 2010 への変更点として、各アプリケーションの変更された機能、削除された機能を以下に記載します。また、本ドキュメントの「[付録 1. Office 互換性チェックリスト](#)」に変更点を一覧表にして記載しています。

Word 2010、Excel 2010、PowerPoint 2010 共通の変更点

ここで説明する変更点は、Word 2010、Excel 2010、PowerPoint 2010 の 3 つのアプリケーションに共通のものです。

➤ Office 2003 および Office XP 用 隠しデータ削除ツール

以前のバージョンの Office では、ドキュメントを配布する際に、変更履歴の記録、コメント、隠しデータやグループ作業データなど、不要なデータを削除しようとした場合、アドインの「Office 2003 および Office XP 用 隠しデータ削除ツール」(隠しデータ削除ツール)を別途インストールして使用しなければなりません。Office 2010 では、隠しデータ削除ツールはアドインではなく、アプリケーションの機能として「ドキュメント検査」機能に置き換えられました。新しいドキュメント検査機能では、複数の検査を同時に実行し、より詳細にドキュメントのクリーンアップを行うことができます。

「ドキュメント検査」を行うには [ファイル] タブ - [情報] - [共有準備] - [ドキュメント検査] をクリックします。

➤ デジタル署名

デジタル署名機能は、次のように変更されています。

- Office 2010 の署名の形式は XMLDSig です。
- デジタル署名機能の起動は、[ツール] - [オプション] - [セキュリティ] - [デジタル署名] から [ファイル] タブ - [情報] - [アクセス許可] - [デジタル署名の追加] に変更されています。
- 無効な署名は、自動的に削除されません。
- オブジェクトモデルが拡張され、新しいオブジェクトモデルがサポートされます。以前のバージョンの Office で構築されたソリューションもサポートされます。
- サードパーティ向けに拡張性が向上し、サードパーティは、独自の署名プロバイダーを作成できるようになりました。
- 署名の一覧や検証結果などがドキュメントパネルに表示されるなど、より視覚的に使いやすくなりました。

➤ 校閲者へ送信

Office 2010 では、校閲者に送信するための機能の代わりに、より強固なワークフローなど、SharePoint テクノロジーとの組み合わせで実現する Enterprise Contents Management (ECM) の機能が採用されています。これに伴い、ユーザー インターフェイスから [ファイル] - [送信] - [メールの宛先 (校閲用)] が削除されています。校閲者に送信するための機能のオブジェクト モデルは引き続き使用できますが、最終的には ECM のワークフローに移行する必要があります。

➤ [クリップ アートの挿入] 作業ウィンドウとクリップ オーガナイザー

クリップ アートを利用する際に (管理する) ツールの変更について説明します。

[クリップ アートの挿入] 作業ウィンドウとスタンドアロンのクリップ オーガナイザー アプリケーションの両方で使用できなくなった機能は次のとおりです。

- [探す場所] (オンライン コンテンツを挿入するか除外するかを指定するチェック ボックスに置き換えられています) および [メディアの種類] (写真、イラスト、オーディオおよびビデオ。ファイル拡張子の粒度のレベルが削除されています) の簡素化されたドロップダウン メニュー オプション。
- オンライン コンテンツ、およびメディア CD から読み込まれるクリップ アートを示すサムネイル アイコンの削除。

[クリップ アートの挿入] 作業ウィンドウでのみ使用できなくなった機能は次のとおりです。

- [クリップの整理] リンクの削除。

スタンドアロンのクリップ オーガナイザー アプリケーションでのみ使用できなくなった機能は次のとおりです。

- クリップ オーガナイザーへのローカル コンテンツの自動インポート。
- 特定のコレクションへのフォルダーの関連付け (自動インポートで使用)。
- ユーザーのローカルクリップ アート コンテンツ ライブラリ内での類似スタイルの検索。
- メール宛先へのクリップ アートの送信機能。
- クリップ アートのリスト ビューと詳細ビュー (縮小表示ビューのみが残っています)。
- 特定のコレクションからのクリップの削除。

➤ 特殊記号入力アドイン

東アジアバージョンの Office 2010 では、特殊記号入力アドインが削除されています。

[挿入] タブの [記号と特殊文字] グループの [記号と特殊文字] ボタンや Input Method Editor (IME) の同様の機能で同じ操作を行えます。

➤ ドキュメントワークスペース

ドキュメントワークスペース関連機能において、以下の項目が削除されています。

- ドキュメントワークスペース作成機能
- Outlook の共有添付ファイル作成機能
- [ドキュメント管理] ウィンドウを使用して Microsoft SharePoint の操作を呼び出す機能
- ドキュメントのローカル コピーをサーバー コピーと同期する機能

[<アプリケーション>] のオプション ダイアログ ボックスの [サービス オプション] にあった [ドキュメントワークスペースの作成]、[ドキュメント管理情報]、および [ドキュメント管理] を使用できなくなりました。同期機能は暗黙のキャッシュに置き換えられ、ドキュメントがオフラインのときにもドキュメントワークスペースでそのまま編集を続け、次回オンラインになったときに Windows SharePoint Services への変更を自動的に同期させることができるようになります。

➤ Microsoft Office Document Imaging (MODI)

MODI は、Office 共通のドキュメント イメージングおよびスキャンのソリューションでした。また、Office の Fax 機能の基本となっていました。MODI をインストールすると、MODI が .tif、.tiff、および .mdi のファイルの既定のハンドラーになっていました。Office 2010 では、MODI は完全に廃止されています。この変更はセットアップ ツリーにも影響し、[ツール] メニューには、MODI ヘルプ、OCR、および Indexing Service フィルターのノードは表示されなくなりました。Office 2010 のインターネット FAX 機能では、固定ファイル形式 (TIF) の生成に Windows FAX プリンター ドライバーが使用されます。

MODI の特定の機能を回復する代替の方法は以下を参照してください。

➔ 「Microsoft Office Document Imaging (MODI) の機能を回復する代替の方法」

<http://support.microsoft.com/kb/982760/ja>

Word 2010 の変更点

ここでは、Word 2003 から Word 2010 における変更点を記載します。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Word 2010 での変更点」

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179199\(office.14\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179199(office.14).aspx)

➤ テーマ

HTML/CSS テーマを選択するための [テーマ] ダイアログ ボックスが削除されています。代わって、ドキュメントの背景や、フォント設定、カラー設定を行う、新しい [テーマ] 機能が採用されています。

➤ フォントの文字飾り

[文字飾り] ボックスの機能は、現在のデザインに適さなくなったため削除されています。テキストから書式を削除するには、[書式の削除] などの方法を使用します。

➤ [Web ページとして保存] オプション

[ファイル] メニューの [Web ページとして保存] オプションが削除されています。Word 2010 では、[ファイル] の [名前を付けて保存] から、より簡単に Web ページとして保存を実行することができます。

➤ 版の管理

[版の管理] 機能は削除されています。この機能は、Office 2010 の ECM の機能に置き換えられています。[版の管理] 機能を使用していたユーザーは、Office Migration Planning Manager (OMPM) の Version Extraction Tool (VET) を使って、複数のファイルからドキュメントのバージョンを抽出することができます。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Word、Excel、および PowerPoint のファイルを Office 2007 に移行する」(Office 2007 時点の情報)

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179019.aspx>

➤ ウィザード

以下のウィザードが削除されています。これらのウィザードは、Office Online で提供される最新のテンプレートで置き換えられます。

- 会議メモ ウィザード
- 封筒作成ウィザード
- Fax 送付状ウィザード
- Pleading wizard
- Resume wizard

➤ 個人情報スマート タグの削除

個人情報 (Outlook 電子メールの連絡先) スマート タグが削除されています。この機能は、Microsoft Office Communicator を 通じてグローバル アドレス一覧 (GAL) を使用する機能に置き換わります。Word の場合は、"追加操作" 機能に置き換わりますが、Excel の場合は機能が完全に削除されます。

➤ 自動要約の廃止

自動要約は、Word 2010 から削除されています。文書に要約を挿入しても自動要約データにはならず、保持されません。また、文書を概要ビューで保存しても、その文書を開いた後は概要ビューになりません。

➤ [リサーチ]作業ウィンドウの廃止

[リサーチ] 作業ウィンドウは、Internet Explorer 7 から削除されています。したがって、Microsoft Word 2010 内で Alt キーを押しながらクリックしても、この作業ウィンドウは開きません。このリサーチ機能では、すべてのイントラネット サイトとポータルを検索するための [リサーチ] 作業ウィンドウが表示されていました。

➤ [ライブラリの検索]ボタンの削除

[参考資料] タブの [引用文献の挿入] メニューの [ライブラリの検索] ボタンは削除されています。

➤ 見出しマップ

コンテンツ内の見出し、ページ、またはオブジェクトへ移動する新しい機能によって、編集の操作性が向上します。見出しマップはナビゲーションウィンドウに置き換えられています。見出しマップが表示されていた場所には、新しいナビゲーションウィンドウが表示されます。ユーザーは、文書内のすべての見出し、見出し間の関係、および現在位置を確認できます。ナビゲーションウィンドウ内をクリックすることによって各見出し間を移動できます。長い複雑な文書の場合には、アウトラインを折りたたんで下位見出しを非表示にできます。見出しマップ内の見出しに表示されていた変更箇所は表示されなくなりました。代わりに、ナビゲーションウィンドウ内には変更の最終結果が表示されます。

この変更の全般的な利点は、リボンの外観と統一感のあるインターフェイスです。次のような新機能も使用できます。

- ナビゲーションウィンドウ内の見出し操作によって文書の内容の配置を変更できます。
- 検索機能が統合され、検索結果が含まれる見出しが強調表示されます。

Excel 2010 の変更点

ここでは、Excel 2003 から Excel 2010 における変更点を記載します。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Excel 2010 での変更点」

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179167\(office.14\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179167(office.14).aspx)

➤ グラフのコピーと貼り付け

[形式を選択して貼り付け] ダイアログ ボックスで、グラフ用の特殊な動作は実行されません。Excel 2010 では、このダイアログ ボックスの [書式] オプションの代わりに [書式のコピー/貼り付け] 機能を使用します。同じダイアログ ボックスの [数式] オプションについては、代わりに [貼り付け] コマンドで [数式] を選択します。

➤ グラフウィンドウ

[グラフウィンドウ] は、[表示] メニューから削除されています。Chart.ShowWindow プロパティは、非表示で機能しません。Office 2010 では、グラフは OfficeArt と統合されています。Chart.ShowWindow プロパティを使用するマクロを実行すると、シートで別のウィンドウを開けます。そのウィンドウ内でスクロールして、そのグラフのみを表示できます。

➤ グラフの種類の変更

Office 2003 では、複数のグラフを選択し、選択したグラフすべてのグラフの種類を同時に変更できますが、Office 2010 では、この操作は使用できません。Office 2010 では、グラフは OfficeArt と統合されています。各グラフの [グラフの種類] を個別に変更するか、1つのグラフをテンプレートとして保存し、そのテンプレートを他のグラフに適用してください。

➤ HTML 関連

[HTML 形式で保存] 機能を使用すると、Excel を必要としない、ブラウザーで表示できる HTML ファイルを作成できます。以前のバージョンの Excel の [HTML 形式で保存] 機能では、ブラウザーでの表示用に HTML タグが保存され、ブラウザーで表示されない Excel 固有のタグも HTML ファイルに保存されます。Excel 2010 では、Excel 固有の機能のタグは HTML ファイルに保存されないため、HTML ファイルを使用した場合に機能の情報を維持できません。HTML ファイルは、ブックの静的な HTML 画面を公開する場合に使用されます。例えば、数式の計算結果とセルの書式が、HTML ファイルに保存されます。ただし、数式そのものは保存されません。

Excel 2010 では、HTML ファイルを開くことができます。また、HTML ファイルに含まれている Excel 固有の任意の機能を使用できます。しかし、変更したファイルを保存するときにすべての機能を維持するには、Excel 97-2003 形式、または Open XML 形式でファイルを保存する必要があります。最も適した形式は新しく導入された Open XML 形式です。

PowerPoint 2010 の変更点

ここでは、PowerPoint 2003 から PowerPoint 2010 における変更点を記載します。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「PowerPoint 2010 での変更点」

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179126\(office.14\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179126(office.14).aspx)

➤ ブロードキャスト

PowerPoint 2010 では、ブロードキャスト機能が削除されています。代わりに PowerPoint 2010 より追加機能のブロードキャストスライドショーにてスライドショーの配信を行うことができます。

➤ マクロの記録

PowerPoint 2010 では、マクロの記録機能が削除されていますが、Visual Basic for Applications (VBA) を使用してマクロを作成、または編集することができます。

➤ 図形の挿入

これまでは、スライドに図形を挿入すると描画ツール ([書式] タブ) が自動的に表示されました。このような自動的な動作は行われなくなりました。タブは表示されますが、自動的に開きません。図形をダブルクリックするとツールが表示されます。

➤ [選択] ウィンドウ

[選択] ウィンドウは、プレゼンテーション内のすべてのオブジェクトを一覧表示する機能です。PowerPoint 2010 では、この機能は [ホーム] タブの [配置] メニューにあります。

➤ 最大サウンドファイルサイズの廃止

PowerPoint 2010 では、[挿入] ダイアログ ボックスを使用して、ファイルを埋め込むかどうかを選択できます。したがって、[サウンド ファイルの最大サイズ] ボックスと [指定するファイル サイズより大きいサウンドとリンクする] ボックスは必要なくなりました。50 MB 未満の .wav ファイルに制限されることなく、任意の種類の任意のサイズのファイルを埋め込むことができます。

➤ Web ページとして保存の削除

[Web ページとして保存] のエントリー ポイントは削除されています。

グラフ描画の変更点

ここでは、Office 2003 から Office 2010 におけるグラフ描画の変更点を記載します。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「グラフ作成での変更点」 (Office 2007 時点の情報)

[http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179160\(office.12\).aspx](http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179160(office.12).aspx)

➤ コピーと貼り付け

Word 2010、または PowerPoint 2010 からグラフをコピーして、Word 2010、Excel 2010、または PowerPoint 2010 以外のプログラムに貼り付けると、そのグラフは画像として貼り付けられます。グラフを Excel 2010 からコピーする場合は、グラフとして貼り付けされます。Office 2010 では、グラフは OfficeArt と統合されています。グラフとして貼り付けを行うには、あらかじめ Excel 2010 にグラフを貼り付けた後、そのグラフを Excel 2010 から他のプログラムにコピーします。

➤ Excel 2010 のインストール

Office 2010 でグラフを作成するには、Excel 2010 がインストールされている必要があります。Office 2010 では、Word 2010、および PowerPoint 2010 の統合グラフはアプリケーション固有の機能ですが、グラフ データは Excel 2010 に保存されます。Excel 2010 がインストールされている状態で、Word 2010、または PowerPoint 2010 で開かれたグラフは、自動的にアップグレードされます。Excel 2010 がインストールされていない場合は、グラフはアップグレードされません。

Excel 2010 がインストールされていない場合、Word 2010、および PowerPoint 2010 の [グラフの挿入] ボタンは無効になっています。Microsoft Graph は存在しますが、ユーザー インターフェイスから起動することはできません。従って、Excel 2010 がインストールされていない場合、Word 2010、および PowerPoint 2010 では、新しいグラフの作成、既存のグラフ データ編集を行うことができません。既存のグラフの形式については、変更することが可能です。

➤ 凡例の表示

Word 2010、または PowerPoint 2010 のグラフでデータがない場合は、タイトル、または凡例が表示されません。Office 2003 では、データがない場合でもタイトル、または凡例が表示されていました。

➤ 凡例の系列名

系列に名前が割り当てられていないグラフでは、凡例の系列名が、「系列 1」「系列 2」のように表示されます。以前のバージョンの Office では、グラフとユーザー インターフェイスにおいて、グラフの系列名にさまざまな文字列が使用されていました。Office 2010 では、これらの文字列が統一されています。系列名が凡例、またはグラフ上のその他の場所に表示される場合、系列の名前を設定します。

➤ データラベル

以前のバージョンの Office では、データラベルに凡例マーカを表示できましたが、Office 2010 ではこの機能はサポートされていません。

➤ グラフの目盛り

Office 2010 では、Y 軸の目盛りが [自動] に設定されているグラフで、目盛りが変更される場合があります。これは、Office 2010 ではグラフが OfficeArt に統合されたことにより、OfficeArt の文字列のサイズと折り返しに関する情報が、軸目盛りの設定に適用されるためです。必要に応じて、目盛りを固定値に設定することで目盛りの変更を回避できます。

➤ グラフ上の文字列

Office 2010 では、グラフ上の文字列の折り返しが、以前のバージョンの Office での折り返しとは異なる場合があります。この影響で、文字列が重なったり、文字列の省略が行われなかったりすることがあります。これも、Office 2010 のグラフで OfficeArt 文字列が使用されるようになったことによるものです。

グラフで OfficeArt 文字列を使用することにより、画面とプリンターでの印刷結果、または Office 2010 のアプリケーション間でグラフをコピーした場合に、グラフ上の文字列が同じように表示されるようになっています。

➤ 3-D 効果

Office 2010 では描画エンジンが刷新され、3-D 効果が強化されています。これに伴い、3-D グラフの表示が、以前のバージョンの Office とは異なる場合があります。

以前のバージョンの Office では、3-D グラフのパターン塗りつぶしは、画面に対する 3-D グラフの表面の角度に関係なく描画されていました。Office 2010 では、疑似的な 3-D 効果ではなく、リアルな 3-D で描画されるため、3-D グラフのパターン塗りつぶしは 3-D グラフの表面に描画されます。別の種類の塗りつぶしに変更するか、グラフを 2-D のグラフに変更する必要があります。

また、Office 2010 では 3-D グラフに適切な陰影が付けられるため、以前のバージョンの Office とは色が正確に一致しない場合があります。

Office 2003 または、Office 2007 から Office 2010 における変更点の対応表は以下の通りです。

変更点	2003 変更点の対	2007 変更点の対
Word 2010、Excel 2010、PowerPoint 2010 共通の変更点		
Office 2003 および Office XP 用 隠しデータ削除ツール	○	-
デジタル署名	○	-
校閲者へ送信	○	-
[クリップ アートの挿入] 作業ウィンドウとクリップ オーガナイザー	-	○
特殊記号入力アドイン	-	○
ドキュメントワークスペース	-	○
Word 2010 の変更点		
テーマ	○	-
フォントの文字飾り	○	-
[Web ページとして保存] オプション	○	-
版の管理	○	-
ウィザード	○	-
個人情報スマート タグの削除	-	○
自動要約の廃止	-	○
[リサーチ]作業ウィンドウの廃止	-	○
[ライブラリの検索]ボタンの削除	-	○
Microsoft Office Document Imaging (MODI)	-	○
見出しマップ	-	○
Excel 2010 の変更点		
グラフのコピーと貼り付け	○	-
グラフ ウィンドウ	○	-
グラフの種類の変更	○	-
HTML 関連	○	-
PowerPoint 2010 の変更点		
ブロードキャスト	○	-
マクロの記録	○	-
図形の挿入	-	○
[選択] ウィンドウ	-	○

変更点	2003 変更点の対	2007 変更点の対
最大サウンドファイルサイズの廃止	-	○
Web ページとして保存の削除	-	○
グラフ描画の変更点		
コピーと貼り付け	○	-
Excel 2010 のインストール	-	○
凡例の表示	○	-
凡例の系列名	○	-
データラベル	○	-
グラフの目盛り	○	-
グラフ上の文字列	○	-
3-D 効果	○	-

表 : Office 2003 または、Office 2007 から Office 2010 における変更点の対応表

64 ビット版 Microsoft Office 2010 について

64 ビットプロセッサは、サーバーからデスクトップ コンピューターまでの広範なシステムで標準となりつつあります。64 ビットシステムでは、32 ビットシステムと比較して、使用できる仮想メモリと物理メモリの容量が増えます。そのため、以前と比べて非常に大きなデータセットを使用して大規模演算における問題を分析し、解決することができます。Office 2010 では、この大きな容量を活用できるように、ネイティブの 64 ビット版 Microsoft Office 製品が導入されました。

64 ビット版の Office 2010 には、以下のメリットがあります。

- 4GB を超える大容量のメモリを使用できます。
- Excel 2010 は、以前と比べて非常に大きなワークブックを読み込むことができます。
- Microsoft Project 2010 では、特に大規模なプロジェクトを構成する多数のサブプロジェクトを扱うことができます。
- ハードウェアによるデータ実行防止 (DEP) が既定でインストールされるため、セキュリティが強化されます。

次に 64 ビット版の Office 2010 の 32 ビット版との互換性に影響にする問題点として、描画エンジンの問題と ActiveX コントロールと COM アドインの問題点について説明します。

描画エンジンにおける問題点

グラフィカル デバイス インターフェイス (GDI) の 32 ビット版と 64 ビット版には違いがあります。64 ビット版では MMX がサポートされないため、パフォーマンスに影響が生じる可能性があります。

ActiveX コントロールと COM アドインにおける問題点

64 ビット版の Office 2010 のインストールでは、64 ビット版のコントロールのみが実行されるため、32 ビット版の Office 用に作成された ActiveX コントロールとアドイン (COM) DLL (ダイナミックリンク ライブラリ) は、64 ビット プロセスで動作しません。また、コンピューターには 64 ビット版と 32 ビット版のコントロールをインストールできますが、実行できるのは、64 ビット版のコントロールのみです。



64 ビット版の Office 2010 の詳細と互換性に関する情報については、別途提供されているホワイトペーパー「Microsoft Office 2010 マクロの互換性について」または、以下を参照してください。

→ 「64 ビット版の Office 2010」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ee681792.aspx>

ファイル相互利用時の注意点

この章では、Office 2010 と Office 2007 以前のバージョンの Office との間でファイルの相互利用を行う際に、ファイルサイズへの影響と描画エンジン、印刷、テキストレイアウトおよびグラフのスタイルに対する影響について、注意点を説明します。

ファイルサイズについて

Office 2010 の Word、Excel、PowerPoint で Office 97-2003 互換形式でファイルを保存すると、以前のバージョンの Office で保存したファイルよりファイルサイズが大きくなる場合があります。これは、各バージョン間でファイルを共有するための互換性情報が追加されるためです。

描画エンジンによる影響

Office 2007 では、より幅の広い表現を実現するため Word、Excel、PowerPoint の描画エンジンを刷新しました。しかし、Word 2007 では、図形、ワードアート、図形内およびテキストボックス内のテキストの描画については以前のバージョンの Word と同じ描画エンジンが使用されていたため、1つのファイル内に新旧の描画エンジンで描画されたオブジェクトが混在することがあり、問題が生じる場合があります。

Office 2010 では、Word においてもこの新しい描画エンジンが使用され、統一された描画エンジンによる図形オブジェクトの作成と編集が可能です。

描画エンジンによる影響として、以前のバージョンの Office で作成したファイルを開くと表現方法が変わっていたり、描画できるオブジェクトの既定値がこれまでと違っていたりすることがあります。

Office 2010 で強化された 3-D 効果のように、以前のバージョンの Office では表現できない効果が適用されたオブジェクトは、Office 2003 以前のバージョンの Office で開く際には画像オブジェクトに変換されます。Office 2007 以降では図形オブジェクトとして編集が可能です。以前のバージョンの Office では画像としてのみ編集ができます。

オブジェクトのデザインへの影響

描画エンジンの改善により、今までにないデザイン表現も可能となりました。基本的には以前のバージョンの Office と同じ表現が可能ですが、改善された描画エンジンでなければ実現できない表現や、図形オブジェクトの既定値が変更されたためにデザインが変わったオブジェクトもあります。以下に代表的な例を挙げます。

➤ 3-D 効果

以前のバージョンの Office では、20 の定義済み 3-D スタイルが提供されています。Office 2010 では、定義済み 3-D スタイルの数を増やし、以前のバージョンの Office と同じ角度のスタイルでも光源処理を追加したり、新しい 3-D 処理を追加したりと、洗練されたスタイルに変更されています。これらのスタイルは、基本的に新規に作り直したもので、定義済みのスタイルを使って以前のバージョンの Office と同様の 3-D 効果を適用することはできません。以前のバージョンの Office と同じスタイルにするには、図形の書式設定で角度や光源の設定を調整します。

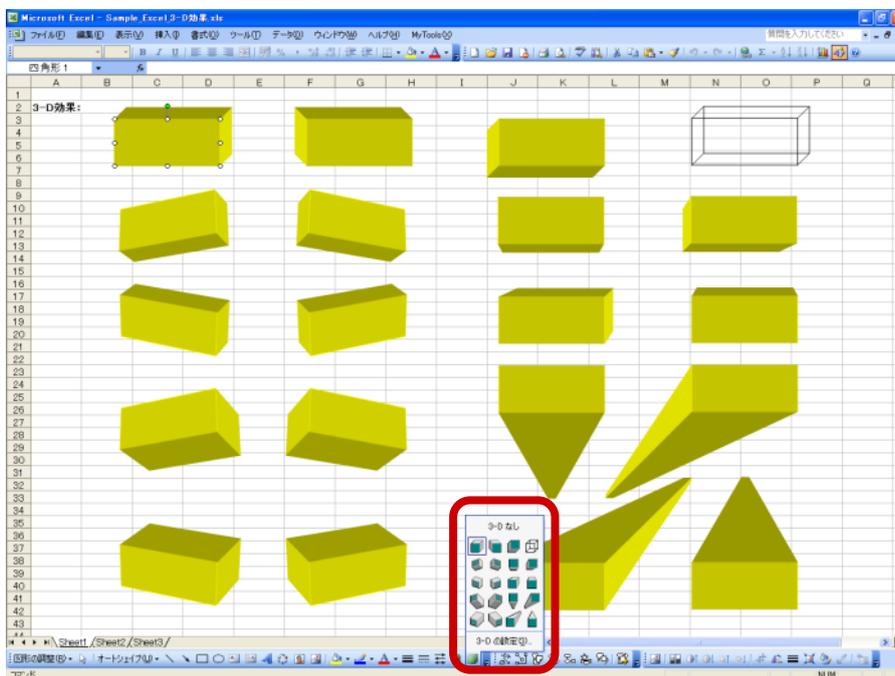
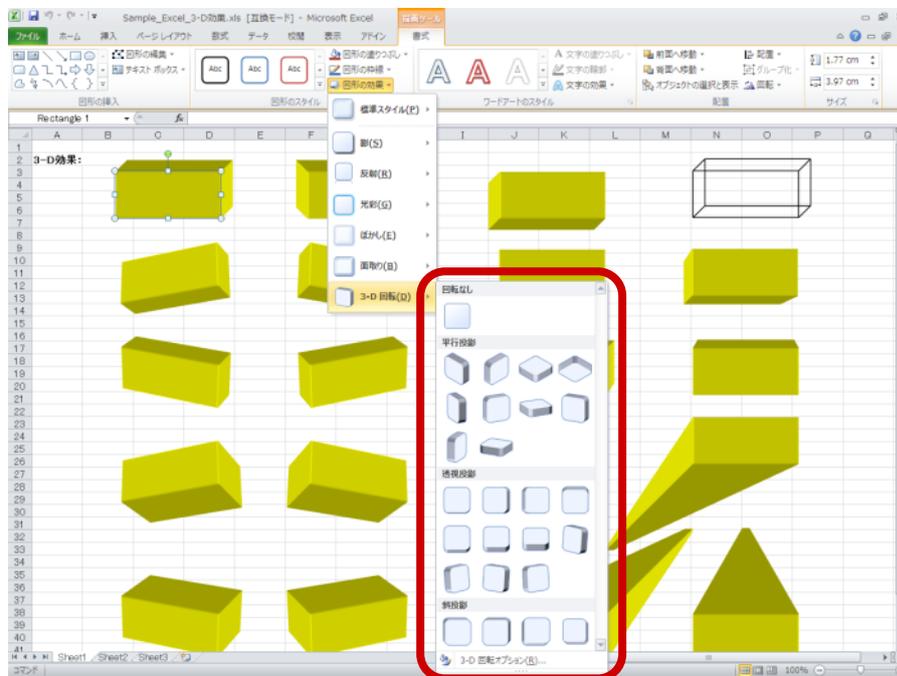


図 : Office 2003 の定義済み 3-D スタイル



図：Office 2010 の定義済み 3-D スタイル

➤ グラデーション効果

Office 2010 では、グラデーションの表現力と設定方法が大きく変わりました。以前のバージョンの Office では、単色の明暗か 2 色を指定するグラデーションが可能でしたが、Office 2010 では、明暗と色を 8 種類まで指定したグラデーションが可能です。Office 2010 でも、以前のバージョンの Office と同じグラデーションは描画可能ですが、機能拡張に合わせてユーザー インターフェイスも変更されているため、従来と同じ操作では設定できません。

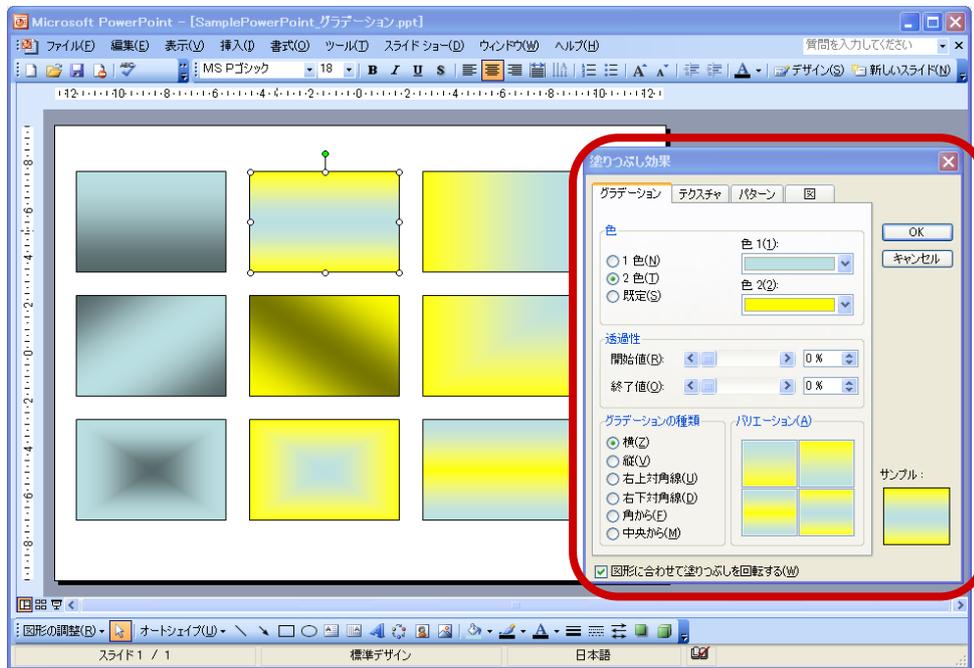


図 : Office 2003 のグラデーション設定ダイアログ ボックス

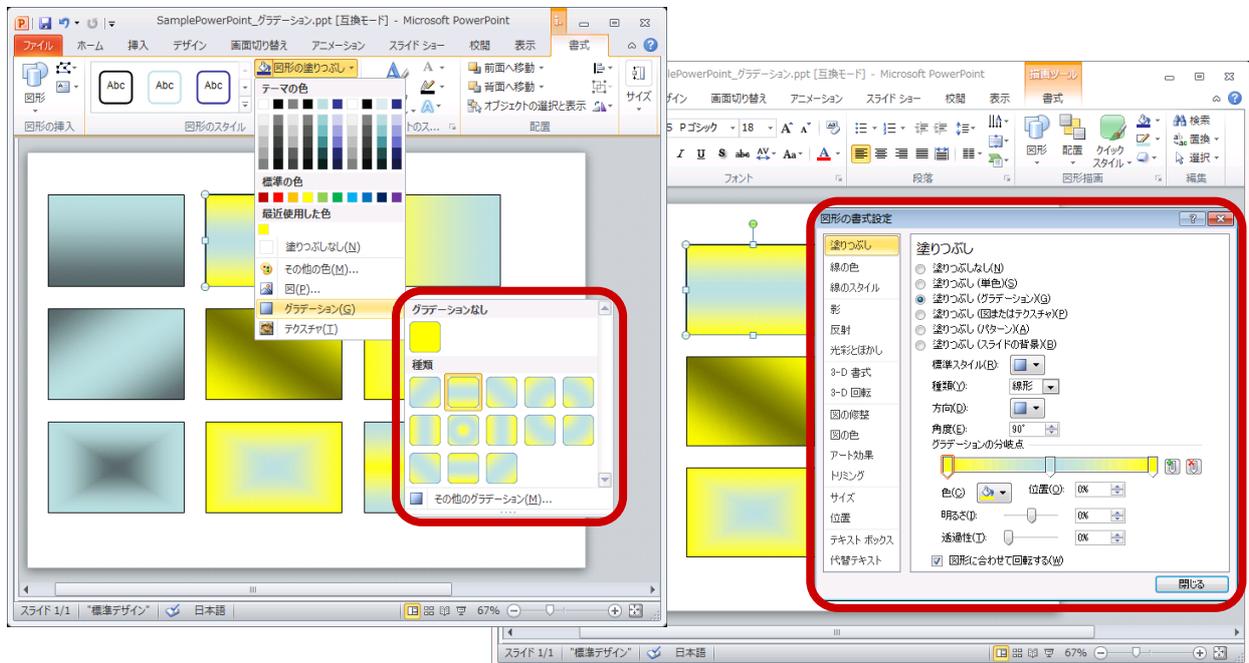


図 : Office 2010 のグラデーションギャラリーと設定ダイアログ ボックス

➤ 影のスタイル

図形オブジェクトに追加できる影効果の既定値が変わりました。Office 2010 の影には、透過性とぼかし効果が既定で追加されています。

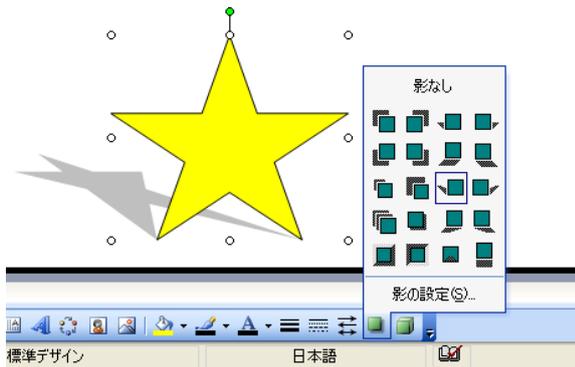


図 : Office 2003 の影の設定

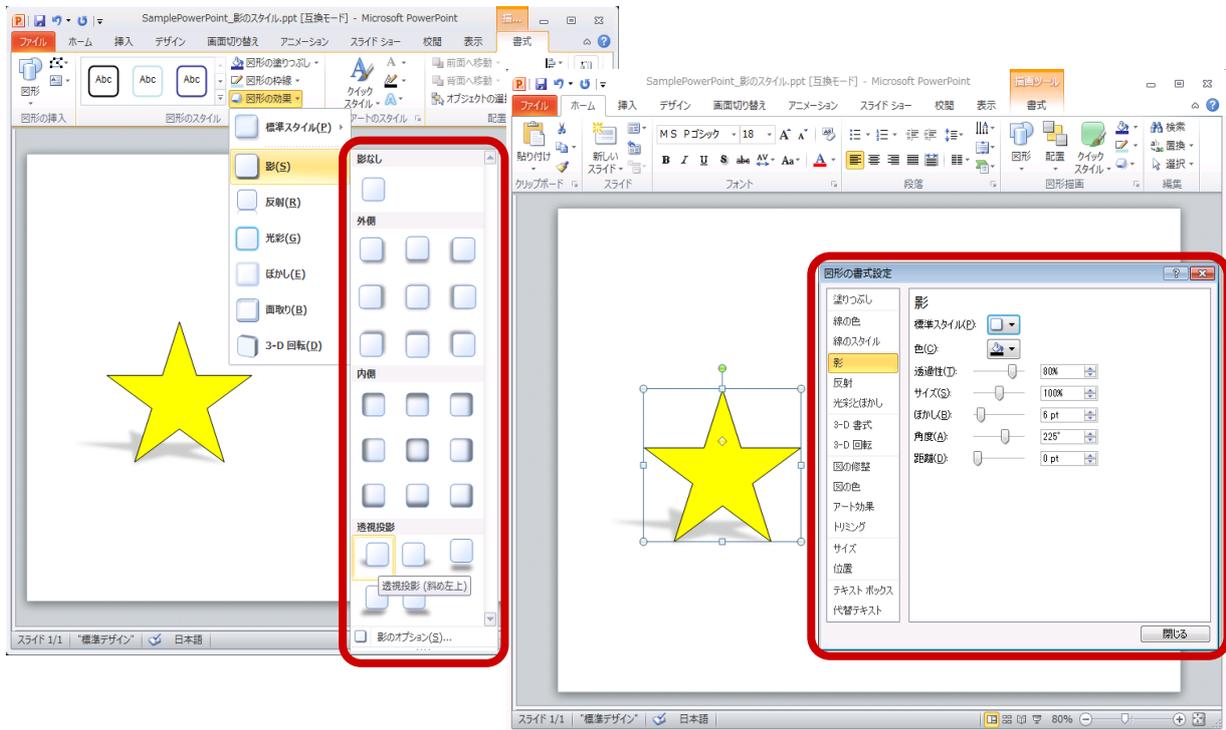
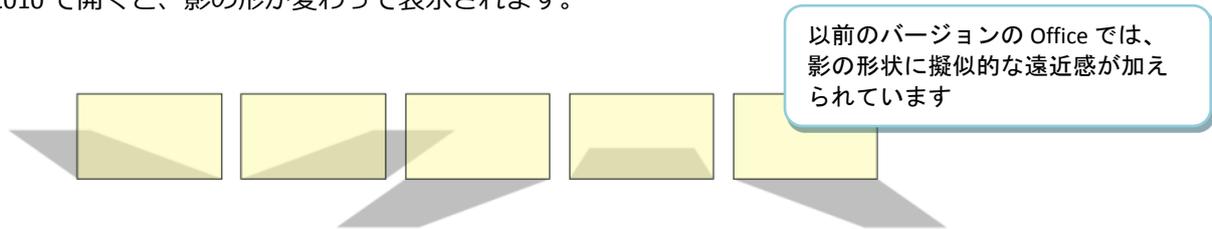
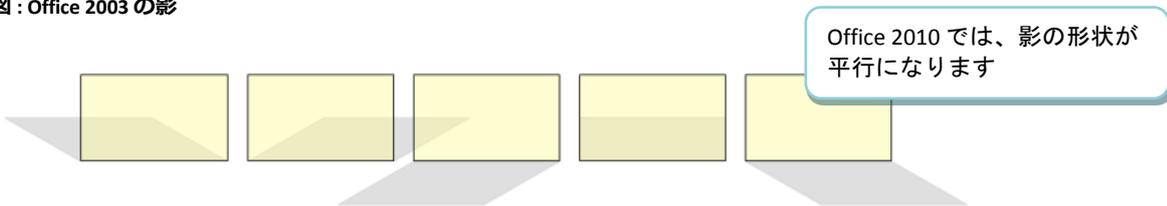


図 : Office 2010 の影の設定とダイアログボックス

また、以前のバージョンの Office での疑似的な遠近感を加えた影の表現を、Office 2010 では、平行の影として表現しています。このため、以前のバージョンの Office で設定したオブジェクトの入ったファイルを Office 2010 で開くと、影の形が変わって表示されます。



図：Office 2003 の影

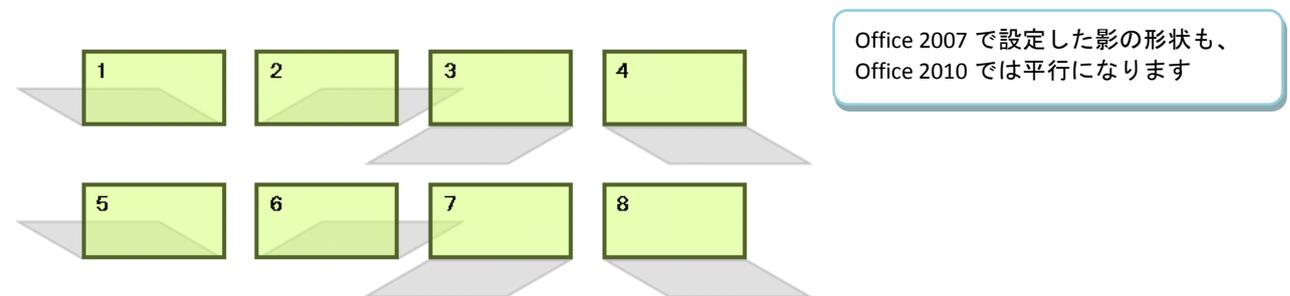


図：図のファイルを Office 2010 で開いた場合の影

Office 2007 で疑似的な遠近感を加えた影の表現についても、Office 2010 では、平行の影として表現されます。



図：Office 2007 の影



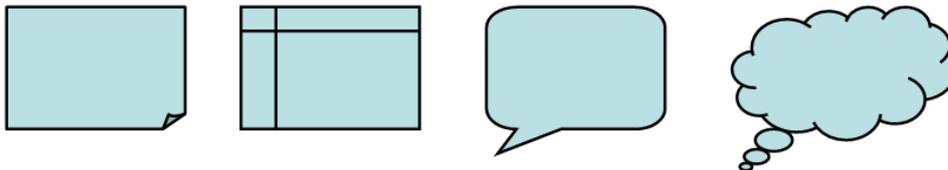
図：図のファイルを Office 2010 で保存し、このファイルを再度 Office 2010 で開いた場合の影

➤ 図形のデザイン

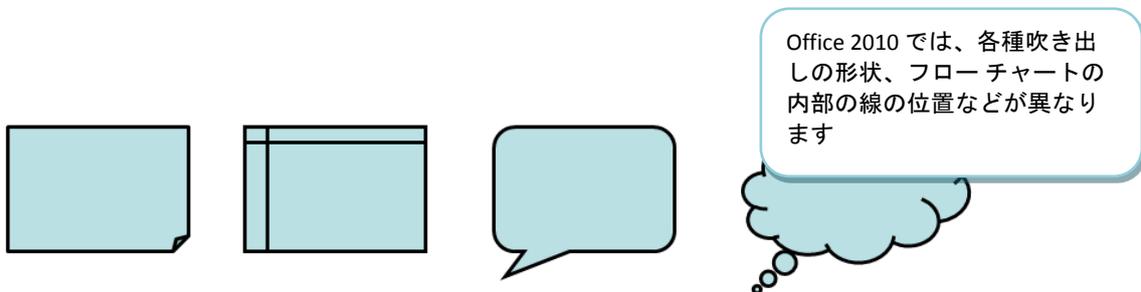
Office 2010 では、角丸四角形吹き出しの丸みや、各種吹き出しのデザインが変わりました。Office 2003 以前のバージョンで描画した、角丸四角形吹き出しなどの一部のオブジェクトは、Office 2010 では若干形状が変わって表示されます。詳しくは以下を参照してください。

- ➔ 「図形オブジェクトを含むファイルを Office 2003 で作成し、Office 2007 で開くとオブジェクトの見た目が変わる」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/939729/ja>



図：Office 2003 の[基本図形：メモ]、[フローチャート：内部記憶]、[吹き出し：角丸四角形]、[吹き出し：雲形吹き出し]



図：図のファイルを Office 2010 で開いた場合の[基本図形：メモ]、[フローチャート：内部記憶]、[吹き出し：角丸四角形]、[吹き出し：雲形吹き出し]

➤ 図形の調整

Office 2010 では、円柱の円周部分の角度が調整値 : 0 に設定されていると、塗りつぶしの形状が変化する現象が発生します。角度調整ハンドルでドラッグする方法を用いて、円柱の傾き角度を、0 以外に設定することで、この問題を回避することができます。

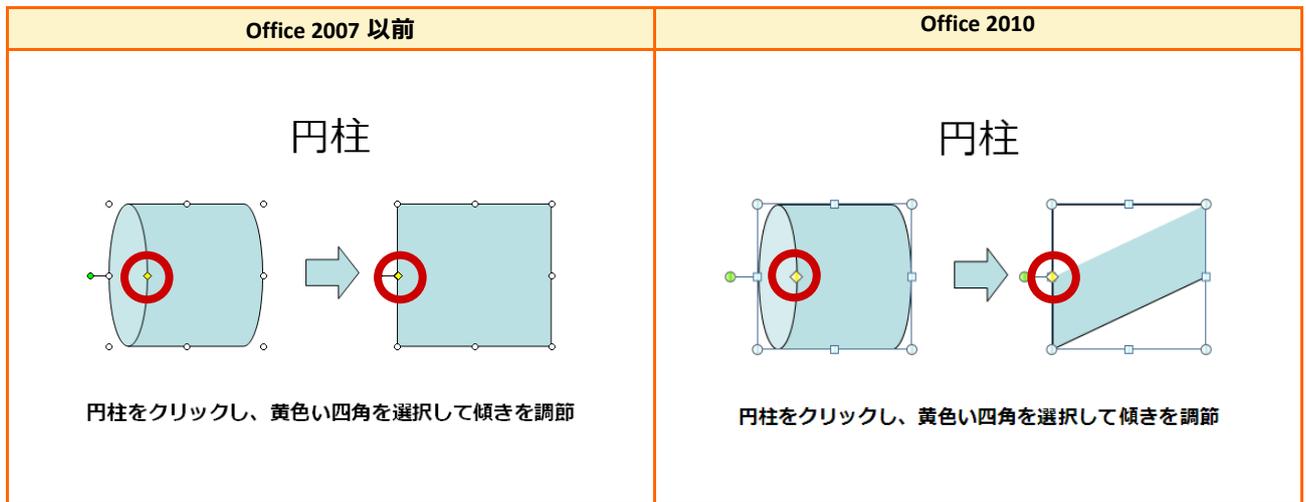
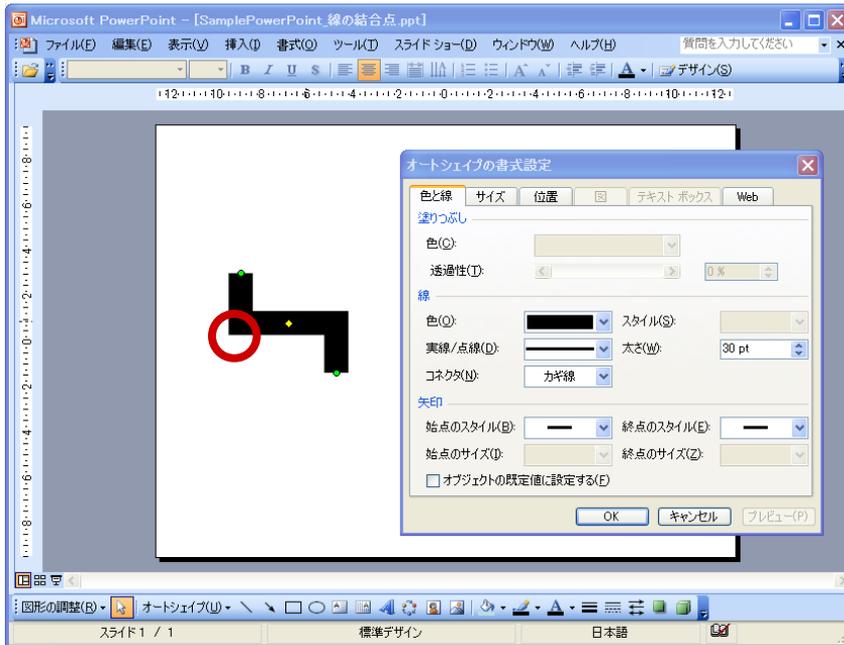


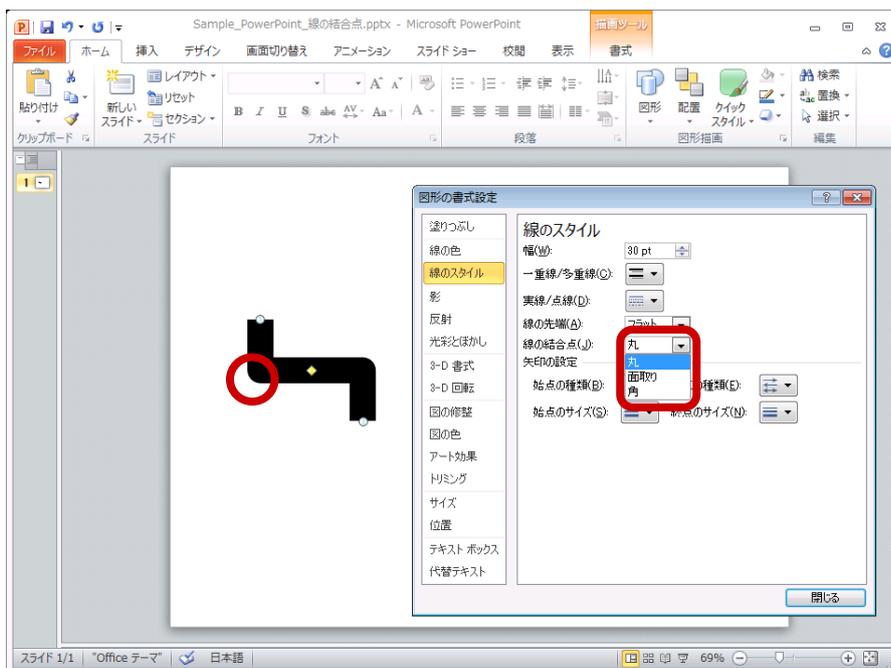
図 : 円周部分の角度調整による塗りつぶしの形状

➤ 線の結合点

線の結合点の既定値は、以前のバージョンの Office では [角] でしたが、Office 2010 では [丸] になりました。



図：Office 2003 の線の結合点



図：Office 2010 の線の結合点

ワードアートへの影響

Office 2010 では、図形内およびテキスト ボックス内のテキストも図形と同じ描画エンジンで表現するようになり、ワードアート オブジェクトという概念はなくなりました。Office 2007 以前のバージョンで作成したファイル内のワードアート オブジェクトは、Office 2010 でそのファイルを開くと、同等の装飾効果が施されたテキストに変換されます。見た目はほとんど変わりませんが、影などの既定値が変わった効果の影響で若干見た目が変わることがあります。Office 2010 で上書き保存し、再び以前のバージョンの Office で開いた場合は、ワードアートとして編集することが可能です。しかし、Office 2010 で、以前のバージョンの Office ではサポートしていない種類の装飾効果に変更を行った場合は、以前のバージョンの Office で開くとテキストの装飾効果が失われます。

また、以前のバージョンの Office で作成した縦書きワードアート オブジェクトに英数字が含まれる場合、Office 2010 でそのファイルを開くと文字の方向が変わることがあります。

▶ 縦書きワードアートの英数字の方向が変わる

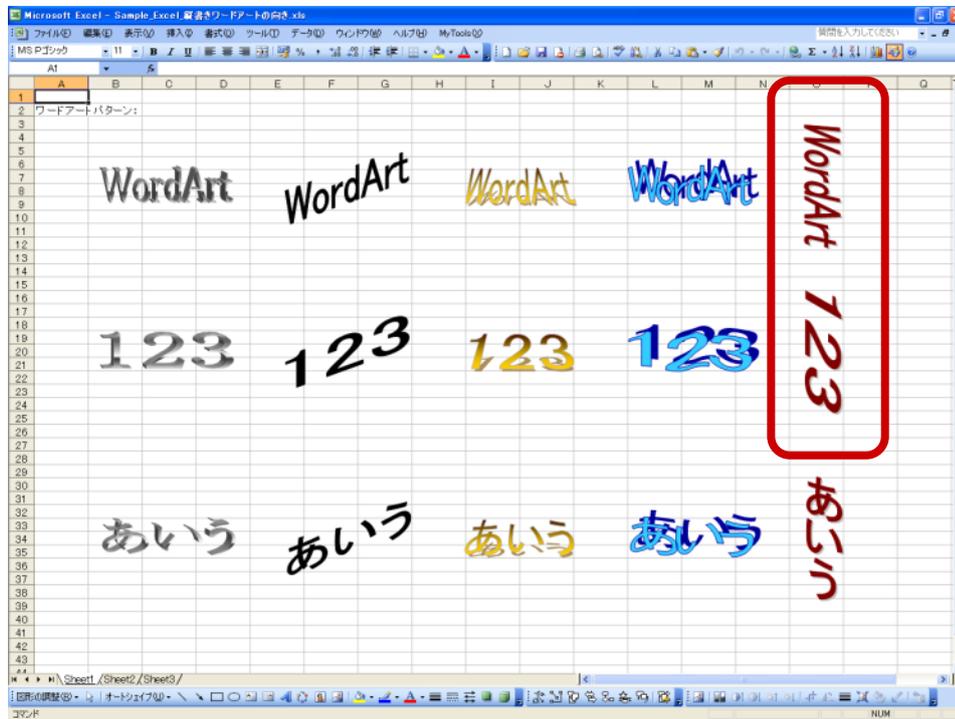
ワードアートを含む、以前のバージョンの Office で作成したファイルを Office 2010 で開くと、縦書きワードアートの英数字の方向が変わることがあります。Office 2010 で上書き保存し、以前のバージョンの Office で開いた場合は、作成時の文字の方向に戻ります。

以前のバージョンの Office で作成したワードアート オブジェクトは、言語情報を持っていないため、Office 2010 でテキストに変換される際に、先頭の文字のコードによって変換ロジックが決定されます。先頭文字が英数字であった場合は、欧米バージョンのワードアートとして識別され、英数字も縦書きに変換されます。欧米バージョンの Office では、縦書きのワードアートでは英数字が縦書き表示されていたからです。英数字の方向は、[文字列の方向] で変えることができます。

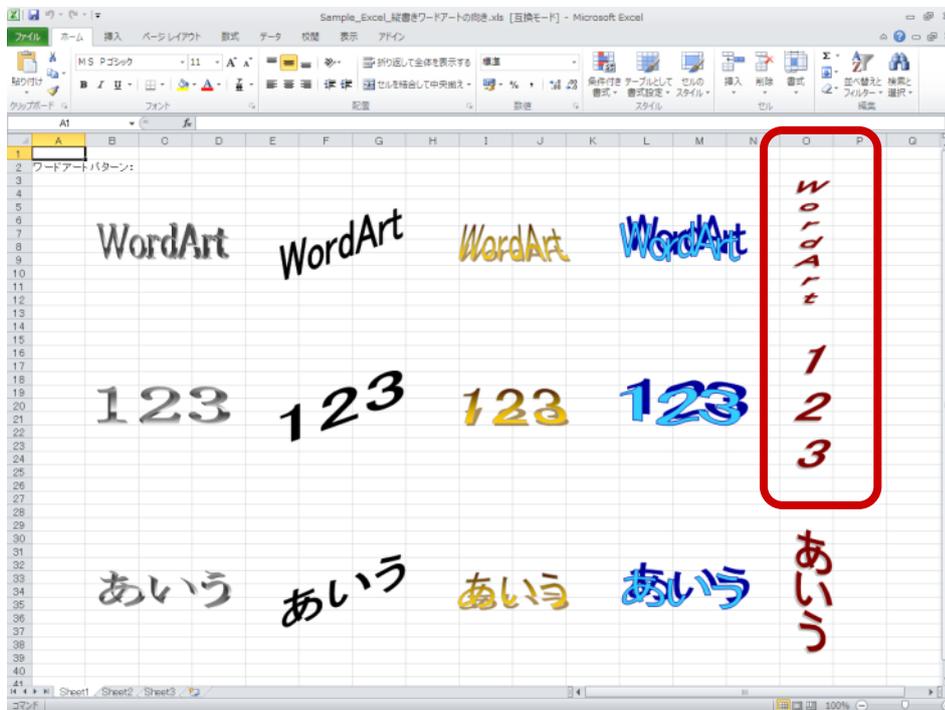
なお、先頭文字が日本語であった場合は、日本語バージョンのワードアートとして識別され、英数字は右に 90 度回転した状態で表示されます。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Excel 2003 または PowerPoint 2003 に挿入した縦書きのワードアートを Office 2007 で開くとワードアートの向きが変わる」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/939730/ja>



図：Excel 2003 で作成したワードアート



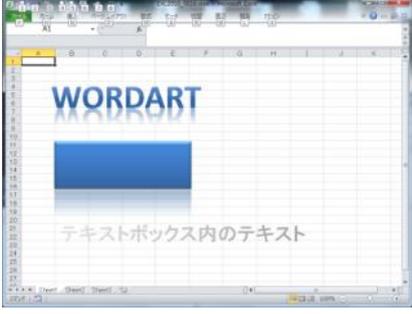
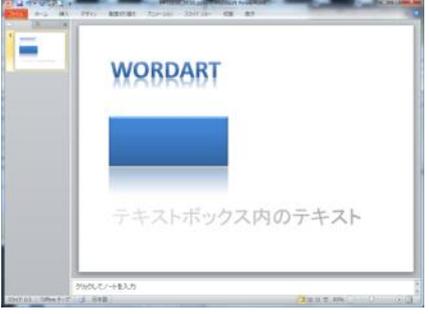
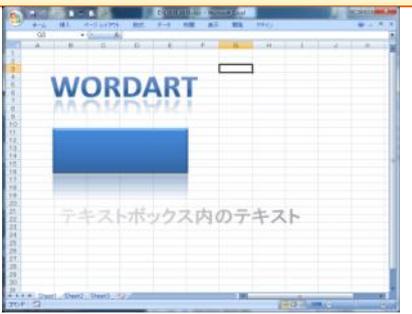
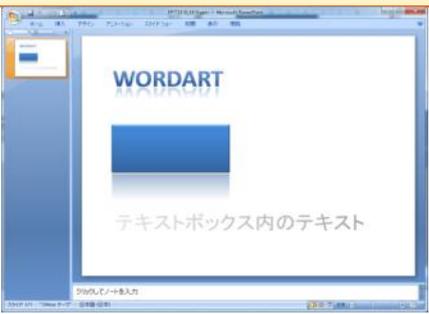
図：図 のファイルを Excel 2010 で開いた場合のワードアート

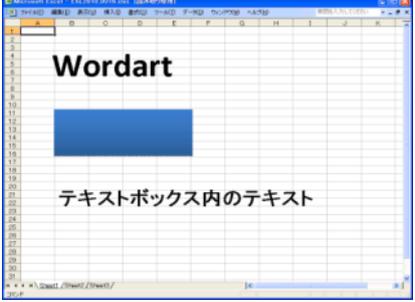
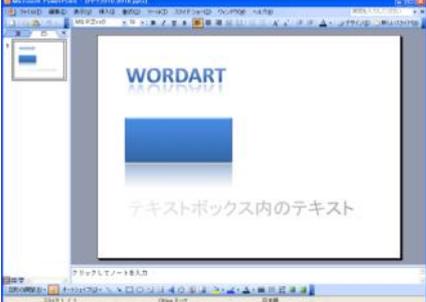
- 描画エンジンの違いによる注意事項

異なるバージョンの Office が共存する環境では、描画エンジンの違いにより、表示や動作が変化します。異なる Office バージョンが共存する環境でファイルの編集を行うとき、どちらの環境でも同じ効果を維持するためには、新バージョンでは互換モードで編集を行います。

下記の表は Office2010 で描画エンジンを利用して作成したファイルを、Office 2007、Office 2003 で開いた場合の視覚効果と編集可否の変化を示しています。なお、ファイルは下記の効果を含んでいます。

- ① ワードアート
- ② 図形の効果（3D 効果や影、反射など）
- ③ 図形・テキストボックス内のテキストの効果

Word2010	Excel2010	PowerPoint2010
		
Word2007	Excel2007	PowerPoint2007
		
視覚効果： <u>取り消される</u> 編集：可能	視覚効果：同様 編集：可能	視覚効果：同様 編集：可能

Word2003	Excel2003	PowerPoint2003
		
視覚効果： <u>取り消される</u> 編集：可能	視覚効果： <u>取り消される</u> 編集：可能	視覚効果：同様 編集： <u>不可(図形に変換される)</u>

表：描画エンジンの違いによる視覚効果と編集可否

印刷モードと図形オブジェクトの印刷品質

Excel 2010 と PowerPoint 2010 では、描画オブジェクトの印刷品質を、2通りの方法から選択することができます。既定の設定では、高品質モードはオフになっています。

高品質モードでは、印刷に時間がかかりますが、画像オブジェクトの印刷品質が向上します。高品質モードがオフの状態での印刷と比べて、解像度と、非 3-D オブジェクトの影の扱いに違いがあります。

	既定のモード	高品質モード
3-D オブジェクトの印刷解像度	220 dpi	プリンター解像度の半分 (220 dpi 以下にはなりません)
非 3-D オブジェクトの影	PowerPoint 2010: 印刷されない Excel 2010: 印刷される	印刷される

表: 印刷モードによる印刷品質の違い

Word 2010 には、描画オブジェクト用の特別な印刷モードはなく、常に高品質モードで印刷されます。また、3-D オブジェクトは、高品質モードにおいてもプリンター解像度の半分の解像度で印刷されます。これは、3-D オブジェクトをプリンター解像度で印刷すると、スプールサイズが大きくなり、印刷されるまでの時間が長くなるためです。印刷を行うプリンターにもよりますが、プリンター解像度で印刷した場合と、高品質モードで印刷した場合との印刷品質の違いは、ほとんどないことが確認されています。

Excel 2010、および PowerPoint 2010 で高品質モードの印刷を行う方法については、本ドキュメントの「その他の詳細情報」の「高品質モードでの印刷」を参照してください。

3-D オブジェクトと 2-D オブジェクトの違い

3-D オブジェクトとは、面取りなどの 3-D 書式や、3-D 回転が適用されたオブジェクトを指します。印刷モードによって出力解像度が変化します。

日本語の入力



図：3-D オブジェクト

非 3-D オブジェクトとは、3-D 書式や 3-D 回転が適用されていない 2-D オブジェクトのことです。この場合、印刷モードを変えても解像度は変わりませんが、既定のモードでは影が印刷されません。

日本語の入力



図：非 3-D オブジェクト

3-D 書式や 3-D 回転以外の反射、ぼかし、光彩といった効果は、印刷モードの影響を受けません。



図：印刷モードに影響を受けない装飾効果

テキストのレイアウトへの影響

Office 2010 では、テキストのレンダリングを行うエンジンが刷新されています。アプリケーションごとに強化の内容は異なりますが、改行位置の調整や、数式の描画エンジンの強化、多言語対応の強化などが進められています。その一方で、以前のバージョンの Office で作成したファイルを、Office 2010 で開くと、レイアウトに差異が生じることがあります。

本文中の改行位置について

テキストのレンダリングを行うエンジンの変更に伴い、本文行末の改行位置が、以前のバージョンの Office とは異なる場合があります。

例えば、Office 97-2003 形式のファイルを Word 2010 で開いて Open XML 形式で保存する際に、[以前のバージョンの Word との互換性を保持する] オプションをオフにして保存すると、本文中の改行位置がずれる場合があります。Word 2010 の場合、[以前のバージョンの Word との互換性を保持する] オプションをオンにして保存することで、テキストのレンダリングを行うエンジンの強化など改善された機能が引き起こす影響を、最小限に抑えることが可能です。

テキスト ボックス内の改行位置について

Office 2010 では、テキスト描画のパフォーマンス改善や、文字欠け問題のさらなる改善のために、テキスト ボックス内のテキストに対して改行位置の調整を行う処理の改良を行いました。その結果、以前のバージョンの Office で作成したファイルを Office 2010 で開くと、テキスト ボックス内でテキストの改行位置が変わることがあります。

➤ 改行位置の調整

PowerPoint を例として、改行位置の調整方法の改良点と、その影響についてご説明します。

以前のバージョンの PowerPoint の改行位置の調整方法は複雑で、場合によってはテキスト ボックスの外に文字がはみ出たり、文字が欠けて表示されたりすることがありました。この複雑な調整方法を変え、1 行に収まる文字数に制限をした結果、改行位置がずれたり、行数が増えたりすることがあります。この現象は、テキスト ボックスや図形に対して大きめのフォント サイズでテキストを格納している場合に発生しやすくなります。

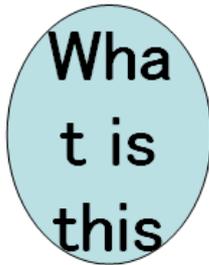


図 : PowerPoint 2003 での改行位置

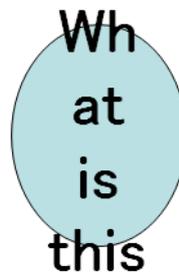


図 : PowerPoint 2010 での改行位置

また、以前のバージョンの PowerPoint では、テキストボックスやシェイプの枠線の太さを考慮して改行位置を調整していましたが、太さに合わせた調整は処理が難しく、またパフォーマンスにも影響が出る可能性があります。この調整方法を廃止し、1行におさまる文字の数は枠線の太さに関係なく一定としました。その結果、以前のバージョンの PowerPoint と比べると1行におさまる文字数が増え、改行位置がずれることがあります。この現象は、枠線を太くしているテキストボックスや図形で発生します。

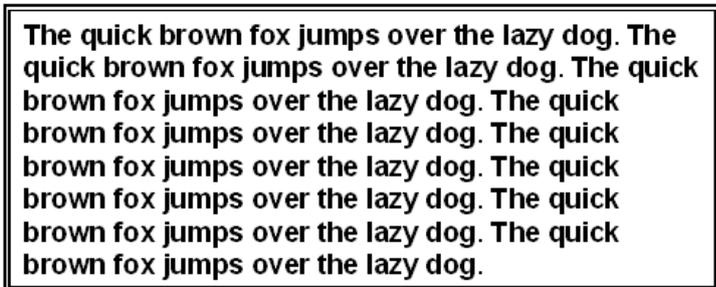


図 : PowerPoint 2003 での改行位置

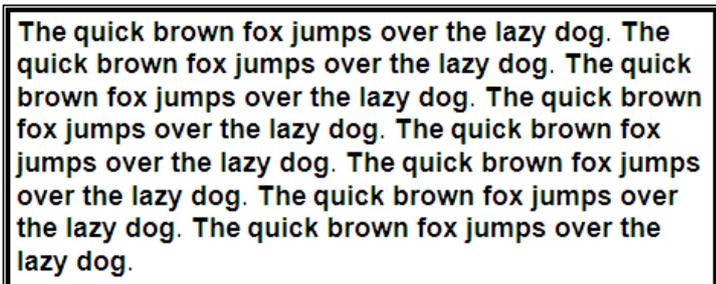
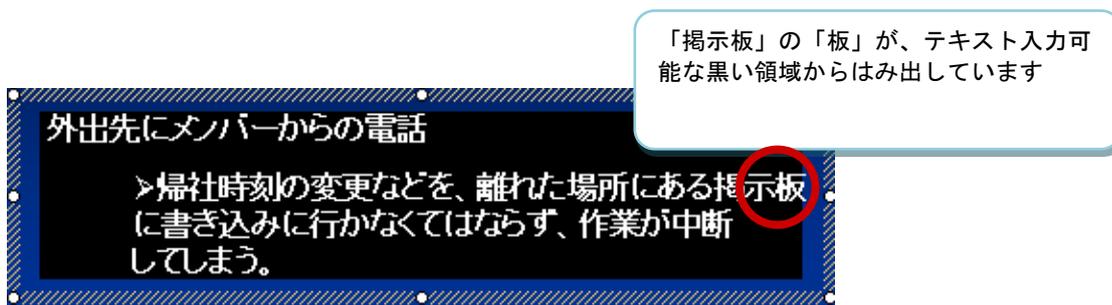


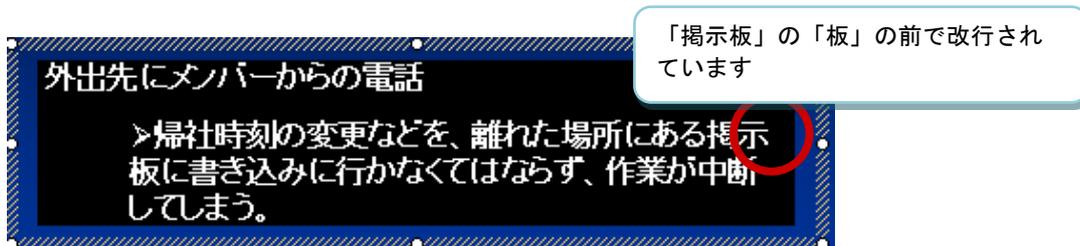
図 : PowerPoint 2010 での改行位置

その他、以前のバージョンの PowerPoint で段階的に実装されている仕様もあります。

PowerPoint 2003 SP2 では、文字欠けの発生を防ぐことを目的として、テキストボックスの 1 行に収める文字数の計算を最適化しました。これによって、文字欠けの発生は抑えられましたが、代わりに改行位置がずれたり、行数が増えたりする現象が発生する場合があります。通常は、1 文字のみが影響を受けますが、禁則処理のために 2 文字分が次の行へ移動する場合があります。



図：文字欠けが発生する可能性のあるテキストボックス



図：仕様変更により修正された状態

PowerPoint 2002 では、テキストボックスの内部の余白を広げ、テキストが入力可能な領域を少し狭くしています。PowerPoint 2000 以前では、テキストボックスの一行に入る文字数が非常に多く、最後の文字がボックスからはみ出たり、表示されなくなることがありました。この変更の影響で、PowerPoint 2000 以前で作成したファイルを PowerPoint 2002 以降で開くと、入り切らなくなった文字が改行される場合があります。

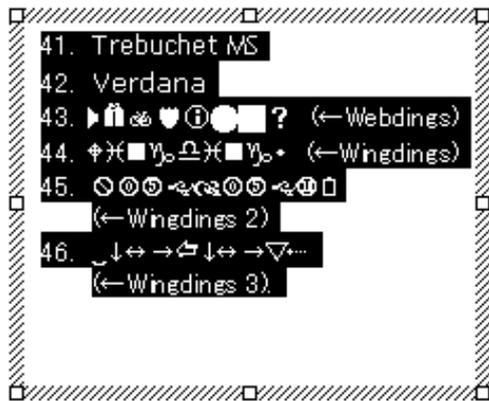


図 : PowerPoint 2000 のテキストボックス

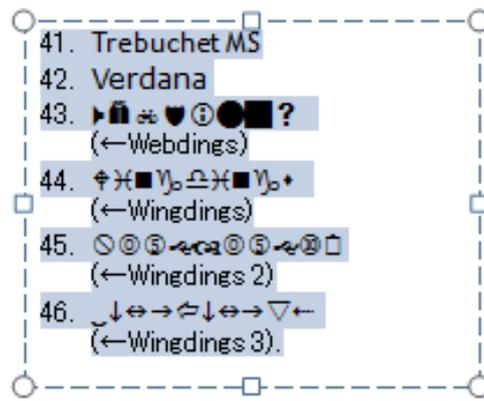


図 : 図のファイルを PowerPoint 2010 で開いた場合のテキストボックス

➤ 描画エンジンの統一による影響

Office 2010 では、図形内およびテキストボックス内のテキストを描画するエンジンが統一されています。その関係で、図形やテキストボックス内の余白のサイズの調整方法が変わりました。印刷や画面再描画時に外枠近くにある文字が欠けて表示されてしまう問題を解決するため、テキストの入力可能な領域が以前のバージョンの Office よりも少し狭くなっています。そのため、以前のバージョンの Office で作成したファイルを Office 2010 で開くと、テキストボックス内の改行位置が変わってしまうことがあります。この現象は、テキストボックス内に、文字数の多いテキストが入力されている場合に発生しやすくなります。

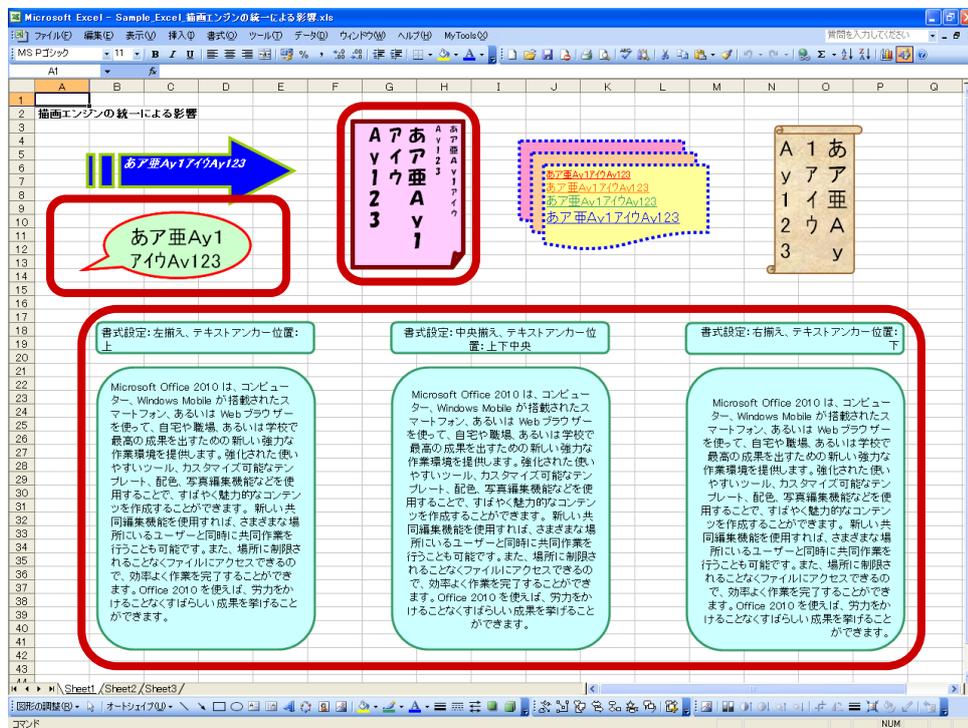


図: Excel 2003 で作成したファイル

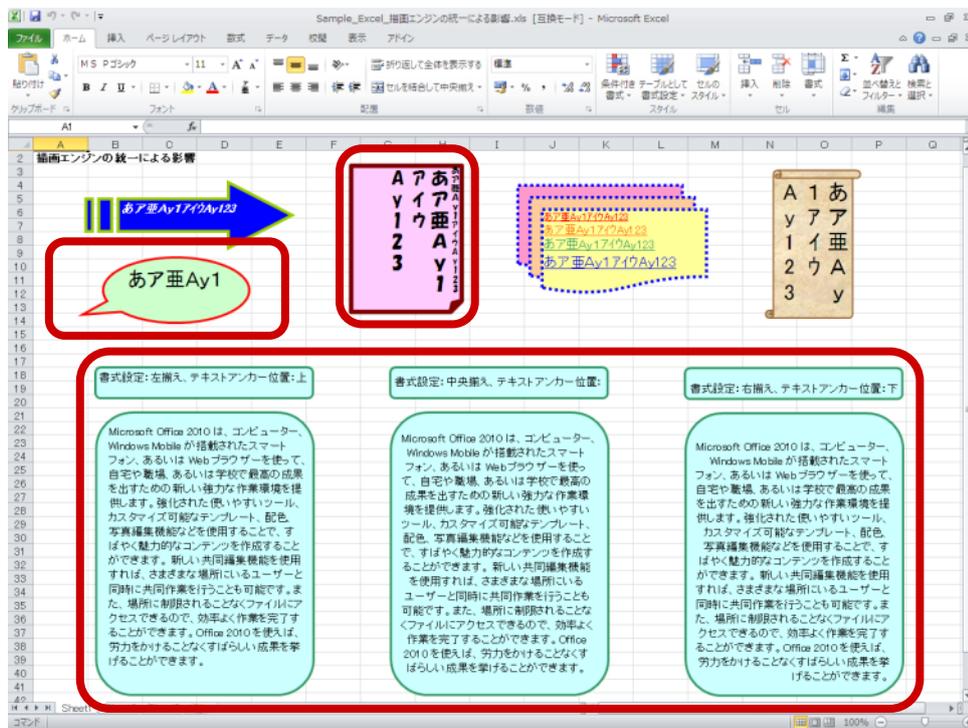


図: 図 のファイル Excel 2010 で開いた場合

グラフのスタイル

Excel 2010 では、3-D 効果、ぼかし、透過性などの洗練された視覚的拡張機能を適用し、見栄えのよいグラフを作成できます。描画エンジンの刷新に伴って、既存のグラフのスタイルにもより洗練された表現となるように変更が加えられているため、以前のバージョンの Excel のグラフとは見た目が異なります。また、Microsoft Graph のグラフについても、同様に視覚的表現が変更されています。

Microsoft Graph オブジェクトを Excel 2010 で編集する場合、Excel 形式のグラフに変換するか、または Microsoft Graph オブジェクトのまま編集するかを選択できます。このとき、Excel 形式のグラフに変換すると、グラフの描画エリアの大きさが若干変化し、グラフ表示の軸目盛の最大値を自動的に設定している場合は、軸目盛の最大値の値が変わる場合があります(元のグラフ オブジェクトにおいて最大値が指定されていれば、この問題は発生しません)。ただし、表示されているデータの値が変化することはありません。

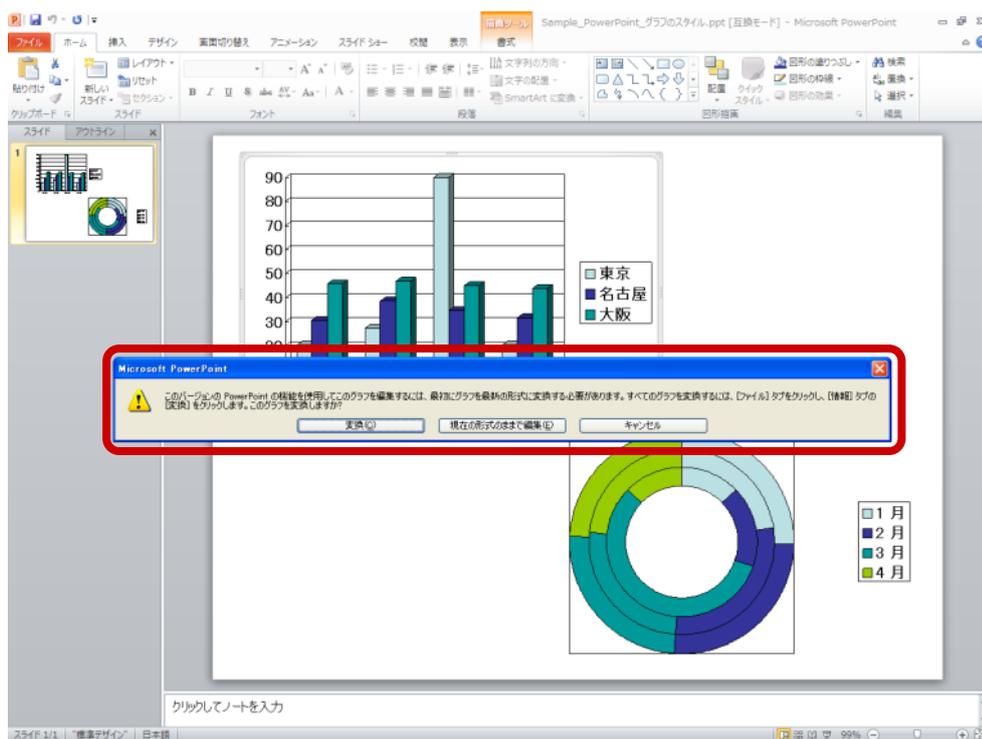
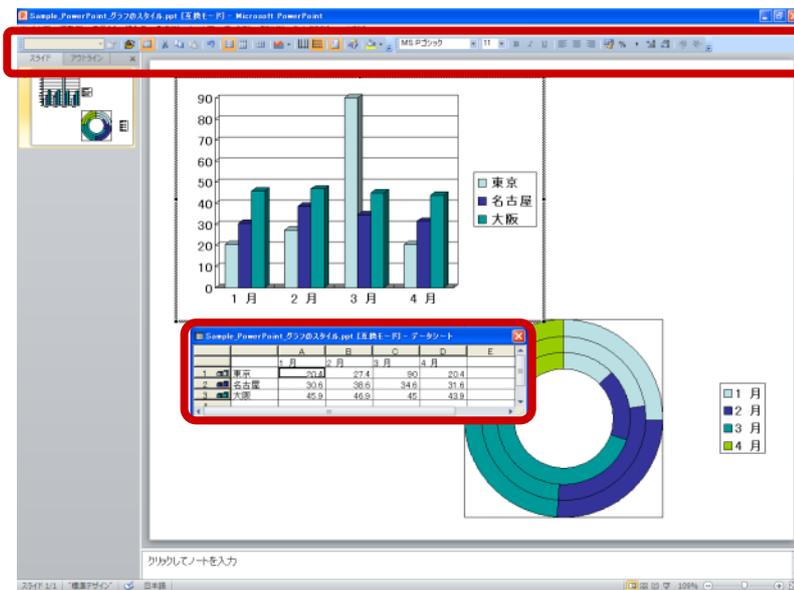
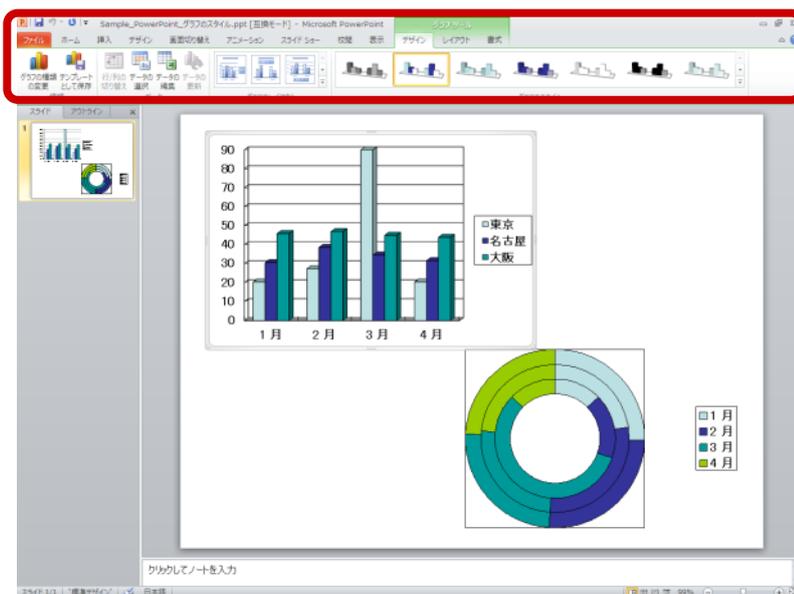


図 : PowerPoint 2003 で作成した Microsoft Graph によるグラフを、PowerPoint 2010 で編集しようとした場合に表示されるダイアログボックス

また、以前のバージョンの Word、PowerPoint へのグラフ埋め込みには、Microsoft Graph が利用されてきましたが、Office 2010 では Excel グラフを利用できるようになりました。これにより、以前のバージョンの Office で作成したファイルを Office 2010 で表示する際に、グラフの形式を変換することが可能となっています。



図：[現在の形式のまま編集] を選択して、Microsoft Graph のまま編集を行った場合



図：[変換] を選択して、Excel グラフに変換して編集を行った場合

ピボットグラフについては、Office 2003 以前のバージョンの Excel で作成したファイルを Excel 2010 または、Excel 2007 で開き、Office 97-2003 互換形式で保存後、再び Office 2003 以前のバージョンの Excel で開くと、ピボットグラフの周囲に点線が追加されます。

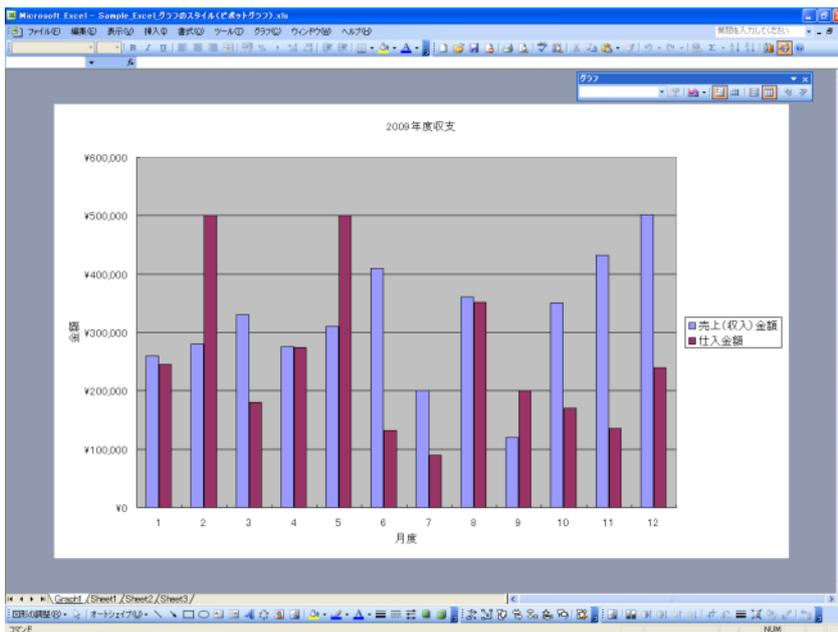


図 : Excel 2003 で作成したピボットグラフ

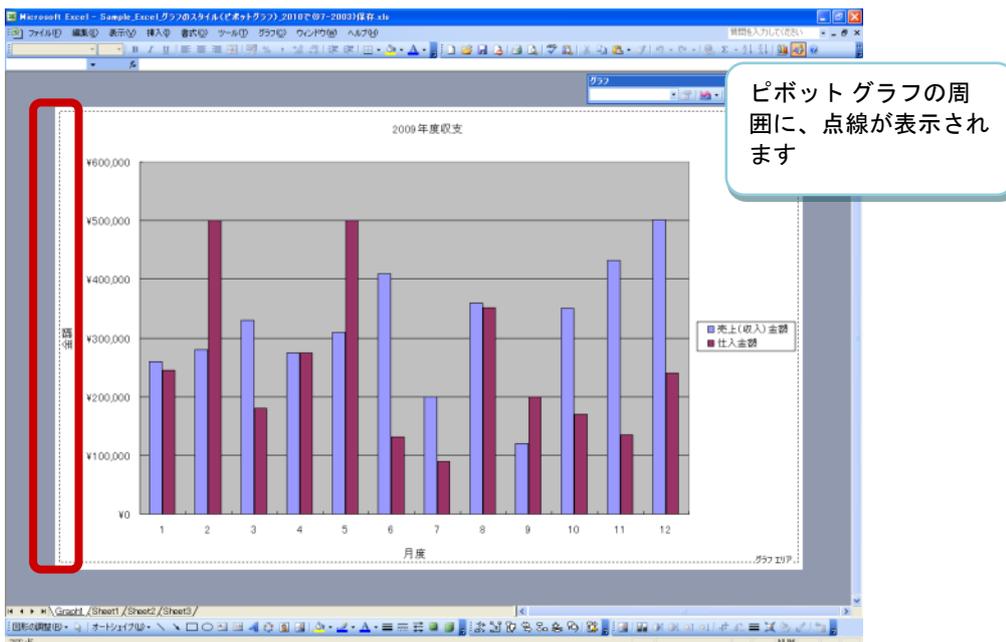


図 : Excel 2003 で作成したファイルを Excel 2010 で保存後、Excel 2003 で開いた場合

その他の注意点

描画エンジンや、テキストレイアウト、グラフに対する影響のほかに、以下のような注意点があります。

Word 2010、Excel 2010、PowerPoint 2010 共通の注意点

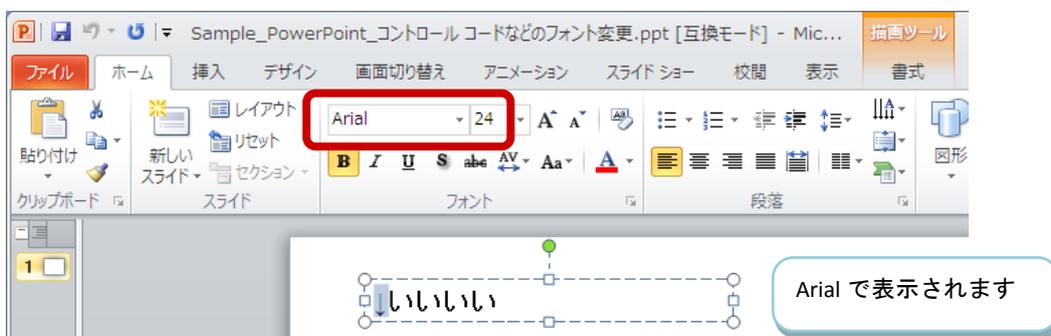
▶ コントロールコードなどのフォントが変更される

以前のバージョンの Office では、タブや改行などのコントロール文字には、日本語などの Office 表示言語のフォントが割り当てられていました。Office 2010 では、文字の自動言語認識アルゴリズムを拡張し、その影響でこれらコントロール文字には、欧文フォントが割り当てられるようになっていました。こうした文字は表示されておらず、便宜上フォントが割り当てられているので、デザイン上の違いはありません。

以前のバージョンの Office では、文字コード 2190 から 21FF の範囲にある Unicode 記号文字は、日本語文字として認識され、自動的に日本語フォントの MS Pゴシックが割り当てられていました。しかし、Office 2010 のアルゴリズムの拡張により、これらの文字列は欧文文字として認識され、自動割り当てには欧文フォントが使用されるようになりました。例えば、下の例のように、以前のバージョンの Office では日本語フォントだった矢印記号が、Office 2010 で読み込むと欧文フォントになる場合があります。



図：PowerPoint 2003 のコントロール文字



図：PowerPoint 2010 のコントロール文字

詳しくは以下を参照してください。

→ 「Office 2007 で指定したフォントが以前のバージョンの Office で開くと異なるフォントに変更される」
(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/937785/JA>

➤ グラフ軸の目盛り・色が変化する

以前の Office で作成したグラフを含むファイルを Office 2010 で開いた場合、グラフ軸の目盛り・色が変わる場合があります。グラフの軸を、自動ではなく固定に設定することで、この問題を回避することができます。

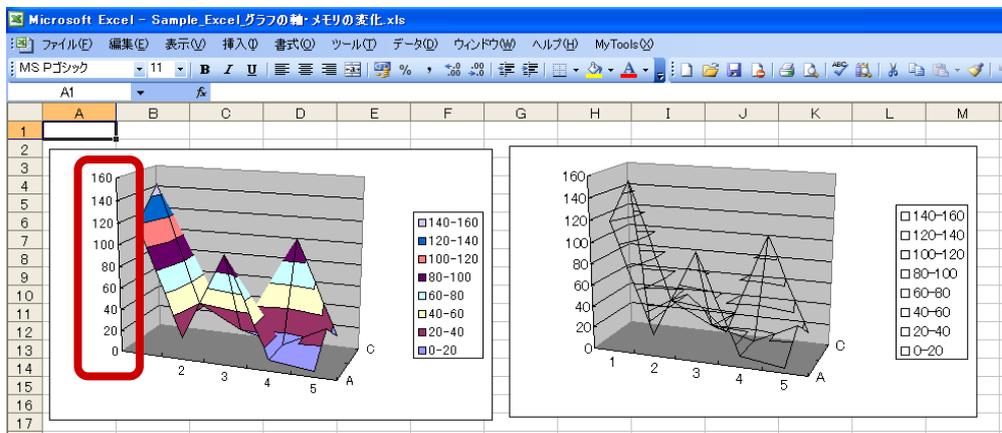


図 : Excel 2003 のグラフ

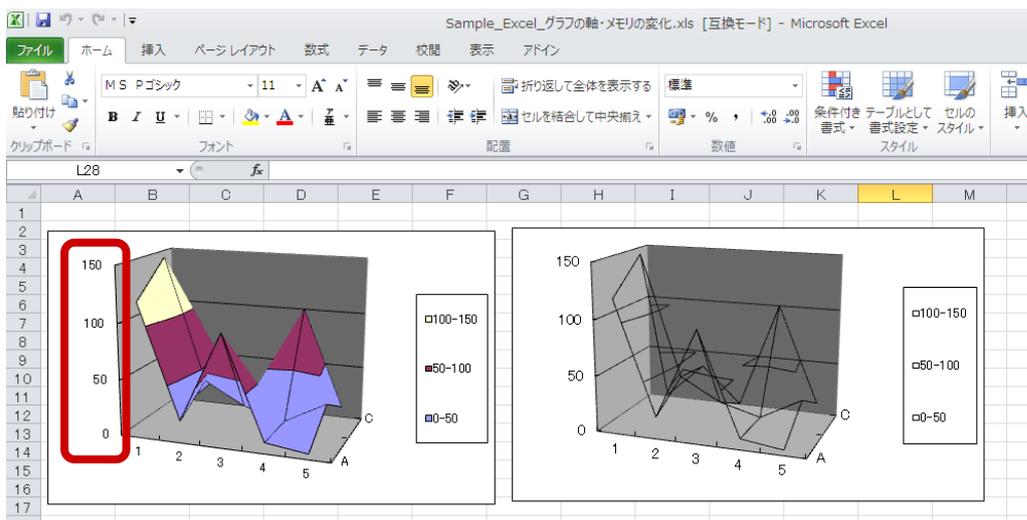


図 : 図 62 のファイルを Excel 2010 で開いた場合

詳しくは以下を参照してください。

→ 「Excel 2010 で Office Excel 2003 のグラフの軸やグラフの色が変わってしまう場合がある」

<http://support.microsoft.com/kb/982273/ja>

➤ 組織図オブジェクトの変更

Office 2010 では、組織図作成機能が SmartArt に統合され、すばやくシームレスに組織図の作成と編集が可能になりました。

Office 2000 で作成したファイル内の組織図オブジェクトは、Office 2010 でも組織図アドオンを利用して従来の組織図オブジェクトとして編集することが可能です。また、Office 2010 で組織図アドオンを利用することで、新規に組織図オブジェクトを挿入することもできます。

Office XP、または Office 2003 で作成したファイル内の組織図オブジェクトは、Office 2010 で開いて編集を行おうとした場合、SmartArt か図形かを選択して、変換が行われます。SmartArt に変換後の組織図は、以前のバージョンの Office では画像として扱われ、編集を行うことはできなくなります。

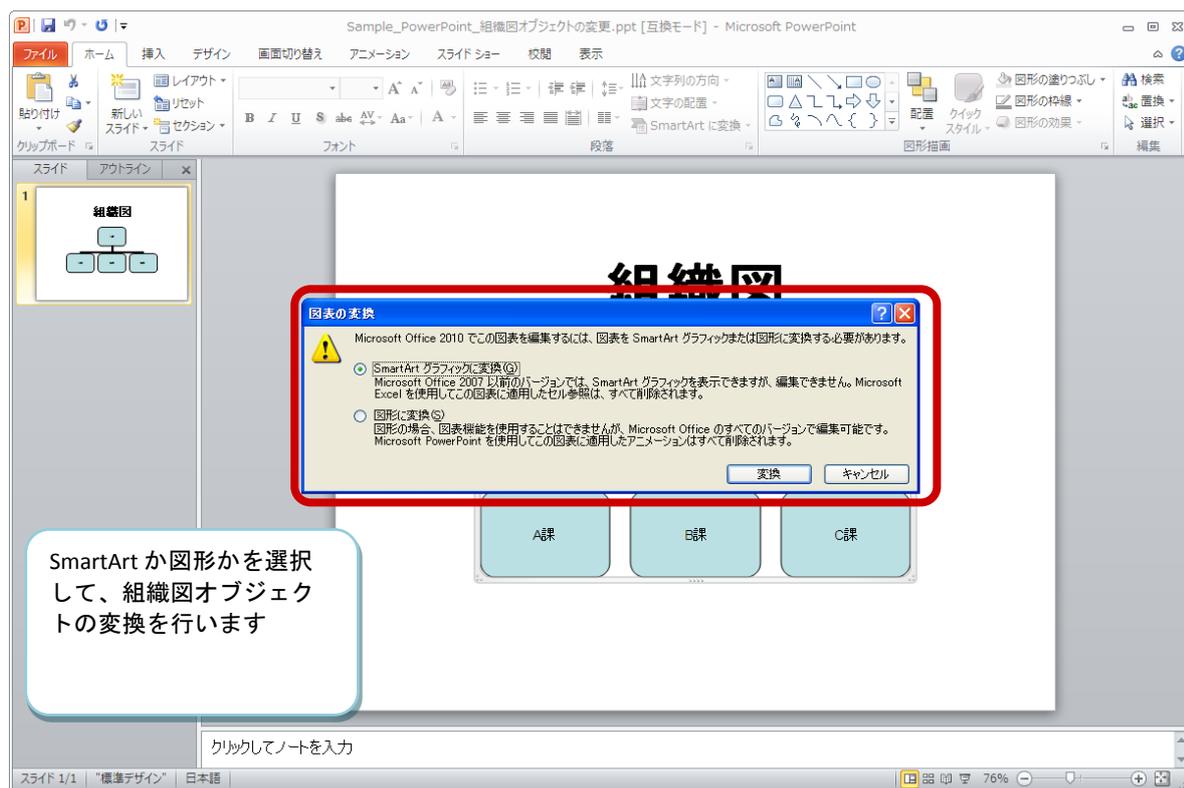


図 : Office 2010 で、以前のバージョンの Office で作成した組織図オブジェクトを編集する場合の変換ダイアログ ボックス

Word 2010 の注意点

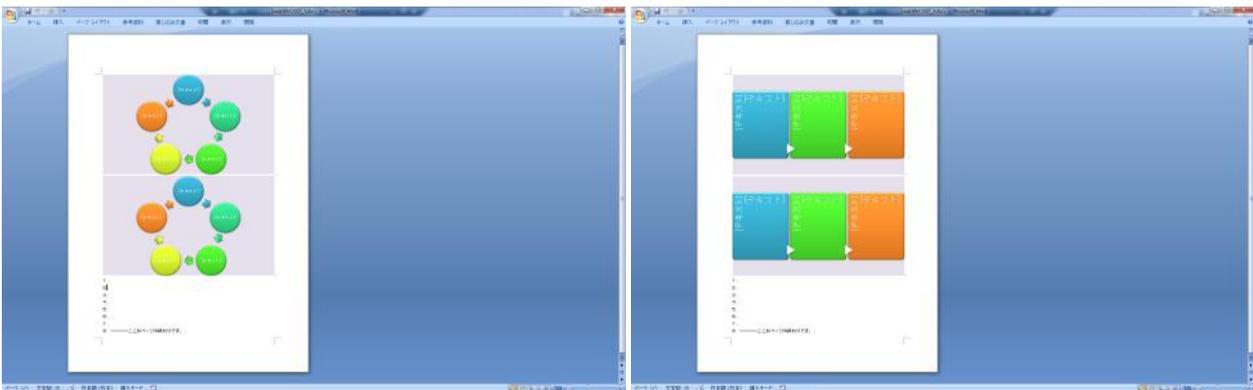
- Word 2003 以前で設定したテーマを変更できない

Word 2010 では、Word 2003 以前のバージョンの Word に含まれていた HTML ベースのテーマは削除されています。Word 97-2003 形式のファイルで HTML ベースのテーマが使用されていた場合は、テーマの表示のみが可能です。

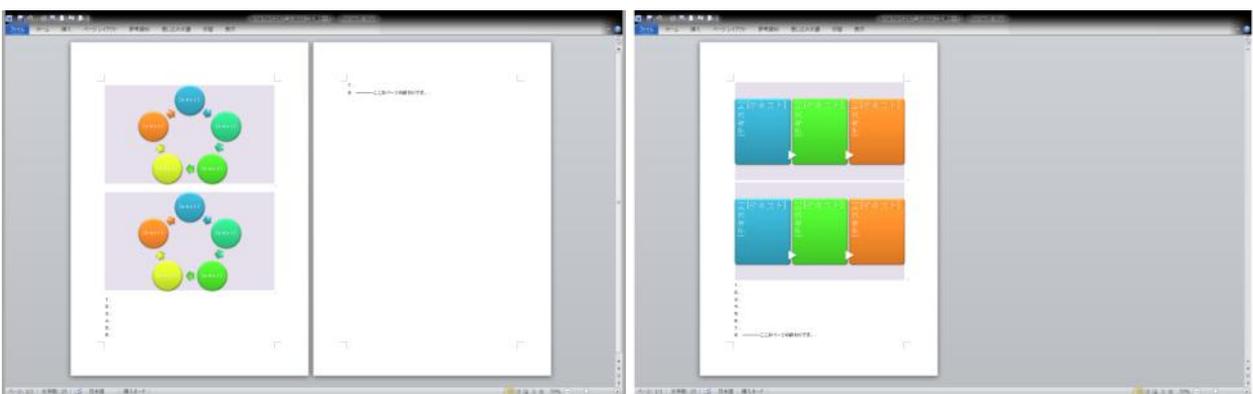
Word 2010 の新しいテーマは、Office アプリケーション間で共通化され、すべての Office ドキュメントで統一された一貫性のあるデザインを実現できます。

➤ SmartArt の位置が変化する

Word 2007 で作成したファイルを Word 2010 で開いたとき、ファイルに含まれている SmartArt の位置が変化する場合があります。



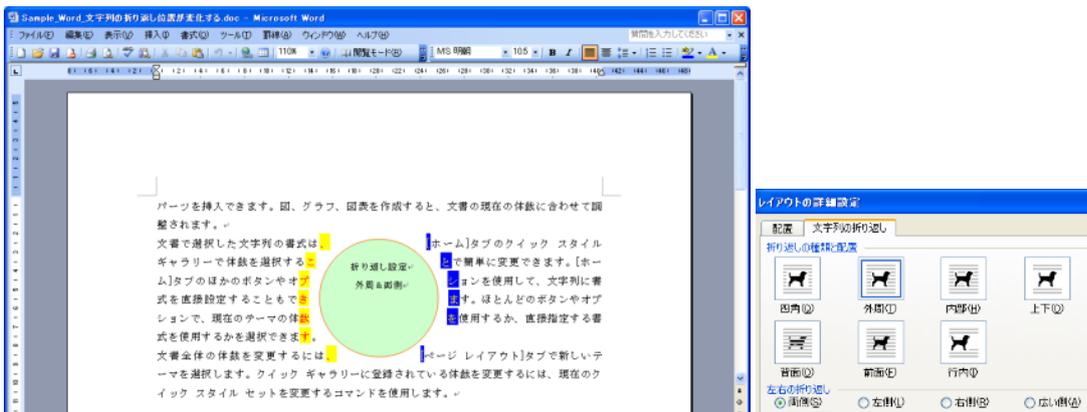
図：Word 2007 で作成した SmartArt を含むファイル



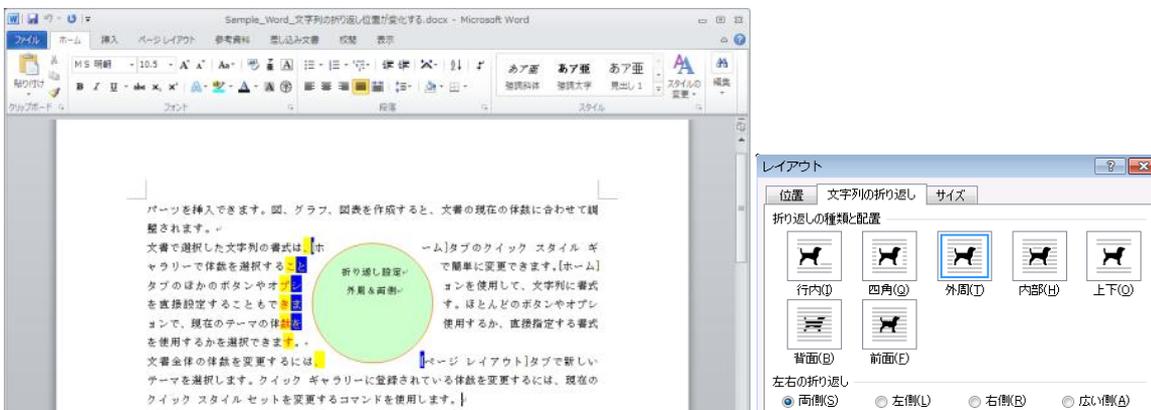
図：図のファイルを Word 2010 で開いた場合

➤ 文字列の折り返し位置が変化する

以前のバージョンの Word で設定したファイルに、シェイプの折り返しを外周かつ両側で設定したオブジェクトが含まれるとき、ファイルを Word 2010 で開いて Open XML 形式で保存したとき、折り返し地点が異なって表示されます。



図：Word 2003 で作成したファイル



図：Word 2010 で図 のファイルを Open XML 形式で保存し、このファイルを再度 Word 2010 で開いた場合

Excel 2010 の注意点

➤ 対話機能付き HTML の機能削除

以前のバージョンの Excel では、Web ページとして保存を行う際に対話機能を追加することができました。対話機能を追加すると、Office Web コンポーネントを使用してブラウザー上で Excel シートを編集することができました。Excel 2010 では、以前のバージョンの Excel で作成した HTML ファイルを開いたり、Web ページとして保存することはできませんが、Office Web コンポーネントの機能を利用した HTML ページの生成はできません。

対話機能付き HTML のオプションに代わる機能として、SharePoint Server 2010 に、Excel 2010 で作成したワークシートを DHTML に変換し、ブラウザー上で表示させることが可能な Excel Services、ブラウザー上でドキュメントにアクセスして、編集を行うことができる Office Web Apps があります。

詳細はこちらをご覧ください。

➔ 「Excel Services と Excel Web Access の概要」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/sharepointserver/HA101054761041.aspx>

➔ 「Office Web Apps (SharePoint 2010 製品にインストールされる)」

<http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/ee855124.aspx>

➤ カラーパレットの違いによる表示色の違い

以前のバージョンの Excel と Excel 2010 では、カラーパレット上の色の RGB 値が既定では異なります。このため、同じファイルを以前のバージョンの Excel と Excel 2010 で開いた場合に、色味の差異が生じることがあります。

➔ 「Excel 2007 で作成したファイルを Excel 2003 以前のバージョンで開くと設定した色の変更される」

(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/953536/ja>

主要色の RGB 値を以下に挙げます。

色	以前の Excel の RGB 値	Excel 2010 の RGB 値
緑	0,128,0	0,176,80
青	0,0,255	0,112,192
赤 (差異なし)	255,0,0	255,0,0
黄 (差異なし)	255,255,0	255,255,0



図 : Excel 2003 と Excel 2010 におけるカラーパレットの RGB 値の違い

以下の方法で Excel 2010 でカラーパレットの RGB 値を変更することができます。

1. Excel 2010 の左上の ファイル タブ  をクリックし、左側の[オプション]メニュー を選択します。
2. [Excel のオプション] ダイアログ ボックスの左側の[保存] メニューをクリックし、右側の[ブックの外観の保持] セクションの[色] ボタンを押します。
3. [色] ダイアログで、RGB 値を変更したい色を選択し、[変更] ボタンを押します。
4. [色の設定] ダイアログで[ユーザー設定] タブを開き、RGB 値を入力し、[OK] ボタンを押します。

また、Excel 2003 でカラーパレットの RGB 値を変更する方法は、以下を参照してください。

→ 「ブックのカラーパレットを変更する」 (Excel 2003)

<http://office.microsoft.com/ja-jp/excel/HP051989351041.aspx>

➤ テキストボックスの変形による効果の違い

Excel 2007 で作成したファイルに、変形の効果を加えた縦書きテキストボックスが含まれるとき、そのファイルを Excel 2010 で開くと、文字位置やスタイルの表示が異なっている場合があります。

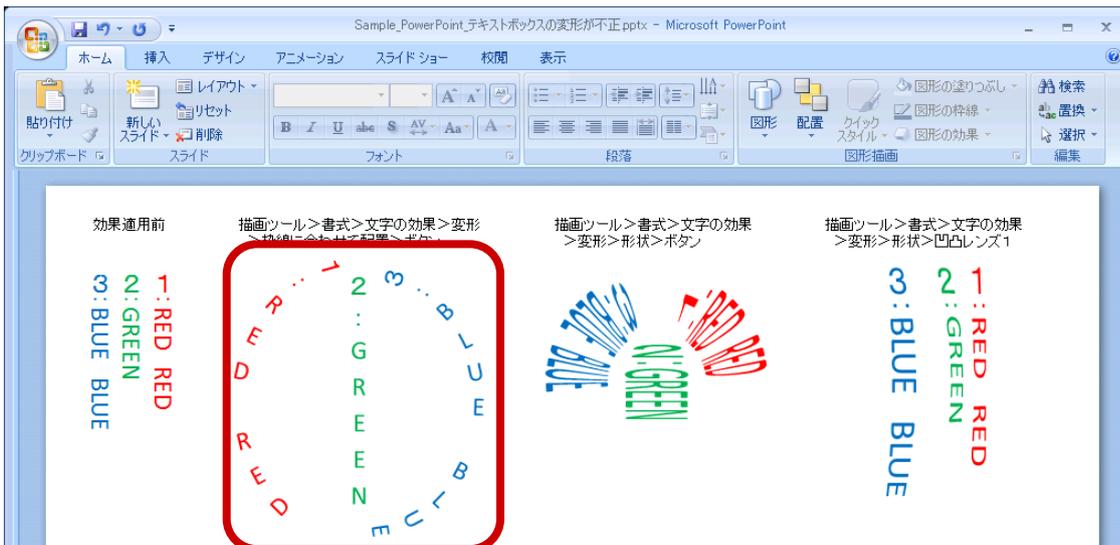


図 :Excel 2007 で作成したファイル

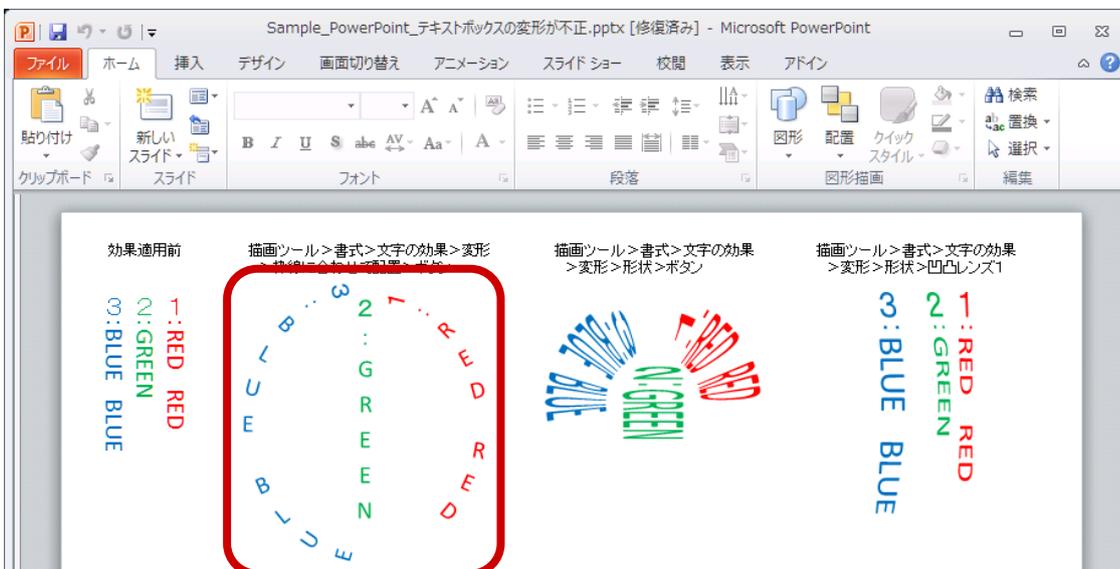


図 : Excel 2010 で図 のファイルを開いた場合

➤ グラフ軸（日付）の表示形式が変化する

Excel 2007 で作成したファイルに、日付を軸とするグラフが含まれるとき、そのファイルを Excel 2010 で開くと、グラフ軸の表示形式が異なっている場合があります。

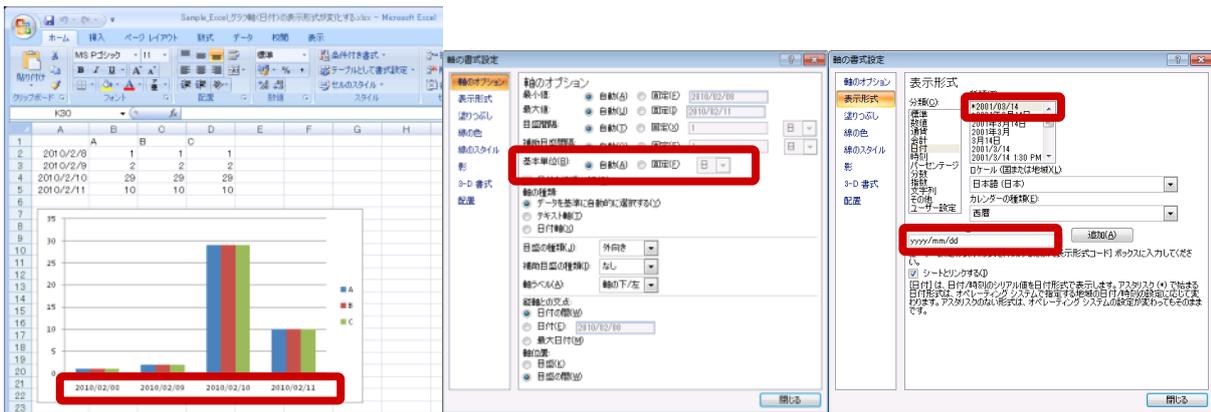


図 :Excel 2007 で作成したファイル

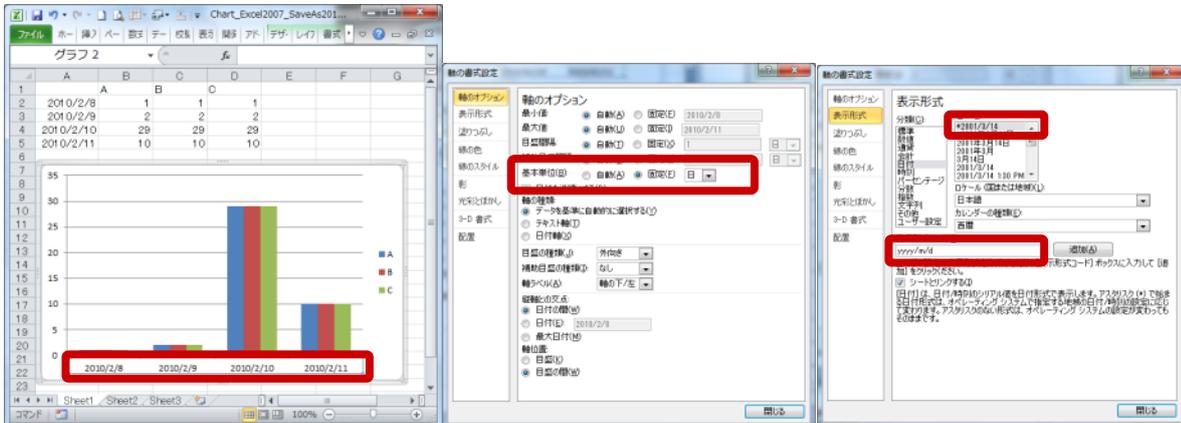


図 : Excel 2010 で図のファイルを開いた場合

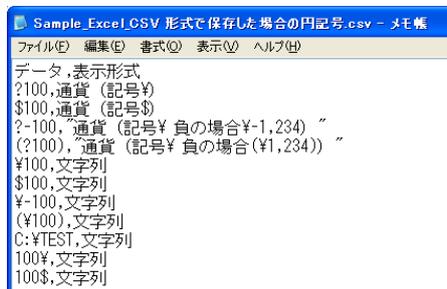
➤ CSV 形式で保存した場合、円（通貨記号）が？になってしまう

Excel 2010 で「表示形式：通貨」で先頭に「¥」マークを含むデータを作成し、csv 形式で保存した場合、円（通貨記号）が「？」に変換されてしまいます。この現象は、「表示形式：通貨」ではなく「¥」を含む文字列として保存することにより、回避することができます。

	A	B
1	データ	表示形式
2	¥100	通貨(記号¥)
3	\$100	通貨(記号\$)
4	¥-100	通貨(記号¥ 負の場合¥-1,234)
5	(¥100)	通貨(記号¥ 負の場合(¥1,234))
6	¥100	文字列
7	\$100	文字列
8	¥-100	文字列
9	(¥100)	文字列
10	C:¥TEST	文字列
11	100¥	文字列
12	100\$	文字列

図 :Excel 2010 でデータを作成

	A	B	C	D
1	データ	表示形式		
2	?100	通貨(記号¥)		
3	\$100	通貨(記号\$)		
4	?-100	通貨(記号¥ 負の場合¥-1,234)		
5	(?100)	通貨(記号¥ 負の場合(¥1,234))		
6	¥100	文字列		
7	\$100	文字列		
8	¥-100	文字列		
9	(¥100)	文字列		
10	C:¥TEST	文字列		
11	100¥	文字列		
12	100\$	文字列		



Sample_Excel_CSV形式で保存した場合の円記号.csv - メモ帳

データ,表示形式
 ?100,通貨(記号¥)
 \$100,通貨(記号\$)
 ?-100,通貨(記号¥ 負の場合¥-1,234) "
 (?100),通貨(記号¥ 負の場合(¥1,234)) "
 ¥100,文字列
 \$100,文字列
 ¥-100,文字列
 (¥100),文字列
 C:¥TEST,文字列
 100¥,文字列
 100\$,文字列

図 :図のファイルを csv 形式で保存した場合

PowerPoint 2010 の注意点

➤ 代替フォントの仕様変更

PowerPoint 2010 のスライドで使用されているフォントがクライアント PC にインストールされていない場合、欧文文字でも日本語フォントが代替フォントとして利用されることがあります。以前のバージョンの PowerPoint では、代替フォントとして欧文文字用のフォントである Arial が利用されていました。使用しているフォントをクライアント PC にインストールするか、PowerPoint ファイルを作成する際にフォントを埋め込むことで回避できます。

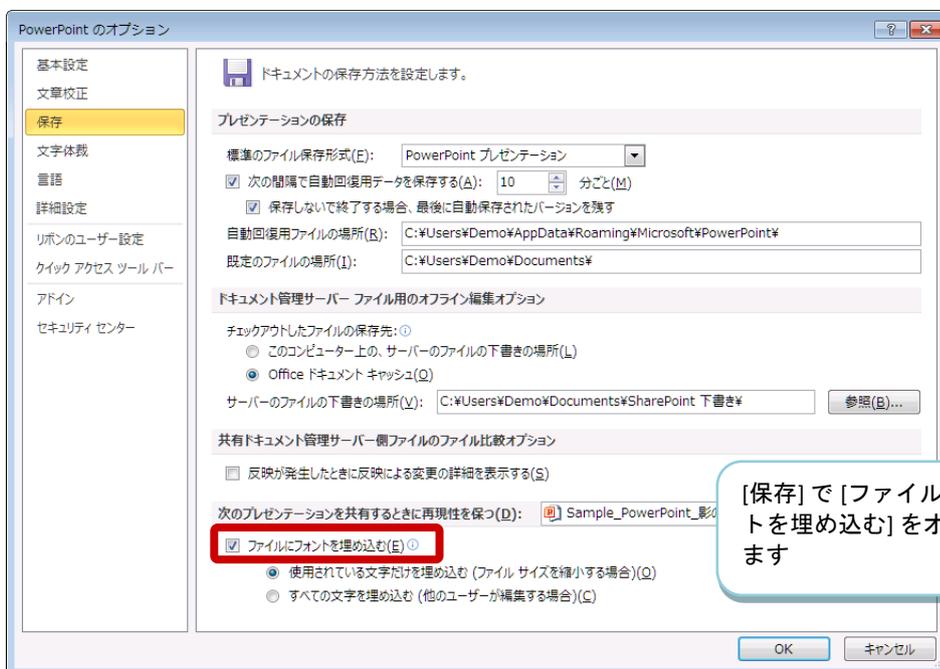


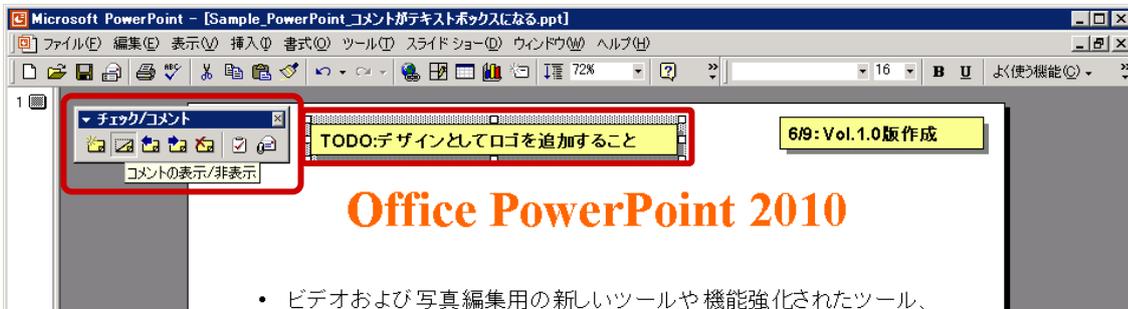
図 : PowerPoint 2010 のオプションダイアログボックス

➤ コメントがテキストボックスになる

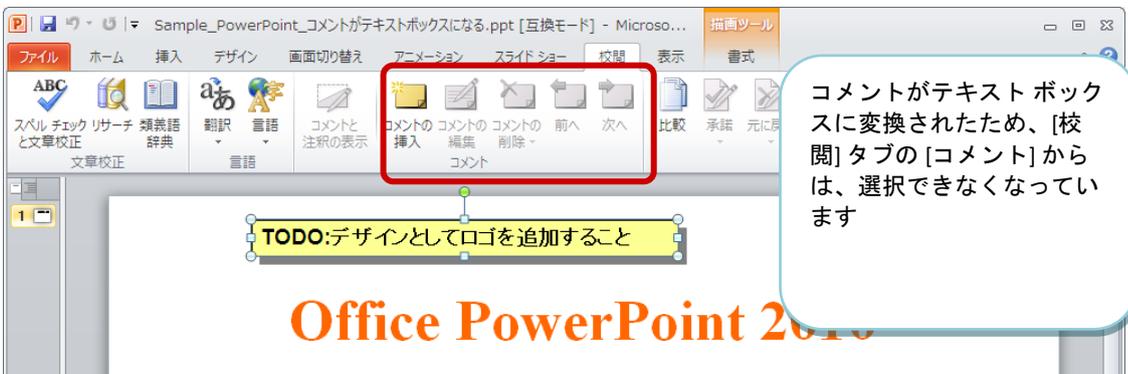
PowerPoint 2002 以降、コメントが新しい形式に変わっています。PowerPoint 2000 までは、図形オブジェクトをコメント記入用オブジェクトとして流用していましたが、スライド上に違和感なく挿入したり折りたためるよう独自の形式になりました。この形式は、以前のバージョンの PowerPoint とは全く違う構成になっており、互換性がありません。その結果、PowerPoint 2000 以前で作成されたファイルを PowerPoint 2002 以降で開くと、コメントがテキストボックスに変換され、コメントオブジェクトとしては編集できなくなります。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「PowerPoint 2007 と PowerPoint 2000 でファイルを共有すると、コメントがテキストボックスに変換されたり表示されなかったりする」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/933438/ja>



図：PowerPoint 2000 で作成したコメント



図：図 のファイルを PowerPoint 2007 で開き、[校閲] タブの [コメント] を表示した場合

➤ フッターがテキストボックスになる

PowerPoint 2010 では、フッターを標準の編集画面でも直接編集できるようになりました。その結果、PowerPoint 2010 で Office 97-2003 互換形式にファイルを保存すると、フッターはページ番号や日付の挿入されたテキストボックスとして保存されます。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「PowerPoint 2007 でフッター情報を保存すると以前のバージョンでフッターを編集できない」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/932249/ja>

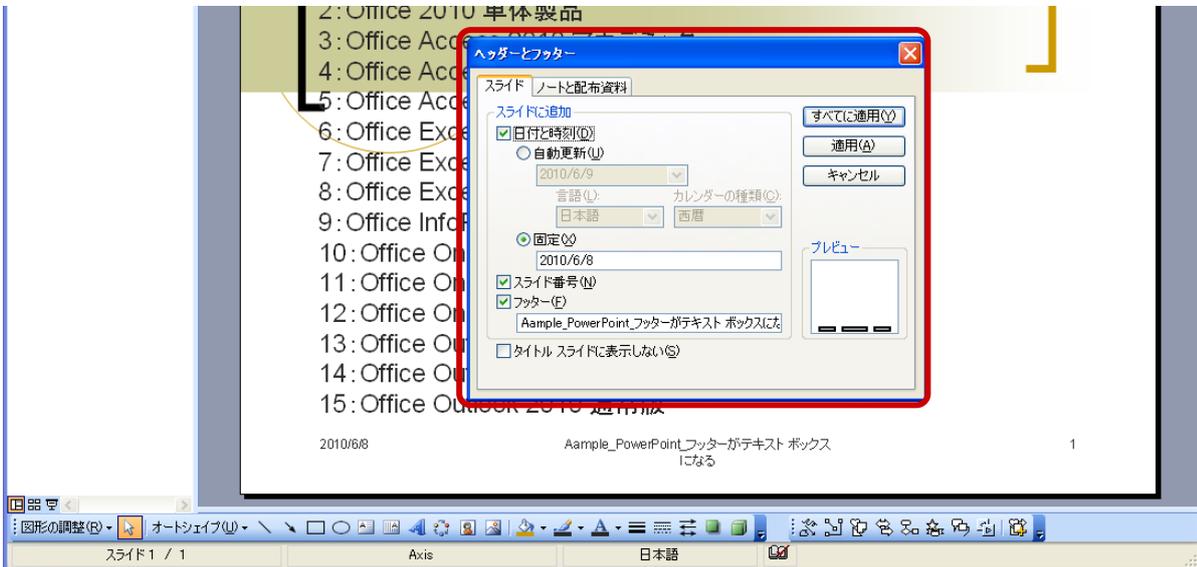


図 : PowerPoint 2003 のフッターを編集する [ヘッダーとフッター] ダイアログ

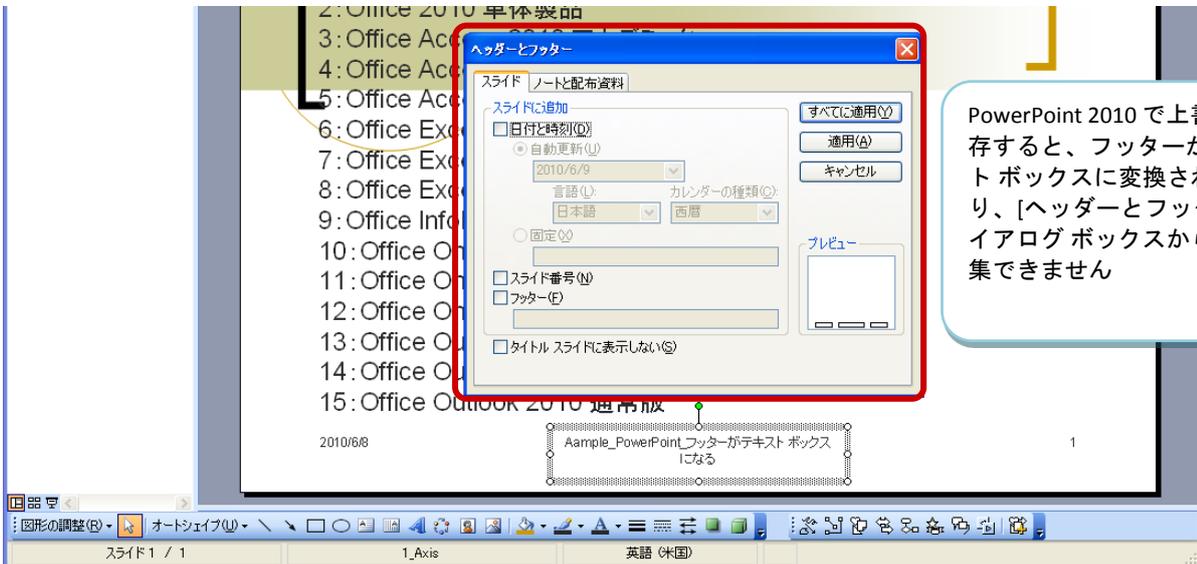


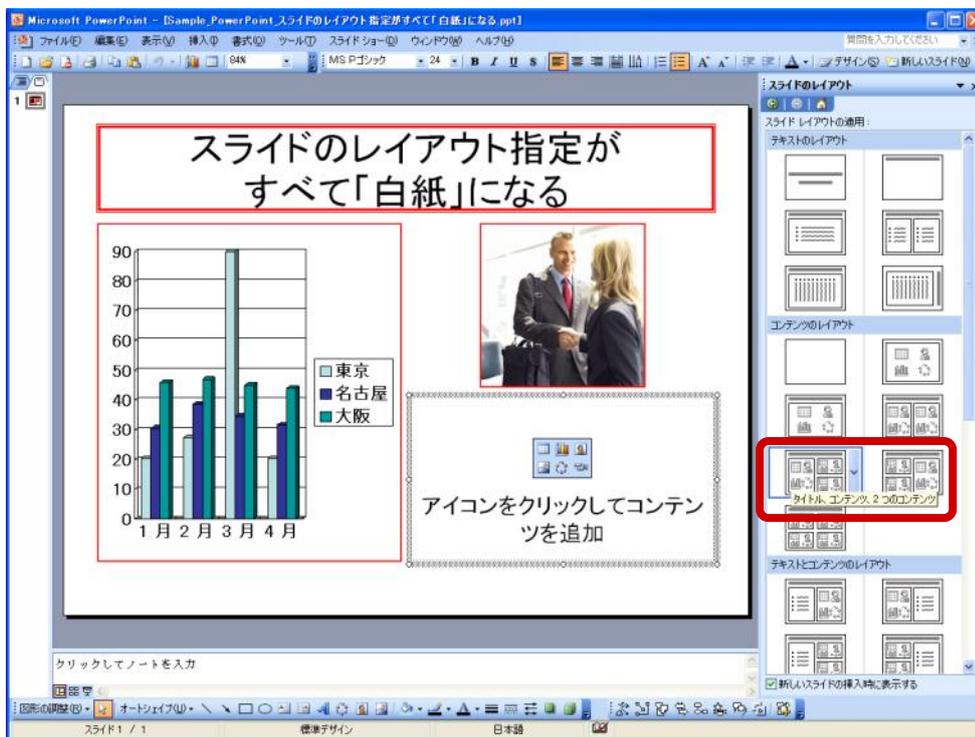
図 : 図 のファイルを PowerPoint 2010 で上書き保存後、PowerPoint 2003 で開いた場合

➤ スライドのレイアウト指定がすべて「白紙」になる

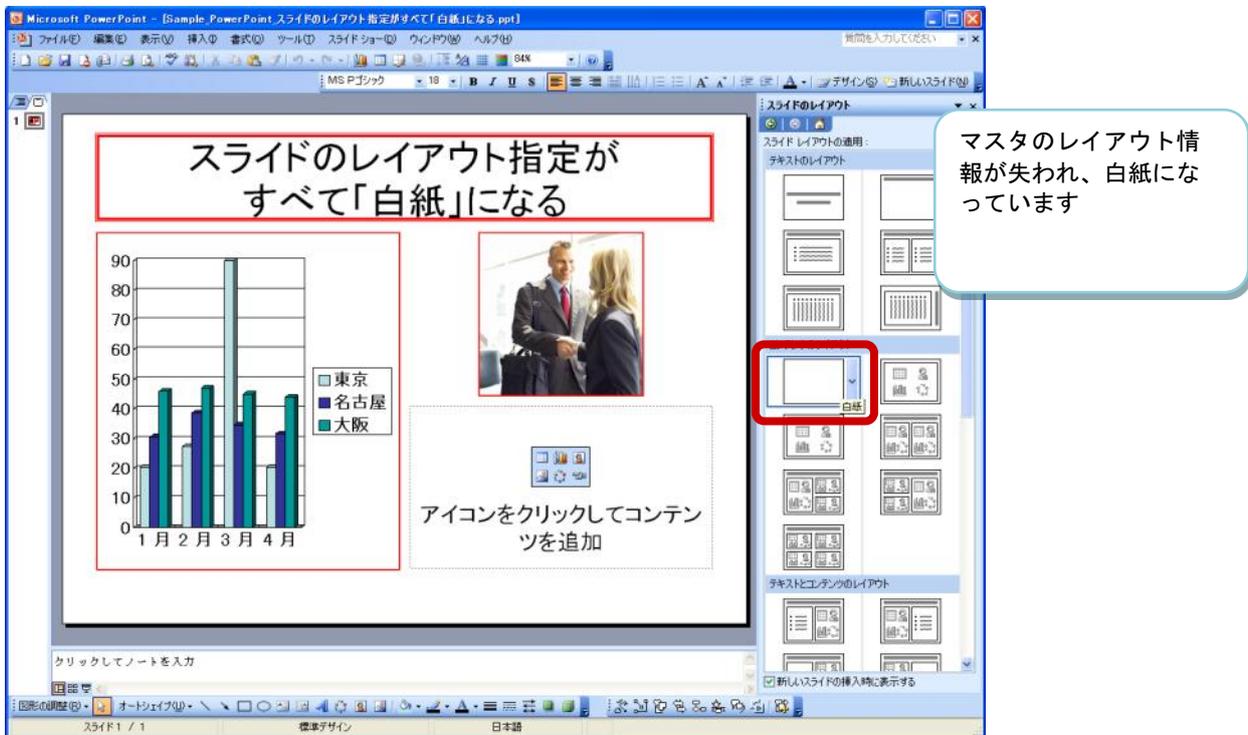
PowerPoint 2010 では、マスタとレイアウトが大幅に拡張され、マスタにレイアウトを追加したり、カスタマイズしたりできるようになりました。マスタの構造が大幅に変わったため、以前のバージョンの PowerPoint のマスタとの完全な互換性は維持されていません。

以前のバージョンの PowerPoint で作成したファイルを PowerPoint 2010 で読み込むと、そのファイルに含まれたマスタとレイアウトは、すべて新しい構造に変換されます。マスタの構造は変わりますが、プレースホルダーなどの位置は変わりません。

また、そのファイルを Office 97-2003 互換形式で保存する際には、拡張されたレイアウト情報を書き戻すことができないため、レイアウトの数だけマスタが作成されます。各マスタには、PowerPoint 2010 のレイアウト情報で指定された位置にプレースホルダーが配置され、デザイン上は変わりませんが、マスタはレイアウト情報のない白紙のレイアウトになります。



図：PowerPoint 2003 でレイアウト情報を指定したマスタ



図：図 のファイルを PowerPoint 2010 で上書き保存後、PowerPoint 2003 で開いた場合

➤ タイトル マスタが編集できない

Office 2003 以前のバージョンの PowerPoint のファイルでタイトル レイアウトが指定されているスライドでは、既に [タイトル マスタ] が指定されているため、[タイトル マスタ] を新規追加できません。そのファイルを PowerPoint 2010 で読み込むと、マスタが拡張され、白紙のマスタに変換されます。上書き保存後に再び以前のバージョンの PowerPoint でファイルを開くと、同じレイアウトのスライドは存在しますが、[タイトル マスタ] が変換され未指定になったため、[タイトル マスタ] の新規追加が出来るようになり、はじめに指定していた [タイトル マスタ] を選択編集することはできなくなります。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「PowerPoint 2000 で作成したプレゼンテーション ファイルを PowerPoint 2007 で保存するとタイトル マスタを使用できない」 (Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/932580/ja>

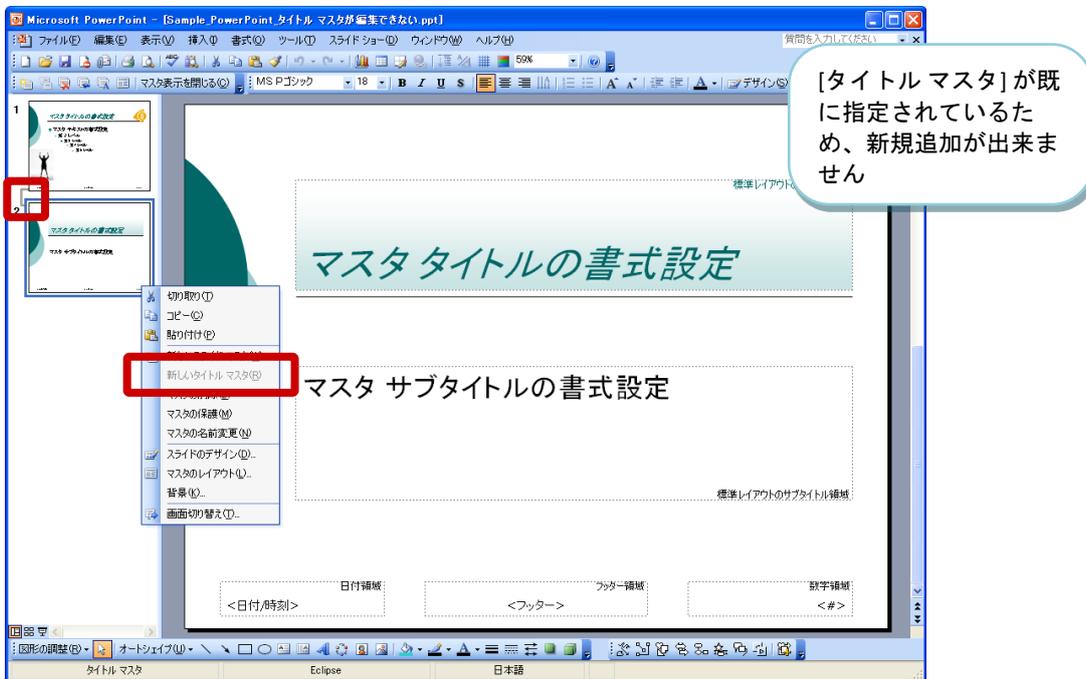


図 : PowerPoint 2003 のマスタ表示

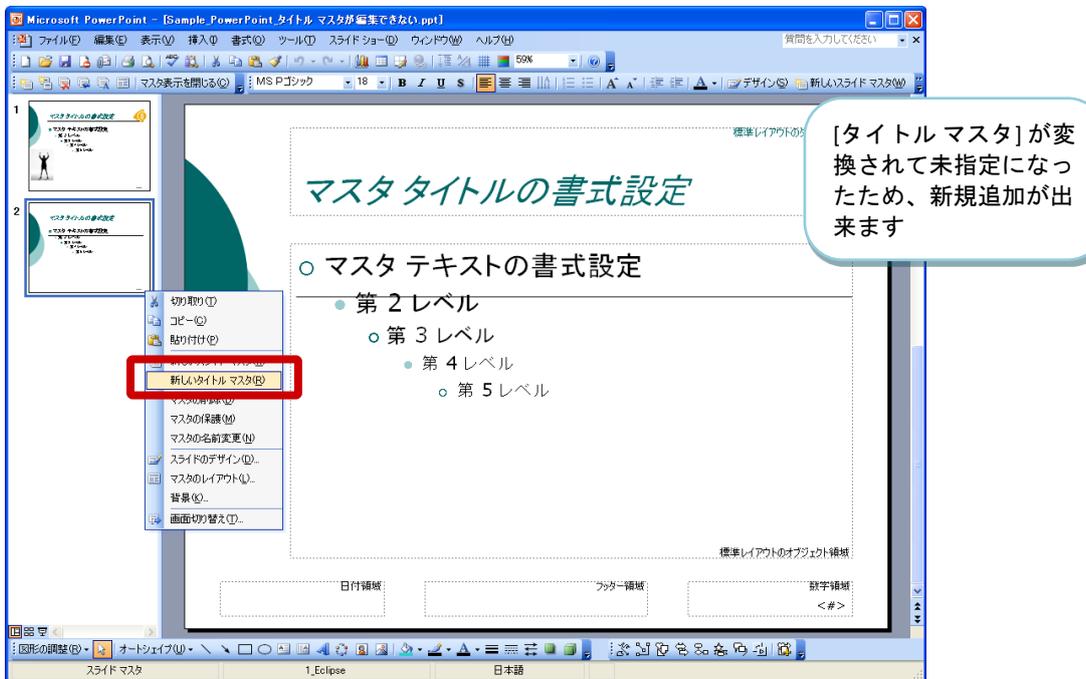


図 : 図のファイルを PowerPoint 2010 で上書き保存後、PowerPoint 2003 で開いた場合

➤ アニメーションの設定変更

PowerPoint 2002 以降、アニメーション機能が大幅に拡張され、設定方法、効果名や設定値が変わったものがあります。詳しくは以下を参照してください。

- 「PowerPoint 2007 と PowerPoint 2000 でファイルを共有すると、アニメーションのグラフの効果の設定が継承されない」 (Office 2007 時点の情報)
<http://support.microsoft.com/kb/933440/ja>

以下に代表例を挙げます。

- アニメーションの設定表現

ボックス ワイプイン	→ イン
ボックス ワイプアウト	→ アウト
ワイプ 右から、左から、上から、下から	→ 左へ、右へ、下へ、上へ

- オブジェクト名の変更

PowerPoint 2010 では、図形やテキストボックスなどのオブジェクト名の名前の持ち方が変わりました。以前のバージョンの PowerPoint では、それらのオブジェクトは、英語名と日本語名の両方を持っていましたが、PowerPoint 2010 では、名前の持ち方が一本化されています。PowerPoint 2010 で新規に作成したオブジェクトは、日本語名が付きませんが、以前のバージョンの PowerPoint で作成したオブジェクトは、英語名に変換されます。

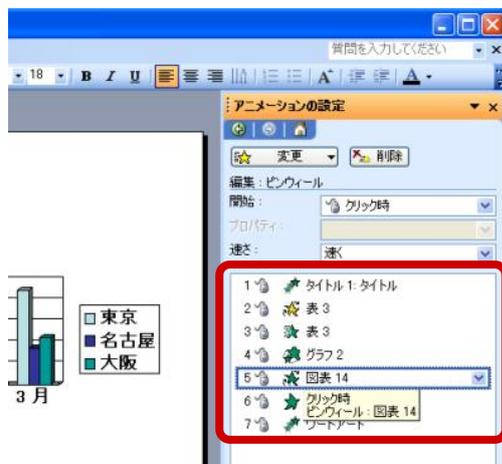
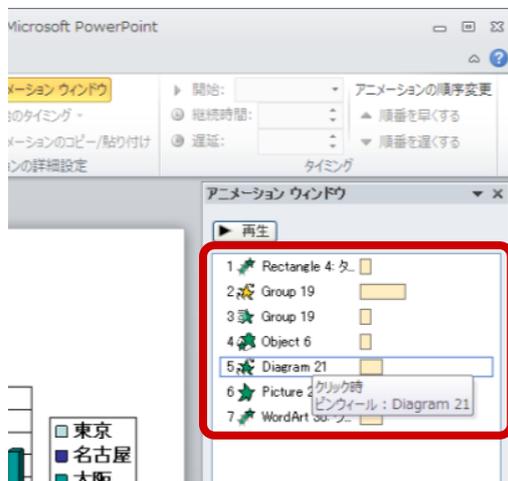


図 : PowerPoint 2003 でのオブジェクト名

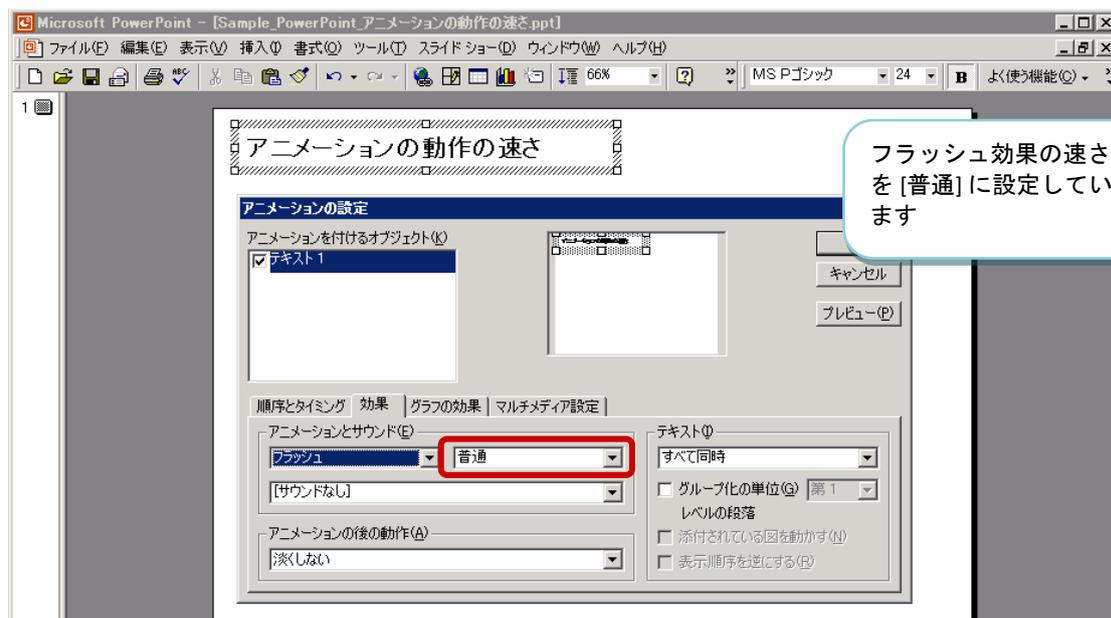


オブジェクト名が英語名に変換されています

図：図 のファイルを PowerPoint 2010 で開いた場合

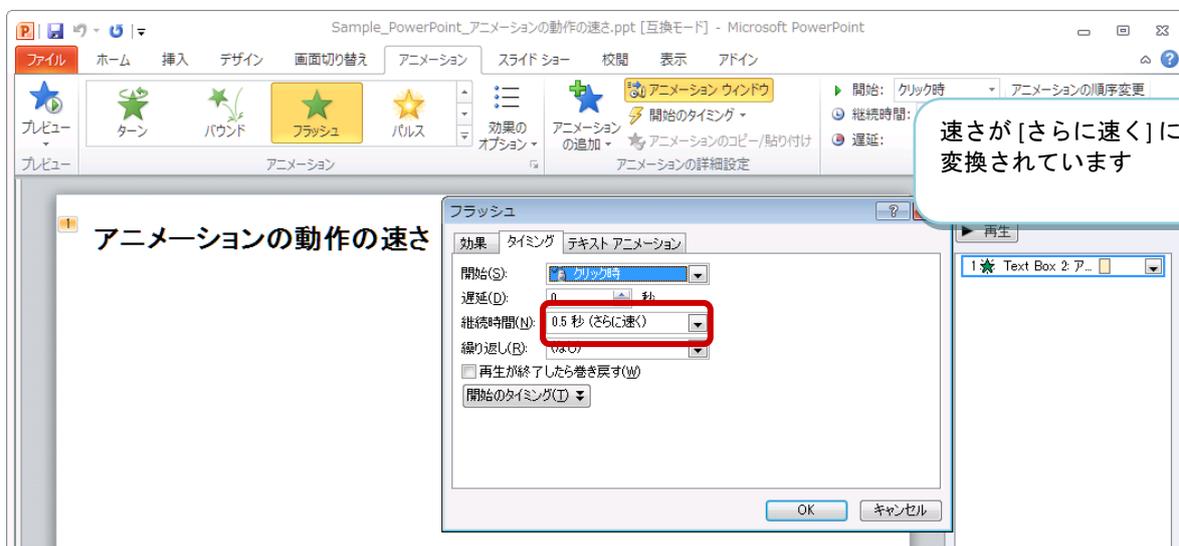
- アニメーションの動作の速さ

PowerPoint 2002 以降では、アニメーションの動作の速さの設定項目が増えており、異なるバージョンの PowerPoint でファイルを保存すると速さの設定が変化することがあります。例えば、PowerPoint 2003 のフラッシュ効果の速さを [普通] に設定したファイルを PowerPoint 2010 で読み込むと、速さの設定が [さらに速く] になります。



フラッシュ効果の速さを [普通] に設定しています

図：PowerPoint 2000 でのアニメーションの設定



図：図のファイルを PowerPoint 2010 で開いた場合

- 動作設定ボタンのデザイン

以前のバージョンの PowerPoint で作成できる動作設定ボタンでは、立体感のあるスタイルが既定値でしたが、PowerPoint 2010 ではフラットなスタイルが既定値になりました。そのため、以前のバージョンの PowerPoint で作成したボタンを PowerPoint 2010 で開くと、立体感のあるスタイルは、フラットなスタイルに変換されます。



図：PowerPoint 2003 の動作設定ボタン



図：図のファイルを PowerPoint 2010 で開いた場合

- 段落前後の間隔の指定方法の変更

Office 2003 以前のバージョンの PowerPoint では、段落前後の間隔の指定を行単位で行なうことができたのですが、PowerPoint 2010 では、Word 2010 の設定方法に合わせるため、ポイント単位での指定となりました。このため、Office 2003 以前のバージョンの PowerPoint で作成したファイルを PowerPoint 2010 で開くと、段落前後の間隔の指定の単位が変更されます。



図 : PowerPoint 2003 での段落の間隔設定

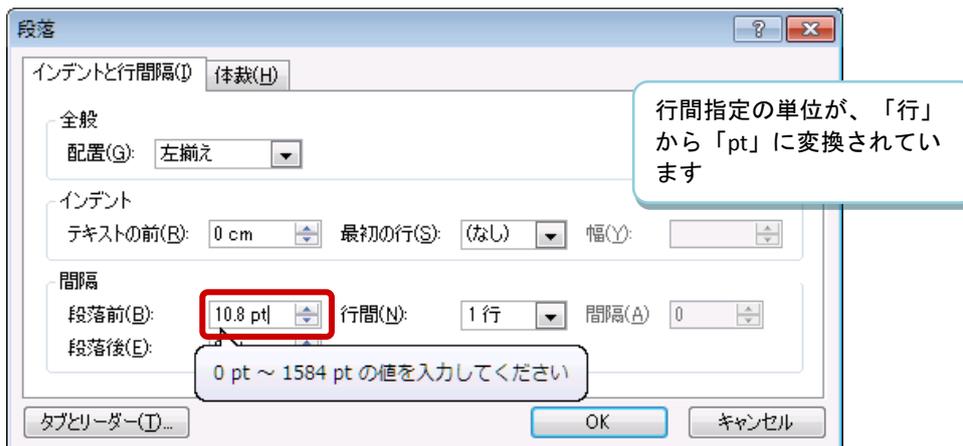


図 : 図 のファイルを PowerPoint 2010 で開いた場合

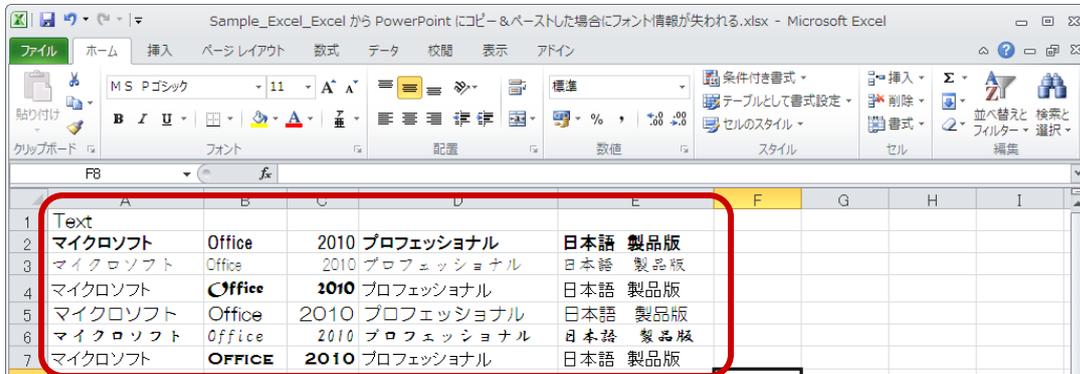
➤ テキストボックスの変形の効果の違い

PowerPoint 2007 で作成したファイルに、変形の効果を加えた縦書きテキストボックスが含まれるとき、そのファイルを PowerPoint 2010 で開くと、文字位置やスタイルの表示が異なっている場合があります。

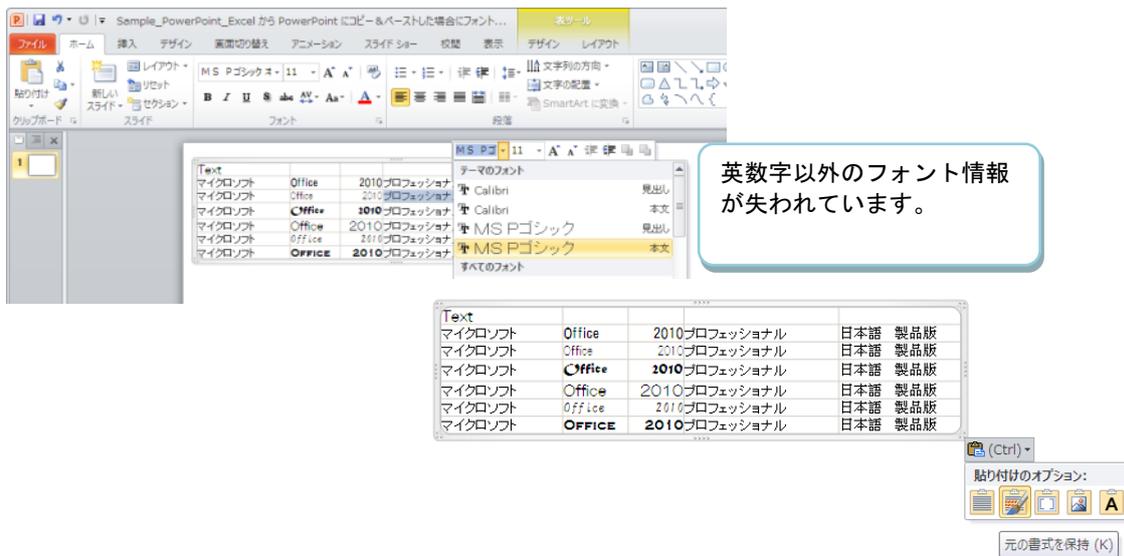
表示の差異については、本ドキュメントの「Excel 2010 の注意点」内の [「テキストボックスの変形による効果の違い」](#) をご参照ください。

➤ Excel から PowerPoint にコピー & ペーストした場合にフォント情報が失われる

PowerPoint 2010 では、Excel からコピー & ペーストされた文字列のうち、英数字以外に適用されているフォント情報が失われ、MS Pゴシックで表示されます。Excel で使用したフォント情報を使用する場合は、PowerPoint 上で再度フォントを適用してください。



図：コピー元の Excel 2010 ファイル



図：コピー先の PowerPoint 2010 ファイル

OS との関係

この章では、OS と Office 2010 との組み合わせにおける留意事項として、Windows Vista および Windows 7 に搭載された最新の JIS 漢字を Office 2010 上で利用する際に、注意すべき事柄について説明します。

JIS X 0213:2004 (JIS2004) 対応について

マイクロソフトでは、従来 JIS 第 1、および第 2 水準漢字 (JIS X 0208 に規定されている 6,355 文字) をベースとした Shift JIS の漢字に加え、1998 年には JIS 補助漢字 (JISX 0212 に規定されている 5,801 文字) を 加えた 12,156 文字の漢字を標準フォントとして組み込むなど、最新の日本語情報処理規格に基づいて文字の拡張を継続的に行ってきました。

Windows Vista および Windows 7 では、これまでと同様に日本文化に根ざした情報化社会の実現を支援するため、国の国語施策、および法令に整合する最新の JIS 漢字「JISX0213:2004」に対応した日本語フォントを搭載しています。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「JIS X 0213:2004 対応と新日本語フォント「メイリオ」について」

http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/default.msp

Office 2010 の既定フォント

Office 2010 の既定フォントは、Windows 搭載の MS フォントになっています。したがって、Office 2010 を Windows Vista および Windows 7 の環境でお使いになる場合は、標準搭載の MS ゴシック・MS 明朝 Version 5.0 フォントが使用されます。これらのフォントは、以下の文字セットをサポートします。Windows XP の MS ゴシック・MS 明朝 Version 2.3 と比べて、文字セットとしては JISX0213:2004 (JIS2004) と Unicode 4.0 通貨記号を新たにサポートします。

- WGL4
- Microsoft 標準文字セット (JISX0208, IBM 拡張漢字、NEC 特殊文字を含む)
- JISX0212
- JISX0221 NON-IDEOGRAPHICS SUPPLEMENT
- JISX0213:2004
- Unicode 4.0 通貨記号

MS ゴシック・MS 明朝 Version 2.3 から Version 5.0 にかけての新たに表示できる文字/字形が変更された文字の詳細については、以下の資料を参照してください。

→ 「Windows Vista ならびに Windows Server 2008 における JIS2004 対応に関する詳細資料」

(Vista_JIS2004_WP_1.2_PDF.exe)

<http://office.microsoft.com/search/redirect.aspx?AssetID=XT011985741041&CTT=5&Origin=HA102058181041>

Office 2010 の付属フォント

Office 2010 に付属しているフォントについて、以下の HG フォント 5 書体についても JIS2004 対応を行っています。

- HG ゴシック E
- HG 明朝 E
- HG 丸ゴシック M-PRO
- HG 創英角ゴシック UB
- HG 創英角ポップ体

その他の付属しているフォントは、文字セットに JIS 第 1 水準、第 2 水準漢字までを実装されています。また、これらは、表外漢字字体表の対象ではない手書きに準じる書体を含み、活字書体に準じるものであっても必ずしもよく使われるものばかりではありません。そのため、これらの JIS90 対応付属フォントは、将来見直しを行い、よく使われる活字書体に準じたフォントに関しては、印刷標準字体に対応した JIS2004 への対応を行う予定です。

JIS2004 対応および JIS90 対応 フォント パッケージについて

Windows Vista、Windows 7 および Windows Server 2008 では、新 JIS 漢字 (JIS X 0213:2004、JIS2004) に対応した日本語フォントを搭載しておりますが、Windows XP や Windows Server 2003 のフォント環境では、参照している JIS 漢字のバージョンが異なる (JIS90) ため、文書などで使用されている一部の文字が、同じ文字でありながら Windows のバージョンによって表示される形が異なるなどといった現象が発生する場合があります。特に厳密に字形を区別する必要がある場合に、JIS2004 対応および JIS90 対応フォントパッケージをご利用ください。また、Office でも、JIS2004 対応および JIS90 対応の互換フォントを提供しておりますので、ご利用ください。

- 「Windows XP および Windows Server 2003 向け JIS2004 対応 MS ゴシック & MS 明朝フォントパッケージについて」
http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis04/default.mspx
- 「Windows Vista および Windows Server 2008 向け JIS90 互換 MS ゴシック・明朝フォントパッケージについて」
http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis90/default.mspx
- 「Microsoft Office JIS2004 互換フォント」
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyID=c1b6a3b1-bd00-4664-95c5-625ed436e0c2&displayLang=ja>
- 「Microsoft Office JIS90 互換フォント」
<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?displaylang=ja&FamilyID=8927cd28-2278-4db6-b8be-86f26cb0bf27>

Microsoft Office 2010 の JIS 2004 対応状況と注意点

以下の表では、Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 における JIS2004 への対応状況と利用時の注意点を記載します。

Office アプリケーション	対応状況	注意点
Word 2010	一部制限あり	Word 2010 は、自動で表示できる書体フォントを探しに行き文字を表示する処理をします。JIS2004 未対応フォントで JIS2004 環境依存文字を Word 2010 に入力した場合、該当漢字のコードポイントが設けられていないため、それらの文字は MS 明朝、または MS ゴシックに置き換えて表示します。 差し込み印刷機能を使って Outlook の住所録からデータを持ってくる場合、MAPI ドライバーがサロゲートペアをサポートしていないので、正しく表示されない場合があります。
Excel 2010	一部制限あり	次の文字列操作関数は、正しい結果が得られないことがあります： FIND(), FINDB(), LEFT(), LEFTB(), LEN(), LENB(), MID(), MIDB(), REPLACE(), REPLACEB(), RIGHT(), RIGHTB(), SEARCH(), SEARCHB(). CSV 形式出力では、Shift JIS に存在していない文字をサポートしていません。回避策として Unicode テキスト (.txt) 形式で保存を行ってください。

Office アプリケーション	対応状況	注意点
PowerPoint 2010	一部制限あり	<p>JIS2004 未対応フォントで JIS2004 文字を入力した際の動作は、Word 2010 と同じです。</p> <p>WEB 上でのスライドショーでサロゲートペアが正しく表示されない場合があります。</p> <p>縦書きでは正しく回転しないサロゲートペアがあります。またずれて表示されるサロゲートペアもあります。</p> <p>組織図アドインは、Unicode に対応していないので、JIS2004 文字は「?」で表示されます。</p> <p>JIS2004 対応フォントがインストールされていない Windows XP では、JIS2004 に対応したフォントが埋め込まれたファイルを開いても、JIS2004 文字が正しく表示されません。</p>

表 : Office 2010 の JIS2004 対応状況と注意点

Office 全般における JIS2004 への対応状況については、以下を参照してください。

- ➔ 「Microsoft Office 製品の JIS2004 への対応状況および利用時の注意点について」
 (Office 2007 時点の情報)
<http://www.microsoft.com/japan/office/2007/compatible/JIS2004/default.mspx>

Excel での制限事項

Excel に共通する問題として、以下の文字列データ関数を使用する場合、文字によっては期待通りの結果が表示されないことがあります。

FIND(), FINDB(), LEFT(), LEFTB(), LEN(), LENB(), MID(), MIDB(), REPLACE(), REPLACEB(), RIGHT(), RIGHTB(), SEARCH(), SEARCHB()

Excel の文字列データ関数は、ANSI、および Shift JIS コードを元に文字列操作を行う関数です。Shift JIS コードが存在しない文字、またはサロゲートペアに対しては、正しくバイト数をカウントできず、間違った結果を表示します。例えば、LENB 関数を使用し、1 文字の漢字のバイト数を調べた場合、以下のようになります。

対象の漢字	Excel での関数の入力	Excel での関数の結果	実際のバイト数
爨	=LENB("爨")	= 1	2 バイト
叱	=LENB("叱")	= 2	4 バイト

表 : LENB 関数の結果

文字入力時の注意事項

JIS2004 で追加された文字や字形が変更された文字を含む単語、または漢字が変換候補に表示されるときに、Windows XP など、デフォルトで JIS2004 対応フォントを持っていない OS 上では、中点 (・) に置き換わって表示される場合があります。この場合、OS に JIS2004 対応フォントをインストールすることで、変換候補に対応する文字をすべて表示することができます。



図 : 変換候補の表示に使用しているフォントが JIS2004 に対応していない場合の変換候補

➔ 「Windows XP および Windows Server 2003 向け JIS2004 対応 MS ゴシック & MS 明朝フォントパッケージについて」

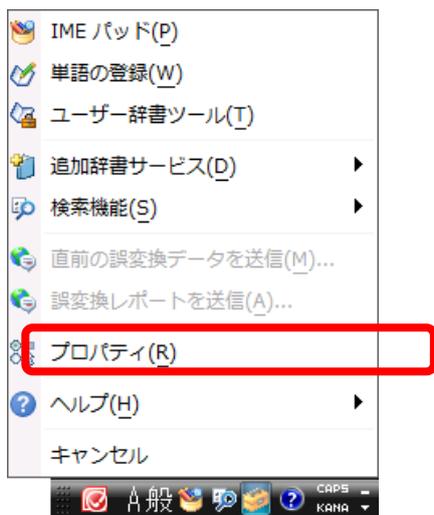
http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis04/default.mspx

また、別の方法として、IME の変換候補の表示を制限することも可能です。詳しくは、次の「IME の変換候補で追加文字を非表示にする」を参照してください。

IME の変換候補で追加文字を非表示にする

IME の変換候補を JIS90 対応フォントで構成された文字に制限することで、変換候補に中点 (・) を表示させないようにすることができます。

1. IME の言語バーの [ツール] をクリックして、[プロパティ] をクリックします。



図：IME 言語バーの右クリックメニュー

2. [Microsoft Office IME 2010 のプロパティ] ダイアログボックスが表示されたら、[変換] タブの [詳細設定] をクリックします。

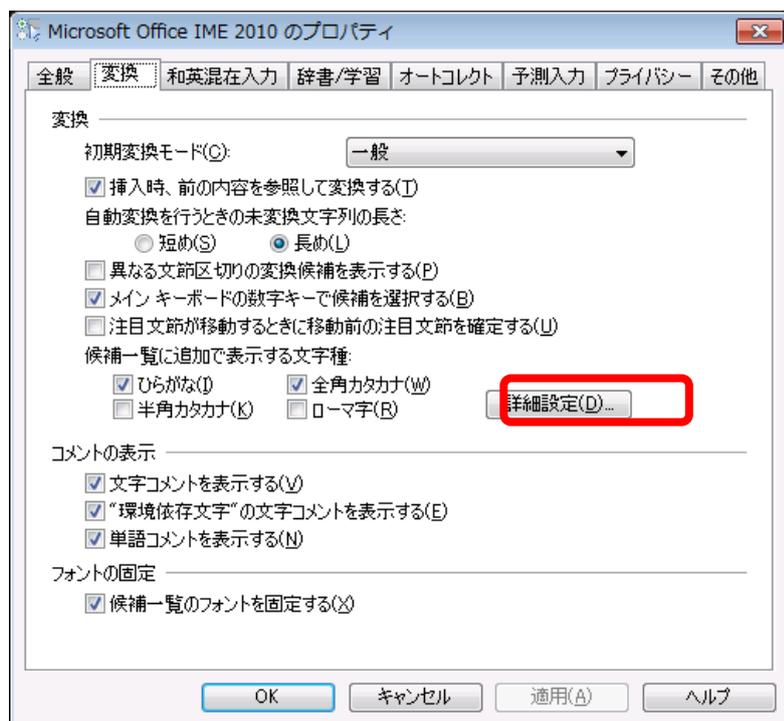


図 : Microsoft IME プロパティ

3. [変換] ダイアログ ボックスが表示されたら、[JIS X 0208 文字で構成された単語/文字のみ変換候補に表示する] と、[外字の入力を許す] のチェックボックスをオンにして、[OK] をクリックします。

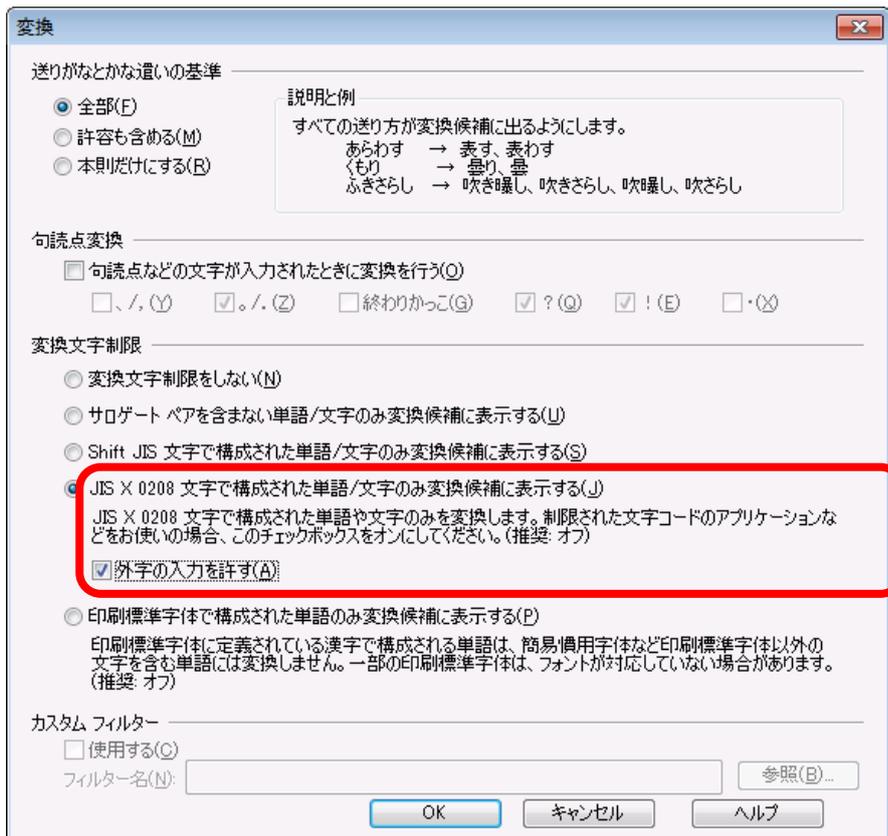


図 : Microsoft IME 変換文字制限

4. [OK] をクリックし、ダイアログ ボックスをすべて閉じます。

また、IME の変換候補を、JIS90 に限らず Shift-JIS で構成される文字だけに制限することも可能です。詳しくは以下を参照してください。

→ 「Windows Vista または Windows Server 2008 で IME の変換候補に表示する文字を制限する方法」

<http://support.microsoft.com/kb/934715/ja>

メイリオフォントの利用について

Word 2003、または Word 2010 において、Windows Vista および Windows 7 に搭載されたメイリオフォントを本文に使用した場合に、行間が広がる現象が生じます。

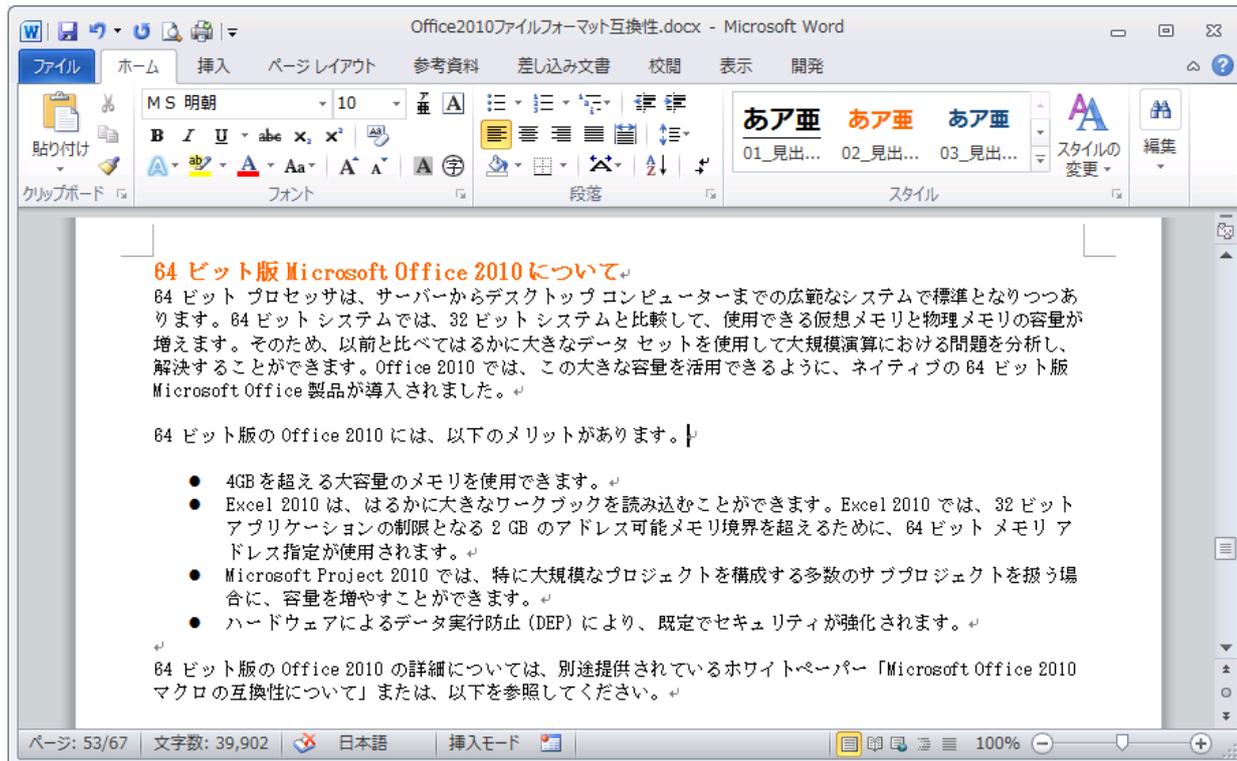


図 : Word 2010 で本文に MS 明朝を指定した場合

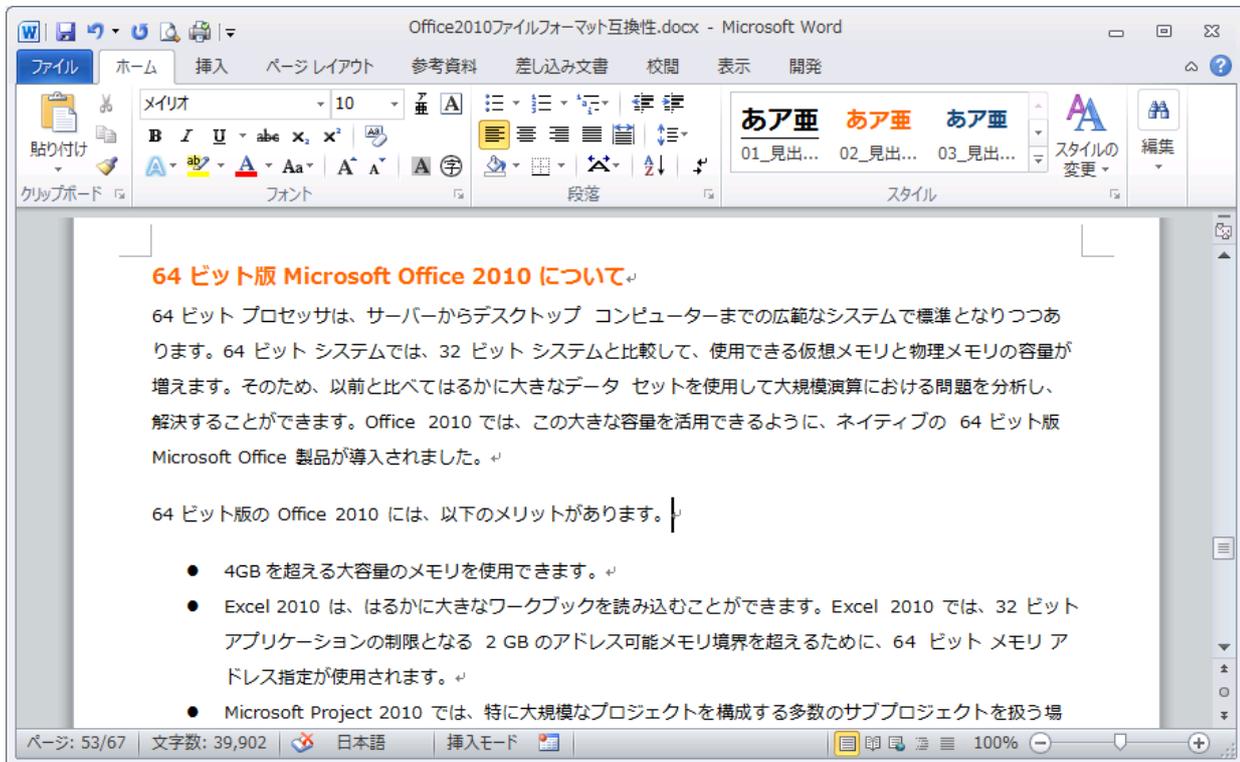


図 : Word 2010 で本文にメイリオを指定した場合

この現象は、メイリオ フォントを指定している段落において、行間の高さを調整することで回避できます。また、行間を設定した Word 2003 用と Word 2007 用のメイリオテンプレートが提供されています。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「トラブルシューティング: メイリオ フォントを使用した場合に行間が大きく空いてしまう」

(Office 2007 時点の情報)

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word/HA102058201041.aspx>

メイリオ UI フォントについて

メイリオ UI フォントは Windows 7 および Office 2010 で新たに追加されたフォントで、メイリオ フォントをもとにウィンドウやボタンなどのユーザー インターフェイス部品で利用することを目的として再デザインされています。

➤ メイリオ UI フォント における注意点

- Windows Vista および Windows Server 2008 へのメイリオ UI フォントの導入について

既にメイリオ フォントが導入されている Windows Vista および Windows Server 2008 に Office 2010 を導入した場合、メイリオ UI フォントは導入されません。メイリオ UI フォントは Windows 7 および Office 2010 で新たに追加されたフォントなので、メイリオ フォントをもとにウィンドウやボタンなどのユーザー インターフェイス部品で利用することを目的として再デザインされています。リボンや Backstage ビューにおける日本語テキストの表示に最適化されているため、Windows Vista および Windows Server 2008 を利用しているユーザーにはメイリオ UI フォントの導入を推奨いたします。また、元々メイリオフォントが導入されていない Windows XP に対しては、Office 2010 をインストールすると、メイリオ UI フォントがインストールされ、利用することができます。

Windows Vista および Windows Server 2008 のメイリオ UI フォントの導入に関しては、以下を参照してください。

- ➔ 「Windows Vista および Windows Server 2008 向けメイリオフォントコレクション アップデート」
<http://support.microsoft.com/kb/975929/ja>

- 導入されていないフォントを使用したドキュメントについて
導入されていないフォントを使用したドキュメントを開いた場合は、類似の代替フォントで表示されます。たとえば、メイリオ UI フォントを使用したドキュメントをメイリオ UI フォントが導入されていない Windows XP、Office 2003 で開いた場合、MS P ゴシックで表示されます。

Internet Explorer での Microsoft Office 2010 ドキュメントの表示について

Internet Explorer 7 または Internet Explorer 8 で Office 2010 のドキュメントを表示すると、新しいウィンドウが開くことがあります。レジストリを設定を変更することにより、従来の Internet Explorer の様に同じウィンドウ内でドキュメントを開くことができます。詳しくは以下を参照してください。

➔ 「Windows Internet Explorer 7 または Internet Explorer 8 で Office 2007 プログラムのドキュメントを表示すると新しいウィンドウが開く」(Office 2007 時点の情報)

<http://support.microsoft.com/kb/927009>

まとめ

Office 2010 では、Office 2007 から採用された新しい Open XML 形式と同時に、Office 2003 以前のバージョンの Office と同様のファイル形式をサポートしています。これによって、Office 2010 と Office 2003 以前のバージョンの Office が混在する環境においても、ファイルの相互利用が可能です。

Office 2010 で Office 2003 以前のバージョンの Office で作成したファイルを開くと、互換モードが有効となり、ファイルの編集が可能となります。また、Office 97-2003 互換形式で保存する場合、互換性チェック機能によって、影響がでる可能性がある機能の一覧が表示されます。一方、Office 2003 以前のバージョンの Office においては、Office 互換機能パックを導入することで、Office 2010 の Open XML 形式で作成されたファイルを利用可能となります。

Office 2010 で Office 2003 以前のバージョンの Office で作成したファイルを開く場合、互換モードを利用していても、描画エンジンの差や、機能アップデート、テキスト レイアウト エンジンの変更などの関係で、改行位置のずれや、イメージの見た目の違いなどが生じることがあります。

本ドキュメントでは、現在判明しているファイル互換時の問題点と、それに関連する Office 2010 の機能変更点について説明してきました。組織内で Office のバージョンが混在し、ファイルの相互利用が行われる際などに参考にしてください。

洗練された多彩な描画表現、編集作業の効率化、堅牢なセキュリティなどの Office 2010 の新機能を、ビジネスにおいて十分にご活用ください。

その他の詳細情報

この章では、追加情報、および外部資料を紹介します。

Office 互換機能パックでの機能制限

以下の表は、Word 2010、Excel 2010、および PowerPoint 2010 で作成したファイルを、以前のバージョンの Office アプリケーションで Office 互換機能パックを使用して開いた場合の機能制限について記載しています。

Word 2010

Word 2010 の要素	以前のバージョンの Word で開いたときの变化
数式	グラフィックに変換され、編集できなくなります。
テーマ	スタイルに変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、テーマを使ってスタイルを自動的に更新することはできません。
テーマの色	スタイルに変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、テーマの色を使ってスタイルを自動的に更新することはできません。
テーマのフォント	スタイルに変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、テーマのフォントを使ってスタイルを自動的に更新することはできません。
テーマの効果	スタイルに変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、テーマの効果を使ってスタイルを自動的に更新することはできません。
コンテンツコントロールの プレースホルダー文字列	固定テキストに変換され、元に戻すことはできません。
移動履歴	削除箇所、または挿入箇所に変換され、元に戻すことはできません。
見出しと本文のフォント	固定書式に変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、異なるスタイルを使用している場合は、見出しと本文のフォントは自動的に更新されません。
相対位置で指定したテキストボックス	絶対位置に変換され、元に戻すことはできません。

Word 2010 の要素	以前のバージョンの Word で開いたときの変化
余白	絶対位置に変換され、元に戻すことはできません。 後から同じファイルを Word 2010 で開いても、異なるスタイルを使用している場合は、余白は自動的に更新されません。
文献目録	固定テキストに変換され、元に戻すことはできません。
引用文献	固定テキストに変換され、元に戻すことはできません。
引用文献のプレースホルダー文字列	固定テキストに変換され、元に戻すことはできません。
OfficeArt 2007	すべての OfficeArt 2010 オブジェクトが、Office 97t 207 戻オブジェクトに変換されます。 後から同じファイルを Word 2010 で開いた場合は、再び OfficeArt 2010 オブジェクトとして編集することができます。ユーザーが Word 2010 で SmartArt を選択する際には、Word 2003 のギャラリーも表示されます。
SmartArt ダイアグラム	グラフィックに変換され、編集できなくなります。 以前のバージョンの Excel で編集しない限りブック内でそのまま保持され、後から同じファイルを Word 2010 で開いた場合は、再び SmartArt として編集することができます。ユーザーが Word 2010 で SmartArt を選択する際には、Word 2003 のギャラリーも表示されます。
カスタム XML データストア	XML データストアは削除されます。 データストア内の XML データと内容は、固定テキストに変換され、元に戻すことはできません。
テキストボックス内の垂直方向の配置	テキストボックス内で、垂直方向の中央に揃えられていた文字列や下端に揃えられていた文字列は、上端に揃えられます。 後から同じファイルを Word 2010 形式に変換しても元に戻りません。
グラフ	グラフは、Excel OLE オブジェクトに変換されます。 以前のバージョンの Excel で編集しない限りブック内でそのまま保持され、後から同じファイルを Word 2010 で開いた場合は、再びグラフとして編集することができます。ユーザーが Word 2010 でグラフを選択する際には、Word 2003 のギャラリーも表示されます。
ActiveX	以前のバージョンの Word で機能を実現できない ActiveX コントロールは、グラフィックに変換されます。

表：Office 互換機能パックで影響を受ける Word 2010 の機能

➤ Excel 2010

Excel 2010 の要素	以前のバージョンの Excel で開いたときの变化
複数シートを参照する配列数式の個数	以前のバージョンの Excel での上限を超える場合、配列数式の一部は保存されず、#VALUE! エラーに変換されます。
数式に含まれる値、参照、または名前の文字列長	文字列長が 8,193 文字以上の数式は保存されず、#VALUE! エラーに変換されます。 Excel 2010 では、数式の文字列長は 8,192 文字まで、数式の内部の長さは 16,384 バイトまでとなっています。以前のバージョンの Excel では、数式の文字列長は 1,024 文字まで、数式の内部の長さは 1,800 バイトまでの制限があります。
数式のネストレベル数	ネストレベル数が 8 以上の数式は保存されず、#VALUE! エラーに変換されます。 Excel 2010 では、数式を 64 レベルまでネストできますが、以前のバージョンの Excel では、7 レベルまでしかネストできません。
関数の引数の個数	1 つの関数に 31 個以上の引数がある数式は保存されず、#VALUE! エラーに変換されます。 Excel 2010 では、数式に 255 個まで引数を含めることができますが、以前のバージョンの Excel では、30 個までに制限されています。
数式で使用されているオペランドの個数	41 個以上のオペランドを使用している数式は保存されず、#VALUE! エラーに変換されます。 Excel 2010 では、数式内で使用できるオペランドは、1,024 個までとなっていますが、以前のバージョンの Excel では、数式内のオペランドの上限は 40 個までとなっています。
中間レベルが折りたたまれているピボットテーブル	ピボットは静的なデータとして保存されます。 Excel 2010 では、中間レベルを非表示とすることができますが、以前のバージョンの Excel では、上部のデータまですべて非表示になります。
256 列 x 65,536 行の範囲外にあるデータ	以前のバージョンの Excel で扱える範囲外にあるセル内のデータは失われます。また、範囲外にあるデータを参照している数式は、#REF! エラーを返します。 Excel 2010 では、シートのサイズが 16,384 列 x 1,048,576 行となっていますが、以前のバージョンの Excel では、256 列 x 65,536 行までしか扱えません。
4 つ以上の条件がついた条件付き書式	4 つ以上の条件がついた条件付き書式は表現されません。 Excel 2010 では、セルごとに 20 個の条件を付与できますが、以前のバージョンの Excel では、3 個の条件までのサポートになります。

Excel 2010 の要素	以前のバージョンの Excel で開いたときの变化
データバー、カラー スケール、アイコン セットなどの条件付き書式	<p>次のような新しい条件による条件付き書式は表現されません。</p> <ul style="list-style-type: none"> カラー スケール データバー アイコン セット 上位、または下位に入る値 平均より上、または下の値 一意の値、または重複する値 <p>テーブルの列を比較して、書式設定するセルを決定</p> <p>以前のバージョンの Excel には、データバー、カラー スケール、またはアイコン セットなどの条件付き書式はありませんでした。すべての条件付き書式のルールは、以前のバージョンの Excel で編集しない限りブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p>
[条件を満たす場合は停止] オプションがオフになっている条件付き書式	<p>このオプションは認識されず、最初に満たされた条件の後で停止されます。</p> <p>Excel 2010 では、条件が満たされた場合に停止することなく条件付き書式を適用することができます。以前のバージョンの Excel では、条件付き書式について一度条件が満たされると、それ以降は書式が適用されません。</p>
別のシートを参照する条件式	<p>条件は評価されません。</p> <p>Excel 2010 では、別のシートのセルを参照することが可能ですが、以前のバージョンの Excel では、この機能はサポートされていません。</p>
隣接していない範囲に対する条件付き書式	<p>条件付き書式は表現されません。</p> <p>以前のバージョンの Excel では、隣接していないセルに対する条件付き書式には対応していません。</p>
ブック内に 4,051 以上の一意のセル書式がある 注意: 256 列 x 65,536 行の範囲外を含むブック全体を対象とします。	<p>4,051 以上の一意のセル書式は保存されません。</p> <p>Excel 2010 では、一意のセル書式を 64,000 使用することができますが、以前のバージョンの Excel では一意のセル書式は最大で 4,050 しか使用することができません。一意のセル書式には、ブック内で適用される特定の書式の組み合わせすべてが含まれます。</p>
テーブルの集計行に、ユーザー設定の数式、またはテキストが含まれている	<p>そのデータはテーブルなしで表示されます。</p> <p>Excel 2010 では、ユーザー設定の数式やテキストをテーブルの集計行に使用することができます。以前のバージョンの Excel では数式は残りますが、そのセル範囲はテーブルではなくなります。</p>

Excel 2010 の要素	以前のバージョンの Excel で開いたときの变化
<p>ピボットテーブルのフィールドに、32,501 以上の一意のアイテムがある</p>	<p>ピボットは静的なデータとして扱われます。</p> <p>Excel 2010 では、ピボットテーブルのレポートはフィールドごとに 1,048,576 の一意のアイテムをサポートしますが、以前のバージョンの Excel では、32,500 アイテムのみサポートされます。以前のバージョンの Excel では、互換モードで作成されたピボットテーブルのみ機能します。</p>
<p>ピボットテーブルのアイテムの文字数が、256 文字以上である</p>	<p>ピボットは静的なデータとして扱われます。</p> <p>Excel 2010 では、アイテムの文字数 (OLAP 内の MDX 名) は 32,767 文字までサポートしますが、以前のバージョンの Excel では、255 文字のみサポートされます。</p>
<p>RefEdit コントロールに 256 文字以上が含まれる</p>	<p>RefEdit コントロールが機能する場合もありますが、多くの場合は、RefEdit コントロールが動作しません。また、RefEdit コントロールに含まれる数式の全体を見ることはできません。</p> <p>Excel 2010 では、2,000 20 れる数式の文字をサポートしますが、以前のバージョンの Excel では、255 文字のみサポートされます。</p>
<p>配列数式が列全体を参照している</p>	<p>以前のバージョンの Excel で再計算すると変換され、#NUM! エラーが表示される可能性があります。</p> <p>Excel 2010 では、列全体を参照する配列数式をサポートしますが、以前のバージョンの Excel では、この機能はサポートされません。</p>
<p>並べ替え状態に 4 つ以上の条件を使用している</p>	<p>並べ替え状態に 4 つ以上の条件を使用している場合、最初の 3 つの条件しか表示されません。ただし、以前のバージョンの Excel でルールを編集しない限り、すべての条件付き書式のルールはブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、最大で 64 の条件を使用した並べ替え状態を適用してデータを並べ替えることができますが、以前のバージョンの Excel では、並べ替え状態に 3 つまでしか条件を設定できません。</p>
<p>ユーザー設定リストによる並べ替え条件を使用した並べ替え状態が含まれる</p>	<p>並べ替え状態は失われます。</p> <p>ただし、以前のバージョンの Excel で並べ替え状態の情報を編集しない限り、すべての並べ替え状態の情報はブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、多くのユーザー設定リストで並べ替えを行うことができますが、以前のバージョンの Excel では、最初の列において 1 つのユーザー設定リストのみをサポートします。</p>

Excel 2010 の要素	以前のバージョンの Excel で開いたときの变化
書式設定情報を指定する並べ替え条件を使用した並べ替え状態が含まれる	<p>並べ替え状態は失われます。</p> <p>ただし、以前のバージョンの Excel で並べ替え状態の情報を編集しない限り、すべての並べ替え状態の情報はブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、セルの色、フォントの色、アイコン セットなどの特定の書式によってデータを並べ替えることができます。以前のバージョンの Excel では、テキストの並べ替えのみが可能です。</p>
ダイナミックフィルターを適用している	<p>このフィルターによって非表示になっている行は非表示のままとなりますが、このフィルター自体が正しく表示されなくなります。</p> <p>ただし、以前のバージョンの Excel でフィルター状態の情報を編集しない限り、すべてのフィルター状態の情報はブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、「今日」や「最後の月」など、以前のバージョンの Excel ではサポートされないフィルターを適用することができます。</p>
書式によるフィルターを適用している	<p>このフィルターによって非表示になっている行は非表示のままとなりますが、このフィルター自体が正しく表示されなくなります。</p> <p>ただし、以前のバージョンの Excel でフィルター状態の情報を編集しない限り、すべてのフィルター状態の情報はブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、セルの色、フォントの色、またはアイコン セットでフィルターを設定できますが、以前のバージョンの Excel ではサポートされていません。</p>
3 つ以上の条件でフィルターされている	<p>このフィルターによって非表示になっている行は非表示のままとなりますが、このフィルター自体が正しく表示されなくなります。</p> <p>ただし、以前のバージョンの Excel でフィルター状態の情報を編集しない限り、すべてのフィルター状態の情報はブック内でそのまま保持され、再び Excel 2010 でブックを開いた場合は適用されます。</p> <p>Excel 2010 では、オートフィルター一覧から 3 つ以上のアイテムを選択して、複数のフィルター状態を作成することができます。以前のバージョンの Excel では、フィルターに設定できるのは 2 つのアイテムまでです。</p>

表 : Office 互換機能パックで影響を受ける Excel 2010 の機能

➤ PowerPoint 2010

PowerPoint 2010 の要素	以前のバージョンの PowerPoint で開いたときの变化
グラフ (Microsoft Graph グラフを除く)	グラフは OLE オブジェクトに変換されて、編集可能になります。 ただし、以前のバージョンの PowerPoint で編集して PowerPoint 2010 で再度開くと、グラフの表示が変わる場合があります。
カスタム スライド レイアウト	特定の背景や独自の画面切り替えなどを含むカスタム スライド レイアウトは、複数マスタとして表示されます。
ドロップシャドウ	輪郭がぼやけたソフトシャドウを編集可能なハード シャドウに変換します。
数式	数式を編集できない図に変換します。 ただし、変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開くと、数式は再度編集可能になります。
影付き	PowerPoint 2010 で実現された柔らかい影効果は、以前のバージョンの PowerPoint でのぼかしのない影効果に変換されます。
見出しと本文のフォント	見出しと本文のフォントを静的な書式に変換します。 変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開いて別のスタイルを使用しても、見出しと本文のフォントは自動的に変更されません。
図形、図、オブジェクト、アニメーション、新しい効果:	PowerPoint 2010 の次のような新しい視覚機能や効果は、以前のバージョンの PowerPoint では編集できない図に変換されます。 2-D、または 3-D のテキスト 図形、またはテキスト上のグラデーションのアウトライン テキスト上の取り消し線と二重取り消し線 テキスト上のグラデーション、図、および塗りつぶしのテクスチャ 任意の種類オブジェクトに対する影、ぼかし、反射、および大半の 3-D 効果
SmartArt グラフィック	以前のバージョンの PowerPoint では編集できない図に変換されます。
テーマ	テーマはスタイルに変換されます。 変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開いても、テーマを使用してスタイルを自動的に変更することはできません。
テーマの色	テーマの色はスタイルに変換されます。 変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開いても、テーマの色を使用してスタイルを自動的に変更することはできません。

PowerPoint 2010 の要素	以前のバージョンの PowerPoint で開いたときの变化
テーマの効果	テーマの効果はスタイルに変換されます。 変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開いても、テーマの効果を使用してスタイルを自動的に変更することはできません。
テーマのフォント	テーマのフォントはスタイルに変換されます。 変換後のファイルを PowerPoint 2010 で再度開いても、テーマのフォントを使用してスタイルを自動的に変更することはできません。

表：Office 互換機能パックで影響を受ける PowerPoint 2010 の機能

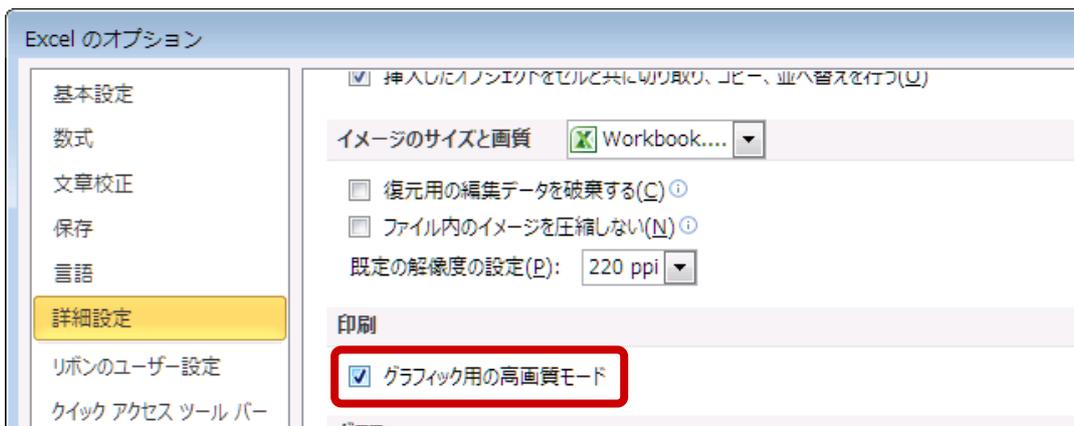
高品質モードでの印刷

ここでは、Excel 2010、および PowerPoint 2010 で高品質モードを使用して印刷する方法を記載します。

➤ Excel 2010 で高品質モードを使用する

Excel 2010 で高品質モードに設定するには、次のように操作します。

1. [ファイル] タブ - [オプション] を選択します。
2. [Excel のオプション] ダイアログ ボックスで、[詳細設定] をクリックし、[印刷] セクションを表示します。
3. [グラフィック用の高画質モード] チェックボックスをオンにし、[OK] をクリックします。



図：[Excel のオプション] ダイアログ ボックス - [詳細設定] - [印刷]

➤ Power Point 2010 で高品質モードを使用する

PowerPoint 2010 で高品質モードに設定するには、次のように操作します。

1. [ファイル] タブ - [オプション] を選択します。
2. [PowerPoint のオプション] ダイアログ ボックスで、[詳細設定] をクリックし、[印刷] セクションを表示します。
3. [高品質で印刷する (すべての影効果も印刷されます)] チェック ボックスをオンにし、[OK] をクリックします。

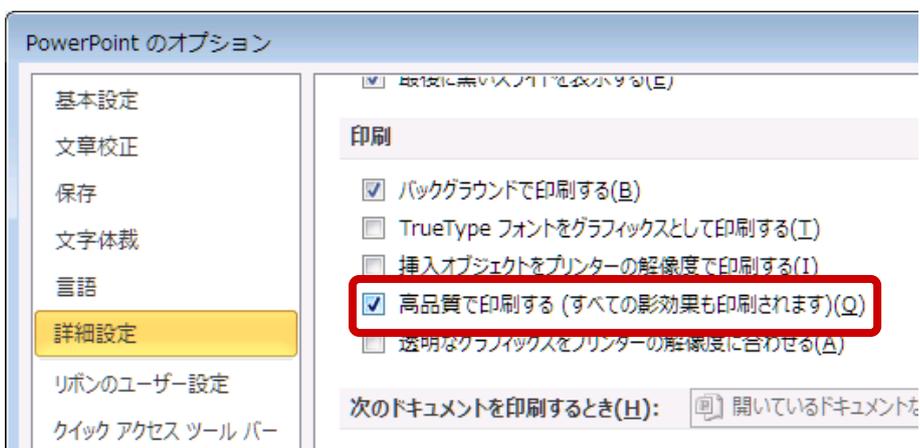


図 : [Power Point のオプション] ダイアログ ボックス - [詳細設定] - [印刷]

参考資料

Office 2010 に関する各種情報は以下を参照してください。

「Microsoft Office system 製品情報」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/products/default.aspx>

「Open XML Formats とファイル名拡張子」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA010354237.aspx>

以下は Office 2010 と、以前のバージョンの Office との互換性に関する情報です。

「以前のバージョンの Word で作成された文書を Word 2010 で開く」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA010368874.aspx>

「Word 2010 文書を以前のバージョンの Word で開く」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA010370115.aspx>

「バージョン間の互換性の変更点」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/word-help/HA010370116.aspx>

「以前のバージョンの Excel で Office Excel 2010 ファイルを使用する」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/excel-help/HA010342994.aspx>

「Excel 2010 で廃止、変更される機能」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/excel-help/HA101811053.aspx>

「PowerPoint 2003 またはそれ以前のバージョンで PowerPoint 2010 のプレゼンテーションを開く」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/powerpoint-help/HA010338391.aspx>

「PowerPoint 2010 のプレゼンテーションを PowerPoint 2003 以前で開くと変更される機能」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/powerpoint-help/HA010338390.aspx>

「別のファイル形式のプレゼンテーションを開いて保存する」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/powerpoint-help/HA010338213.aspx>

「互換性チェック」

<http://office.microsoft.com/ja-jp/powerpoint-help/HA010354750.aspx>

Office 2010 の KB

Office 2010 のファイルフォーマットおよびドキュメントのレイアウトに関する KB の一覧を以下に記載します。

KB 番号	KB タイトル	概要
2121313	Microsoft Office 2010 製品にインストールされている フォント	Microsoft Office 2010 製品をインストールすると、フォントがインストールされます。この資料では、Office 2010 インストールを追加されるフォントについて説明します。

付録 1. Office 互換性チェックリスト

このドキュメントで紹介している互換性に関するチェックポイントを一覧表で紹介します。
ファイルの移行作業を行う際のチェックリストとしてお使いください。

➤ Office 共通

カテゴリー	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
暗号化	Office のバージョンにより、利用できる暗号化形式 (エンジン) が異なる	-	利用可能な暗号化形式	36
暗号化	Office 2010 形式のファイルを開く際に、アンチウイルスソフトが Microsoft Antivirus API に対応していない場合、マクロが無効化される	http://support.microsoft.com/kb/927150/ja	マクロが含まれたファイルが暗号化されている場合の留意点	38
IRM	Office 2003 Viewer、または Office XP 以前のバージョンで Office 互換機能パックを使用している場合、IRM を設定した Office2010 形式のファイルを開くことができない	http://support.microsoft.com/kb/932493/ja	互換性に関する注意事項	40
IRM	Active Directory 内に Rights Management Services (RMS) サーバーが複数存在する場合など、サービス接続ポイント (SCP) が使用不可の場合、使用ライセンス、発行ライセンス、RMS アカウント証明書を要求する RMS サーバーを検出することができない	http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc747614(ws.10).aspx	互換性に関する注意事項	40
グラフ	Office 2010 ではデータがないグラフの、タイトルと凡例が表示されない	http://technet.microsoft.com/ja-jp/library/cc179160(office.12).aspx	グラフ描画の変更点	60
グラフ	Office 2010 ではデータラベルに凡例マーカを表示できない	-	グラフ描画の変更点	60
グラフ	描画エンジンの違いにより、Office 2010 と以前のバージョンの Office では、「自動に設定された目盛りの単位」、「文字の折り返し位置」、「3-D グラフの表示」などが変わる	-	グラフ描画の変更点	60
グラフ	以前の Office のバージョンで作成したグラフを含むファイルを Office 2010 で開いた場合、グラフ軸の目盛り・色が変わる場合がある	-	Word2010、Excel2010、PowerPoint2010 共通の留意点	90
ファイルサイズ	Office 2010 で「Office 97-2003 互換形式」でファイルを保存した場合、以前のバージョンの Office で保存したファイルよりもサイズが大きくなる	-	ファイルサイズについて	67

カテゴリー	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
描画	Office 2010 で強化された描画オブジェクトを含むファイルを、以前のバージョンの Office で開いた場合、画像オブジェクトとして表示される	-	描画エンジンによる影響	67
描画	Office 2010 と以前のバージョンの Office では、「定義済みの 3-D スタイル」や「影効果の既定値」が異なる	-	オブジェクトのデザインへの影響	68
描画	Office 2010 と以前のバージョンの Office では、グラデーションの表現力と設定方法が異なる	-	オブジェクトのデザインへの影響	68
描画	Office 2010 と以前のバージョンの Office では、「線の先端」や「吹き出し」などの図形が若干異なる	http://support.microsoft.com/kb/939729/ja	オブジェクトのデザインへの影響	68
描画	線の結合点の既定値が、Office2010 と以前のバージョンの Office で異なる	-	オブジェクトのデザインへの影響	68
描画	円柱の円周部分の角度が調整値: 0 に設定されていると、塗りつぶしの形状が変化する現象が発生する	-	オブジェクトのデザインへの影響	68
描画	異なる Office バージョンが共存する環境でファイルの編集を行う場合、描画エンジンの違いにより、表示や動作が変化する	-	ワードアートへの影響	76
レイアウト	Office2010 と以前のバージョンの Office では、テキストボックス内の改行位置が異なる場合がある	-	テキストのレイアウトへの影響	82
フォント	Office2010 では、タブや改行などのコントロール文字が欧文フォントで表示される	http://support.microsoft.com/kb/937785/JA	Word 2010、Excel 2010、PowerPoint 2010 共通の注意点	90
フォント ・ 文字コード	Windows Vista の JIS 2004 対応による注意点	http://www.microsoft.com/japan/office/2007/compatible/JIS2004/default.mspx	Microsoft Office 2010 の JIS 2004 対応状況と注意点	113
フォント ・ 文字コード	JIS2004 で追加された文字等を含む変換候補が表示されるときに、Windows XPなどで、中点(・)が表示されることがある	http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis04/default.mspx	文字入力時の注意事項	115

➤ Word

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
互換機能 パック	Word 2010 形式で保存したファイルを、以前のバージョンの Word で互換機能パックを使用して開くと、特定のフォントが変わる	http://support.microsoft.com/kb/937785/JA	Office 互換機能パック利用時の注意点	19
			Word の注意点	19
互換機能 パック	Word 2010 形式で保存したファイルを、以前のバージョンの Word で互換機能パックを使用して開くと、文書保護パスワードが失われる	http://support.microsoft.com/kb/935282/ja	Office 互換機能パック利用時の注意点	19
			Word の注意点	19
互換機能 パック	Word 2010 形式で保存したファイルを、以前のバージョンの Word で互換機能パックを使用して開くと、図形の表示位置が変化する場合がある	-	Office 互換機能パック利用時の注意点	19
			Word の注意点	19
互換機能 パック	Word 2010 形式で保存したファイルを、以前のバージョンの Word で互換機能パックを使用して開くと、円グラフが欠けて表示される場合がある	-	Office 互換機能パック利用時の注意点	19
			Word の注意点	19
互換機能 パック	Word 2010 形式で保存したファイルを、以前のバージョンの Word で互換機能パックを使用して開くと、改ページの上に改行が追加される場合がある	http://support.microsoft.com/kb/923183/ja	Office 互換機能パック利用時の注意点	19
			Word の注意点	19
テキスト ボックス	Word 2010 で作成したテキストボックス、WordArt を Word 97 – 2003 形式で保存して、Word 2003 以前で開いた場合、高さが広がってしまう	-	Word の注意点	19
レイアウト	Word 2010 と以前のバージョンの Word では、本文行末の改行位置が異なる場合がある	-	テキストのレイアウトへの影響	82
テーマ	Word 2010 では、以前のバージョンで作成された HTML ベースのテーマは表示のみできる	-	Word 2010 の注意点	92
描画	Word 2007 で作成したファイルを Word 2010 で開いたとき、ファイルに含まれている SmartArt の位置が変化する場合がある	-	Word 2010 の注意点	92
レイアウト	以前のバージョンの Word で設定したファイルに、シェイプの折り返しを外周かつ両側で設定したオブジェクトが含まれるとき、ファイルを Word 2010 で開いて Open XML 形式で保存したとき、折り返し地点が異なって表示される	-	Word 2010 の注意点	92
フォント ・ 行間	Word 2003、Word 2010 で、Windows Vista に搭載されたメイリオフォントを本文に使用したときに、行間が広くなる	http://office.microsoft.com/ja-jp/word/HA102058201041.aspx	メイリオフォントの利用について	119

➤ Excel

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
互換機能 パック	Excel 2010 で作成した共有ブックを、以前のバージョンの Excel で互換機能パックを使用して開くと、読み取り専用になる。また変更履歴が見られない	–	Excel,PowerPoint の注意点	23
互換機能 パック	Excel 2010 で作成したファイルを、以前のバージョンの Excel で、互換機能パックを使用して開くと、外部のオブジェクトへのリンク情報が失われる	–	Excel,PowerPoint の注意点	23
ピボット グラフ ・ コンボボッ クス	Office 互換機能パックを使用した Excel 2003、Excel 2002、および Excel 2000 で作成したファイルを Excel 2010 で開き、Open XML 形式のファイルで保存後、再度 Excel 2003、Excel 2002、および Excel 2000 で保存したファイルを開いた場合、ピボットグラフのコンボ ボックスが失われる	http://support.microsoft.com/kb/983268/ja	ExcelPowerPoint の注意点	23
描画	以前のバージョンの Excel で作成した、ワードアートを含むファイルを、Excel 2010 で開くと、縦書きだった英数字が横書きに変換される、	http://support.microsoft.com/kb/939730/ja	ワードアートへの影響	76
描画	以前のバージョンの Excel で作成した図形やワードアートを Excel 2010 で編集して保存すると、以前のバージョンの Excel で開いたときに画像になる	–	ワードアートへの影響	76
グラフ	以前のバージョンの Excel で作成したピボットグラフを Excel 2010 で編集して保存すると、以前のバージョンの Excel で開いたときに周囲に点線が追加されている	–	グラフのスタイル	87
グラフ	Excel 2007 で、日付を軸とするグラフが含まれるファイルを作成した場合、Excel 2010 でそのファイルを開くと、グラフ軸の表示形式が異なっている場合がある	–	Excel 2010 の注意点	95
対話機能付 き HTML	Excel 2010 では、以前のバージョンの Excel で作成した HTML ファイルを開いたり、Web ページとして保存することはできるが、Office Web コンポーネントの機能を利用した HTML ページの生成はできない	–	Excel 2010 の注意点	95
テキスト ボックス	Excel 2007 で、変形の効果を加えた縦書きテキストボックスが含まれるファイルを作成した場合、Excel 2010 でそのファイルを開くと、文字位置やスタイルの表示が異なっている場合がある。	–	Excel 2010 の注意点	95

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
カラーパレット	以前のバージョンの Excel と Excel 2010 では、カラーパレット上の色が異なるため、表示に差異がある	http://support.microsoft.com/kb/953536/ja	<u>Excel 2010 の注意点</u>	95
文字コード	Excel 2010 で「表示形式：通貨」で先頭に「¥」マークを含むデータを作成し、CSV 形式で保存した場合、円（通貨記号）が「？」に変換される	—	<u>Excel 2010 の注意点</u>	95
文字コード	Shift JIS コードが存在しない文字がある場合に、文字列データ関数が期待通りの結果を表示しない	—	<u>Excel での制限事項</u>	115

➤ Power Point

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
互換機能 バック	PowerPoint 2010 で作成したファイルを、以前のバージョンの PowerPoint で、互換機能パックを使用して開くと、外部のオブジェクトへのリンク情報が失われる	–	Excel, PowerPoint の注意点	23
描画	以前のバージョンの PowerPoint で作成した、ワードアートを含むファイルを、PowerPoint 2010 で開くと、縦書きだった英数字が横書きに変換される	http://support.microsoft.com/kb/939730/ja	ワードアートへの影響	76
描画	以前のバージョンの PowerPoint で作成した図形やワードアートを PowerPoint 2010 で編集し保存すると、以前のバージョンの Excel で開いた際に画像になる	–	ワードアートへの影響	76
フォント	以前のバージョンの PowerPoint では、代替フォントとして欧文文字用のフォントである Arial が利用される	–	PowerPoint 2010 の注意点	99
フォント	PowerPoint 2010 では、Excel からコピー & ペーストされた文字列のうち、英数字以外に適用されているフォント情報が失われ、MS P ゴシックで表示される。	–	PowerPoint 2010 の注意点	99
テキスト ボックス	PowerPoint 2007 で、変形の効果を加えた縦書きテキストボックスが含まれるファイルを作成した場合、PowerPoint 2010 でそのファイルを開くと、文字位置やスタイルの表示が異なっている場合がある。	–	PowerPoint 2010 の注意点	99
コメント ・ テキスト ボックス	PowerPoint 2000 以前で作成されたファイルを PowerPoint 2002 以降で開くと、コメントがテキストボックスに変換され、コメントオブジェクトとしては編集できなくなる	http://support.microsoft.com/kb/933438/ja	PowerPoint 2010 の注意点	99
フッター ・ テキスト ボックス	PowerPoint 2010 で Office 97-2003 互換形式にファイルを保存すると、フッターはページ番号や日付の挿入されたテキストボックスとして保存される	http://support.microsoft.com/kb/932249/ja	PowerPoint 2010 の注意点	99
組織図	以前のバージョンの Office で作成したファイル内の組織図オブジェクトを、Office 2010 で開いて SmartArt に変換すると、以前のバージョンの Office では編集できなくなる	–	PowerPoint 2010 の注意点	99

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
マスター ・ レイアウト	以前のバージョンの PowerPoint で作成したファイルを PowerPoint 2010 で読み込み、Office 97-2003 互換形式で保存すると、マスタはレイアウト情報のない白紙のレイアウトになる	-	PowerPoint 2010 の注意点	99
タイトル レイアウト	以前のバージョンの PowerPoint のファイルでタイトルレイアウトが指定されているスライドを PowerPoint 2010 で読み込み保存すると、以前のバージョンの PowerPoint でタイトルマスタを選択編集することはできない	http://support.microsoft.com/kb/932580/ja	PowerPoint 2010 の注意点	99
アニメーション	PowerPoint 2002 以降、アニメーション機能が大幅に拡張され、設定方法、効果名や設定値が変わったものがある	http://support.microsoft.com/kb/933440/ja	PowerPoint 2010 の注意点	99
動作設定 ボタン	PowerPoint 2010 と以前のバージョンの PowerPoint では、「動作設定ボタン」のスタイルの既定値が異なる	-	PowerPoint 2010 の注意点	99
行間指定	PowerPoint 2010 と以前のバージョンの PowerPoint では、行間の指定単位が異なる	-	PowerPoint 2010 の注意点	99

➤ Access

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
ファイル 形式	Access 2010 でレポートを含む 2002 - 2003 形式で保存したファイルを、Access 2003 で開くことができない	-	Access のファイル形式における注意点	26

➤ OneNote

カテゴリ	現象	関連リンク	本文内の説明	ページ
ファイル 形式	OneNote 2003 ノートブックの各ページの上部に表示される情報バーをクリックすることで、OneNote 2003 のノート編集可能なまま、OneNote 2010 形式にアップグレードできる。	-	OneNote のファイル形式について	27



このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。変化する市場状況に対応する必要があるため、このドキュメントは、記載された内容の実現に関するマイクロソフトの確約とはみなされないものとします。また、発行以降に発表される情報の正確性に関して、マイクロソフトはいかなる保証もいたしません。このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点における製品を表したもので、計画のためにのみ使用してください。情報は、将来予告なしに変更することがあります。

© 2010 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft、Office、Office ロゴ、Microsoft Office 2010、Office 2007、Office 97、Office 2000、Office XP、Office 2003、Word、Excel、PowerPoint、Access、InfoPath、Outlook、Visio、Visual Basic、MSDN、SharePoint、IntelliSense、Windows、Windows 2000、Windows XP、Windows Vista、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。